

設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

■建学の精神に基づく次への発展

本学園の建学の精神を「高潔善美」とするのは、西澤之助が人の道の真髄である「高潔善美」を行動規範とし、「固き心を以て、やさしき行いをせよ」と説き、女性の社会的地位が不当なまでに低かった時代において、自立した女性を育成するために明治 33（1900）年に日本女学校を設立したことに、本学の淵源は遡るからである。これを母体として、明治 42(1909)年に開設した帝国女子専門学校が、第2次大戦後、神奈川県相模原市において新制相模女子大学として昭和 24 年(1949 年)に再出発し、現在、学芸学部（日本語日本文学科・英語文化コミュニケーション学科・子ども教育学科・メディア情報学科）、人間社会学部（社会マネジメント学科・人間心理学科）、栄養科学部（健康栄養学科・管理栄養学科）、大学院（栄養科学研究科）の 3 学部 8 学科、大学院 1 研究科を設置している。創立者の先進的な行動力が、日本女学校から数えると 110 年を過ぎた現在に至るまで脈々と受け継がれている本学は、女子高等教育機関の草分け的存在である。

同一の学校法人が併設する短期大学部は、昭和 26 年(1951 年)の開設である。職業又は实际生活に必要な能力を育成し、教養を備えた女性を社会に送り出すことを目的とし、実際にそのような人材を多年に亘って輩出してきた。学科の構成に変遷があるが、現在において、生活デザイン学科、食物栄養学科の 2 学科を設置している。

近年、18 歳人口は約 120 万人で推移している。少子化が、4 年制大学志向の高まりで、短期大学に大きく影響していることは周知のとおりである。短期大学の学校数は平成 8 年度 598 校（国立 33 校、公立 63 校、私立 502 校）が平成 23 年度では 388 校（国立 0 校、公立 24 校、私立 364 校）と 210 校（国立 33 校、公立 39 校、私立 138 校）も減少しており、入学定員数も 194,080 人（国立 3,365 人、公立 9,950 人、私立 180,765 人）から 75,849 人（国立 0 人、公立 3,435 人、私立 72,414 人）と 118,231 人（国立 3,365 人、公立 6,515 人、私立 108,351 人）（60.9%）も減少している。学生の志願者倍率、入学定員充足率等にも、それは現れている。短期大学が大変厳しい環境下に置かれていることは、本学短期大学部も例外ではないが、此の度短期大学部生活デザイン学科の四年制大学への改編を行おうとする企図は、必ずしも短期大学の消長の問題に帰せられるものではない。デザインの専門性を活かし、日々の生活の身近なところから生活者の発想で、環境、モノ、情報をクリエイト、コーディネートすることにより社会に貢献できる人材の育成を、家政・生活科学系デザイン教育が目指すことは今後も変わらないとして、ただ、生活者、社会人として自立する上で必要な、教養教育を併せた総合的な教育を行うには、2 年の課程では不十分に過ぎることを予て痛感している。

新生活デザイン学科の設置は、開設以来の理念を受け継ぎながら、デザインの専門教育と人文科学系の学問を中心に総合的な知識・教養をベースにしつつ、女性の資質を社会に生かす人材の育成という観点から学芸学部新たに一学科を加えようとするものである。本学短期大学部生活デザイン学科を、リベラルアーツを標榜する学芸学部の所属とすることで、より充実した教育内容と時間が可能となり、短期大学部での蓄積を受け継ぎ、生活者としての視点で、社会を的確に捉え、読み解く力を養うと共に、社会での自立を目標に幅広い知識や教養を身に付け、人の生活を基盤とした生活のしくみ、環境、情報、モノをデザインする力を養い、クリエイションを通して社会で活躍できる人材を育成することによって、社会的使命を果たしたいと思料する。

以下、生活デザイン学科の理念、設置の必要性、目的などについて述べる。

■学科の理念と短期大学から四年制への必要性

今日的なデザインという概念が造形と結びついたのは、産業革命が生活に具体的に係わってきた19世紀後半のころからと言われている。

産業におけるものづくりは時代と共に発展し、その時代時代の経済構造、科学・技術、社会や環境と人との係わりにより、さまざまなスタイルやムーブメントを生みながらデザインの概念を築き上げてきた。そしてコンピュータの誕生や、ますます進歩する科学・技術により、デザインはさらにその概念を変えながら進化している。その流れの中においても、その時代における人と社会と生活環境との係わりを円滑にするための創造が、デザインの普遍のテーマである。

すなわち、デザインは、人と、自然環境、産業、経済、科学・技術の調和を図り、人と社会と生活環境の円滑な係わりを創出することが目的である。

そのようにして築き上げられてきたデザインは、今日ではより多くの情報と知識をもって問題を解決する必要から、より高度な専門性を要求され、領域に細分化されている。しかし、こうしたデザイン領域の細分化、専門化の傾向は、デザインの高等教育を受けた人材を細分化されたデザイン領域に取り込むことによって、高度な技術に裏付けられた優れたデザインを可能にする一方、デザインの総合性を見失わせる傾向が否めない。その結果、これらの人材の力が日常の身近な小さいことがらに向かいにくく、デザインを非日常的なハレのものとして日常の生活から距離のあるものにし、デザイン本来の目的である社会全体を視野においての人と社会と生活環境の円滑な係わりを創出する根底となる力を脆弱にする傾向がある。デザインの創出だけではなく、デザインの享受もまた限定的になってしまっているのである。

デザインの専門性と総合性の融合は、専門性の高い各デザイン領域で革新的なデザインを生み出す前提となるだけでなく、生活とは本来的に総合的・包括的なものであることから、身近な生活の豊かさの追求においても特に重要となる。デザインを日常の場に取り戻すことが必要になっているのである。また、経済構造や科学・技術の発展と共に、人々の生活が変化し、ますます多様化され、それに伴ってデザイン領域が拡大されている現状に

において、それぞれの領域を超えて発想することも求められ、専門性を軸にしながらも総合的な視野に立った包括的なデザインの在り方が重要になってきている。

さらに、デザインが意思と意図をもってカタチを決定することであることを考えれば、特定領域の専門的な鍛練を通して培ったデザインの発想力・思考力は、一般教養を併せて深めることによって、総合的な観点から生活の全領域にわたってバランスのとれた豊かさを見出す能力となる。これは、デザインの各領域で専門的な職業に就く場合のみならず、一般的な職業に就いた場合においても、また生活者としても、豊かな生活を創出する力として期待されるものであると考える。

本学でのデザイン教育は、短期大学の中で家政学として住居学、被服学を中心に、金工デザイン、プロダクトデザインを取り入れながら、生活に関わる身近な問題を解決し豊かな生活の向上を目指すデザインの創出を目的に、デザインの専門性を深める方向で展開してきた。

そして、平成20（2008）年の学科改編では、生活に密着したところからデザインを読み解き、デザインとしての専門性を深化させながらもデザインを幅広く学べる学科として、今日の日常の暮らしをクリエイト、コーディネートするデザイン教育の特色を明確化し質を向上させることを目標に、WebデザインやCG表現などのデジタルデザイン領域と、イラストレーションを軸とするグラフィックデザインや絵本デザインを含む視覚デザイン領域を新たに設け、「生活デザイン学科」と名称変更した。この二つの視覚デザイン領域を設けることによって、これまでの住居すなわち環境のデザイン、衣服、染織、金工、プロダクトデザインの生産のデザインと呼ばれる2領域に、デザインの要素として必須であるコミュニケーション（情報・伝達）デザイン領域を加え、幅広くデザインを学べる環境を整えることができた。

この改編では、インターンシップの導入、海外研修およびチャレンジショップの設立・運営を中心とした地域との連携、企業や行政との連携によるデザインプロジェクトなど、デザインを社会から学ぶことを目標にさまざまなかたちで実践的にデザインプロセスを経験する試みを行い、成果をあげ成功している。

しかし、視覚デザイン領域を増やしなおかつデザインを幅広く教育するには、カリキュラム上の窮屈が生じることはある程度予想していたことではあるが、現実として短期大学の2年間ではカリキュラムに限界が生じている。生活を基盤とした身近なデザインを生活者からの発想でクリエイト、コーディネートできる、社会に通用する人材を育成することを目標にカリキュラムを組むにも、カリキュラムに特色を持たせる時間的余裕に乏しい。社会人としての自立に必須となる一般知識や教養とともにデザイン各領域の専門的知識や技術を修得し、総合的な視点からのデザイン表現を会得するにも、十分な時間とは言えない。デザイン教育の高い質を維持し、大学での教育成果を実社会で活かすことが出来る多くの人材を育成するのには、2年間という時間では不十分である。

この状況は、短期大学の本学科でデザインを学び卒業した後、商品開発やデザインの専門知識を活かした何らかの職に就く者が皆無ではないが希であることから明らかである。

そうした専門的な職に就くのは、本学科卒業後、美術系や専門分野の大学に進学しより高度な実践技術を修得した者であるのが殆どである。

以上の経緯から、デザインにおける専門性と総合性を融合させて、日常の暮らしを、本来あるべきカタチとして、生活者からの発想で生活の中からデザインを実践し、クリエイションを通して社会で活躍できる人材を育成するデザイン教育の実現を目指し、本短期大学部での生活デザイン学科を発展的に改編し、四年制大学への移行を図ることとした。

本学科の四年制学科としての設置目的は、生活者としての視点で、社会を的確に捉え読み解く力とコミュニケーション能力を養うと共に、社会での自立を目標に幅広い知識や教養を身に付け、意思と意図を持って適正化されたカタチを決定するデザインの発想・思考の方法を、デザイン領域を超えて総合的に修得し、文化としての新たな生活のしくみ、環境、情報、モノをデザインする力を養い、生活に密着した身近なところからのクリエイションを通して社会で活躍できる人材を育成することである。

■教育研究上の目的

短期大学部での生活デザイン学科は、「身の回りの環境やモノを通してデザインを実践的に追究し、生活と心を豊かにするデザインを読み解く能力と表現力を養い、今日の生活に関わるデザインをクリエイト、コーディネートできる人材を育成する。」ことを学科の教育目的とし、「デザインの基礎を学びデザインを知ることからはじめ、デザインの専門領域を理解し、多様なデザインの表現手段の獲得と、デザインの総合性の深化を図り、知性と感性をクロスオーバーさせながら個性豊かな創造力を育成する」カリキュラム構成としてきた。四年制においても基本的にはこれを踏襲するものであり、教育内容をさらに充実させることによって社会でデザインを実践する具体的機会を増やすことを目指す。

デザインが生活から生まれることは言うまでも無いが、一つのデザインを生み出すことは、日々生活する中で、社会的状況（産業構造、経済構造、環境）と科学・技術、情報などを総合的に捉え、そのなかから価値や課題を見出し、社会に対して開かれた形で解決策を具現化することである。

中でも身近で有用なデザイン提案を行う「生活デザイン」の教育にあっては、デザイン領域を特定せず、生活者としての受信側の総合的視点を出発点としたデザインの教育を目指す。多くの美術系教育機関に見られる、デザイン領域を特定し生産者としてより高度な専門性が求められる発信側の視点を重視したデザイン教育とは、異なる教育課程と目標を持つものとする。

本学科での四年制における「生活デザイン」の教育課程を通して、デザインの三領域とされデザインの要素として必須である環境のデザイン、生産のデザイン、コミュニケーション（情報・伝達）のデザインの知識と表現技術とともに、課題を把握し解を提案する基本的発想力、構想力、発信力を持つ人材を育成する。さらにデザインの実践にあたってその前提として要請され、社会人としての自立にも求められる幅広い一般的知識や教養を備え、生活する中での身近な疑問から生まれるさまざまな課題に対して十分な理解と認識に

基づいて解決方法や理念を組立て、的確なコミュニケーション、プレゼンテーションを通して生活をより豊かにする具体的な価値やカタチを実現できる人材を育成することを学科の教育目的とする。

生活の急速な変化と多様化、デザイン領域の細分化と高度な専門化によって、デザインが日常生活全般の豊かさの向上に必ずしも有効に貢献できず、デザインの質とレベルの偏在が起きてしまっている。ともすれば、資本を掛けた質の高いデザインが一部の限られた対象にだけ偏在し、生活に身近にある、資本を掛けるまでもない小さなものの多くに、未だ良いデザインとされるものが不在である社会が構成されていることも否めない。生活の質と豊かさが総合的な形で満たされにくい構造となっているのである。この状況に対し、本学科の掲げる教育理念はもう一度デザインの包括的・統合的な役割を問い直すものである。

時代背景を伴うモリスの思想であるレッサーアーツ（Lesser Arts・小芸術）は、「大衆の日常生活の身のまわりのものを、実用性と有用性とともに美しくすること」として捉えられている。このレッサーアーツは、幅広い分野にわたって生活全般を包括するものとして実践された。このレッサーという概念を借りて、「レッサーデザイン」ともいうべきデザインの姿勢をもって、既存のデザインの領域や業界特有の概念の枠を超えて、良質のデザインを遍在させることを目標とする今日のデザインを、ここでは「生活デザイン」と呼ぶ。

この「生活デザイン」を、建築、室内、ファッション、テキスタイル、プロダクト、デジタルデザイン、イラストレーションとグラフィックの各デザインを専門とする教員が連携して新しいデザインの領域として構築し、さらに、「生活デザイン」に習熟し生活の場でデザインの質の向上に普遍的に寄与できる人材を社会に送り出す教育課程を確立すること、さらにはそのことによって結果としてデザインの裾野を広げ、良質なモノづくりを支える社会的背景の形成に寄与し、良質のデザインを社会に遍在させる一助とすることを学科の研究目的とする。

■人材育成の方針

先述のように今日、実社会では科学・技術の進歩と産業・経済構造の変化に伴い、新しい概念をもった製品やサービスが次々に生まれている。デザインの現場においてもその業務内容はますます高度に専門化、分業化されており、その結果、日々の生活に良質のデザインがいきわたりにくい社会構造となっている。

日々の生活において良いデザインとされるものを遍在させ、ホリスティックなものとして生活の豊かさを取り戻すには、人、環境、モノすべてを対象に、生活の身近にある疑問に対して、デザイン領域を横断する広い視野をもって、最も生活に必要なこととして問題意識を持つことから始めなければならない。そして、生活者側の視点で生活者と生産者をつなぎつつ、新しい価値や概念を創出し、解決策を身近な生活のデザインとして具体的に提案していかなければならない。つまり、「レッサーデザイン」の姿勢を以って、デザインの専門領域に閉じこもらず幅広い視野でデザインに係る人材、いわば「生活デザイン」の

スペシャリストを育成することで良いデザインを遍在させることが可能となるのである。

本学科は、卒業後の受け入れ先である実社会へ広く教育内容を還元するデザイン教育の一つの領域として、「生活デザイン」の領域を構築し、その質と内容を高めながら人材を育成して、「生活デザイン」のスペシャリストへの社会的要請に応じることを人材育成の主たる目標とする。

さらに、デザインと社会的教養を幅広く学び、最も身近なところにある生活環境から生活具までを柔軟に提案する「生活デザイン」の学びが、生産者としてより高度な専門性を求められる各デザイン領域でのデザイナーすなわちプロフェッショナルの育成にもつながることは、今後のデザインが展開する方向性として必然である。「生活デザイン」の教育は最終的には一つないし二つの専門領域を軸足としたものに収斂していく形をとるが、教育課程を発展させ「生活デザイン」をより高度に展開し、「生活デザイン」のスペシャリスト、すなわち生活全般のデザインのゼネラリストの視点を併せ持ったデザインのプロフェッショナルを育成していくことも目指す。

デザインの専門職としての求人・採用は、高度な専門性が必須であるとして美術大学や工学系の大学を卒業した学生に占められているのが現状である。本学科で「生活デザイン」を学んだ学生の進路として、美術系、工学系の学生が目指す企業のデザインの専門職は比較的少数と想定され、むしろ中小企業、特に地域における中小企業への就職が考えられる。良質のデザインを創出するための商品やデザイン開発を行うことを必要としているが、商品開発やデザイン部門を置くまでに至らない、また開発毎にデザインのアウトソーシングをすることができない中小企業、同様にアウトソーシングするまでも無いがデザインイメージの統一や広報活動により企業イメージを高める必要がある中小レベルのサービス業、小売販売業などでの、総務課や庶務課、その他既設の部署が進路の一例として考えられる。これらの部署では、事務系の業務をこなしながら必要に応じてデザイン制作を担当し、デザインを総合的な視点で捉え柔軟に対応することができる人材としてのデザイン担当者が潜在的に求められている（資料1参照）。また、デザイン部門を置くメーカーにおいても、デザイナーだけではなく営業担当者として、専門をある程度理解でき、事務系の業務もこなしながらユーザーとデザイン部門をつなぐゼネラリストとしての役割を担える人材も求められている。

現状でのデザイン各領域のプロフェッショナルと呼ばれる人材が生み出すデザインを従来の「デザイン」と呼ぶならば、それに対して例えば先述したような、良質のデザイン創出を必要とする中小企業などにおける総務課、庶務課、既設部署で事務処理等を担当しながら、必要に応じて商品企画、社内報や社内イベントに関する冊子・ポスター制作、ノベルティーグッズのデザインや製造業での商品開発、製品デザイン、営業用プレゼンテーション資料の作成補助、HPの管理、自社デザインのアウトソーシング業者のコーディネートなど、身近なところからのクリエイション作業から生まれる小さなデザインは「レッサーデザイン（lesser design・小デザイン）」と呼ぶことができる。中小企業における身近なところからのクリエイション作業から生まれる「レッサーデザイン」小さなデザインの質の

向上こそが、良質のデザインを遍在させることにつながると考える。

デザインアドバイザーやアイデアが要請されるショップやショールームでの業務など、「レッサーデザイン」にはさらに幅広い可能性がある。「生活デザイン」を学ぶことによって、その効果が及ぼす範囲は小さく狭くはあっても、デザイン戦略によって商品や製品、サービスの質をより優れたものにし企業イメージをより一層高めることが求められる場で「レッサーデザイン」を担当できる学生を育成することを、本学科の人材育成のひとつの具体的な目標とする。

また、たとえば空間デザインやCAD(Computer Aided Design)等の教育にあっても、1・2級の建築士やインテリアコーディネーターの資格取得や、建築設計・施工図技術者養成を目指すのみならず、より柔軟に、建材メーカーや家具・什器メーカーなど建築周辺の産業で幅広く企画・営業や営業補助を担当できる人材の育成をも目標として視野に入れる。これも、広い意味で「レッサーデザイン」の一つの形といえよう。

こうした本学科の教育のねらいの一つである「レッサーデザイン」は、中小企業における優れたアイデアや技術、サービスに、デザイン概念や美的価値を加えることによって商品価値を高めるだけでなく、社会全体のデザインレベルの向上に貢献することができるものである。日本の企業の99.7%を占める中小企業は日本経済を根っこから支えているといっても過言ではなく、特に地域における中小企業は、地域の経済活性化に大きく寄与している。「レッサーデザイン」を社会に根付かせることは、これからも豊かな生活を支えていくための一つのエレメントとなる。

本学科は、「生活デザイン」を学んだ人材を送り出すことで、「生活デザイン」の一つの表現である「レッサーデザイン」を丁寧に社会に根付かせ、社会全体のデザインのレベル向上に寄与する。さらにデザインの総合性の基盤を築くと共に「生活デザイン」の各領域においてより優れた専門的能力と総合的視野を併せ持つ人材を育成し、多くの学生が専門性を活かせる進路を希望できるよう努める。

注記：「レッサーデザイン」の学びと教育課程について

「レッサーデザイン」は、「大衆の日常生活の身のまわりのものを、実用性と有用性とともに美しくする」芸術の総体とするウィリアム・モリスの思想である「レッサーアーツ」の概念を借りて、本学科の短期大学部からの教育を通して「生活デザイン」の根底を成す思想として、4年制化における教育・研究テーマとして本学科が新しくつくり出した造語である。

デザインを生み出すことは、日々生活する中で、社会的状況（産業構造、経済構造、環境）と科学・技術、情報などを総合的に捉え、そのなかから価値や課題を見出し、社会に対して開かれた形で解決策を具現化することであり、中でも「生活デザイン」は、生活者の視点を尊重し身近な生活の中から包括的・総合的に生活を形成するデザインを目指す、その際の思想的基盤が「レッサーデザイン」である。

幅広い分野にわたって大衆の日常生活全般を丁寧に包括する「レッサーデザイン」は、

造語であるゆえに今日周知された概念ではない。むしろ教育の要として、入学した学生に対して、講義はもちろんデザインの課題など4年間の教育のすべての機会をとらえて、さまざまな角度からその考え方を実践をもって育てる教育を行う。併せて認可後の学生募集に際しても、四年制化に向けての学外への説明に際しても、学科構成と併せ、その内容をホームページや学科案内パンフレット等で丁寧に説明していく方針である。デザインの基本的スキルとともにデザインの姿勢として「レッサーデザイン」の概念を理解し思想を身に着けた学生を、4年間の教育によって育てることが本学科の目標であり、その成果は完成年度に報告書としてまとめる予定である。

「レッサーデザイン」という言葉自体は目新しくても、その考え方は4年制化に向けての活動の中でささやかながら理解・共感を得てきている。高校生へのアンケートでは、「デザインはみんなのもの」という言葉が共感を得た。(資料2-1)「レッサーデザイン」という概念を説明したうえで行なった企業アンケートでも、考え方が理解されたことを回答から読みとることができ(資料(1-1~1-5))、中に〈今回の「生活デザイン」の新たなデザイン教育と人材育成というテーマは現実的で良い考え方と思います。〉と回答の上、通常は即戦力を求めるため短期大学卒はもちろん四年制大学卒でも新卒採用はしてこなかったにもかかわらず、本学科の前身となる短期大学部生活デザイン学科の昨年度卒業生1名を、短期大学卒業者としてではなく、デザイン業務とともに他の業務にも対応できる人材として採用した企業も出た。このように「レッサーデザイン」への理解と共感を少しずつ広げることが本学科の役割と考える。

「レッサーデザイン」は、その本質においては企業の大小を問わず人々の身近な生活を支える産業全般にかかわってくる思想であるが、この教育を受けた卒業生の進路として中小企業の方が機会を多く期待でき、学びの成果を活かすことができる場合も多いと考えている。

大企業においては専門分化を進める力があり、デザイン部門においても社内であれアウトソーシングの場合であれ先鋭的な発想を是として実現化していく力がある。デザインに特化した視点を持つ人の発想を、組織力と資本力で社会に馴染む形にして経営戦略に取り込むことができる。デザインの対象もより大きい市場をターゲットとしたものである場合が多い。

それに対して、中小企業においては、シェアの大きい特殊な製品を扱う場合もあるとはいえ多くのケースにおいて、より小さい市場を相手に、より細やかに差別化した製品やサービスを扱う。「レッサーデザイン」の視点での具体的なデザインの発想が生きてくる場が得やすい。また中小企業においては、スタッフであっても時には経営のやりくりも理解しながら、企業活動全般の理解の上でデザインを行う必要がある。デザイン戦略の必要性は認識しても資金を割く余力に乏しく、また企業戦略としてのデザインの蓄積に乏しく試行錯誤から始める必要がある場合もあり、デザイン担当者は一つのデザイン専門領域のみではなく幅広くデザインの視点や各領域の初歩的知識・技術を求められる場合が多くなると考えられる。さらに、他の業務と時には兼任となる場合も十分に想定され、大企業の場合

と求められる人材の資質は自ずと違ってくる。

したがって本学科では、デザインの基本姿勢として「レッサーデザイン」を教育するとともに、中小企業においてデザインに携わる場合求められる対応能力も想定して教育課程を構築している。その基本方針は、デザインの包括的理解と幅広い展開を可能にするデザインの基礎力の育成、社会人としての基本的素養の育成である。

この課程は、より専門色の強いデザイン分野に進む場合であっても、生活をバランスよく総合的に捉え、生活を豊かに支えるという意味で優れたデザインを生み出す効果の優れた基礎となりえると考ええる。デザインは一生をかけて学び深化させるものであること、普遍解・一つの解を目指すものではなく、同じ教育課程の中で学生によって異なる深さや広がりがあり得、本学科ではフェイス・トゥ・フェイスの少人数の教育が可能である利点を活かして、各工房を軸に学生の自主的な学びの意志と能力に合わせてより高度な指導を正規課程内外で行ない得ることから、デザインの専門領域を軸とした学びの質を高めることができるものとしている。なお、昨今高学歴化が進んで短大生の従来の就職先が失われてきている現実があり、本学科の4年制化とその教育課程はそうした事情に応えたものであるとともに、従来のデザイン職ばかりではなくデザイン戦略の未熟な中小企業への就職も見据えた教育課程は、より柔軟に就職活動を捉え、「生活デザイン」への目的意識が高いままで現実的な進路選択ができることを意図していることも付記する。

以下に「レッサーデザイン」を学ぶ教育課程の編成意図と教員配置の方針、中小企業への就職にむけた人材養成をどのように反映しているかを解説する。

なお、各工房は、専任教員1名を核とする。兼任教員は、専門に応じて工房をベースに空間デザイン領域、生産デザイン領域、視覚デザイン領域のいずれかの領域に属する。専門の性格から複数の領域に係わる兼任教員は共通の所属とする。

核となる専任教員を中心に、領域ごとにそれぞれ専任と兼任が連絡を取れる体制とし、密に連絡を取りあい科目間の調整を行う。この連絡体制は指導方針を共有できるだけでなく、授業の質を高めることができる。また、この体制は前身の短期大学部から継承するものである。各研究室が兼任教員の控え室を兼ねており常時授業や指導方法、個々の学生に関する情報交換を行っており、授業の進め方、学生指導、授業内容などに反映することができて成果をあげている。共通所属の兼任教員に対する連絡は学科長が行う。

(参考資料15として各領域と共通の所属教員リストを添付する。)

- 1) 「レッサーデザイン」の前提として総合的、包括的に生活のデザインの成り立ちを理解するために、1セメスタを〈デザインを知る課程〉と位置付ける。このセメスタでは、専任教員全員で担当する基礎講義科目の「生活とデザイン」を必修としてデザインのさまざまな領域がどのように生活世界を支えているのかを総合的、包括的に認識することをすべての学びの基礎に据えた上で、さまざまな専門の基礎となる科目を配する。これらの科目は選択必修科目であるが、卒業に必要な単位数を修得するために3年次

まではセメスタごとに20単位前後の履修を指導することから、学生は大半の科目を履修し、さまざまな専門分野に進むための基礎力を習得する。

- 2) 続いて2、3セメスタを、〈専門領域を知る課程〉と位置付け、基礎演習科目に全工房（ただし初歩なので建築・室内工房は空間デザイン、プロダクト1、2工房はプロダクトとしてまとめる）の入門的科目を中心に配する。この時期に複数の専門を経験することで、それらの専門分野の基礎を習得しながら専門を相対的に位置付ける視野を得ることができる。そのことによって、自分の将来選択する専門領域が生活デザインの総体の中でどのような役割を担うかの認識を育てるとともに複数の専門領域への理解を深め、「レッサーデザイン」のスペシャリストとして中小企業で活躍するに際して枢要となる幅の広いデザイン力の基礎を養成する。

- 3) 4セメスタを、〈軸とする専門領域へトライアルする課程〉とする。生活デザインにおいては生活を総合的に捉える視点を重視するが、一方専門の技術を習得し深化させることもデザインを実現するためには必須である。最終的に多くの専門に同等に習熟することは困難でもあり現実性を欠き、一つないし二つ程度の専門を軸として学ぶ必要がある。その専門領域を決定するために、3セメスタまでより専門性が高い科目を選択的に経験し、専門のスキルを学ぶとともに軸とする専門領域決定の足掛かりとする。全工房の「演習I」（ただしプロダクト1、2工房はプロダクトとしてまとめる）を配置し、〈生活デザイン各論〉の諸科目が学びの中心となる。

生活デザインの総体を意識する思考の上で、軸となる専門をきちんと持ちそれに沿ってデザインのプロセスをよく理解し会得することで、むしろ万遍なく学びながら初歩的な段階に留まるより、応用的に他の領域のデザインへの理解も深めることができると考える。幅広い展開を可能とするデザイン力は中小企業において極めて有効であると考えられる。

- 4) 5セメスタを、〈自分を発見する課程〉とし、「デザインプロジェクトI」を中心に展開する。「デザインプロジェクトI」では、各領域が連動して4セメスタまでの学びを具体的に展開するプロジェクトを通して、生活を総合的、包括的に把握してそれを成り立たせるためにさまざまなデザイン専門領域がいかにかわりあっているかを実地に経験する。「レッサーデザイン」の具体的試行として、特に特徴がある課程である。専門のスキルが活用される場面を経験することによって、このプロセスを通して専門領域と学生自身の資質の適合性を確認する。

プロジェクトは毎年新規に出題する。一例として、一つの仮想カフェについて、空間、家具、什器、店員の服、ロゴやマーク、紙媒体やWEB上の広報等々、すべてをデザインするなど、具体的で総合的な設定の中で各領域のデザインが展開するものとする。ことで、デザインの力で生活を隅々まで丁寧に豊かにしていくプロセスを実感として理解できるようにする。

- 5) 6セメスタ以降は、軸となる工房を専門的に学ぶことを中心に他の専門領域を重ね、「生活デザイン」の深化を図る課程となる。〈生活デザイン各論〉の科目を中心に専門をよ

り深く学んだうえで「デザインプロジェクトⅡ－１」「デザインプロジェクトⅡ－２」で学びの集大成とする。工房ごとの学びの詳細は８）による。

- 6)「レッサーデザイン」の思想に基づき「生活デザイン」を学ぶ科目として、以上の、総合的なデザインから専門へと段階的に収斂する主となる課程に加えて、これをサポートする課程として以下の科目を配する。主たる課程の進行に合わせて１～６セメスタに適宜配置する。

①〈デザイン教養科目〉

「近・現代美術史」(選択必修)：デザインがいかになされてきたか背景を理解する基本的素養とする

「イメージと言葉」(選択必修)：他者であるさまざまな生活者とのコミュニケーションの習熟が「レッサーデザイン」の成立の根底にある。これは、デザイン戦略に未熟な中小企業にありがちなようにデザインの言葉の習慣に乏しい環境においても大切になる技術である。その基礎的素養となる科目である。

「環境学」(選択必修)：総体として生活世界がどのように成り立っているか理解することは、デザイン全般にとって前提となることであり、「レッサーデザイン」においてもとりわけきめ細やかな理解が求められるが、その際、環境学の視点が今日必須である。その素養となる科目である。

②〈基礎講義科目〉

「人間工学」(選択必修)：「レッサーデザイン」の基礎的素養としてすべての専門領域のデザインの基本となる知識を得る科目である。

「造形心理」(選択必修)：「レッサーデザイン」の基礎的素養としてすべての専門領域のデザインの基本となる知識を得る科目である。

③〈基礎演習科目〉

「コンピュータ表現Ⅰ」(必修)、「コンピュータ表現Ⅱ」(必修)、「コンピュータ表現Ⅲ」(必修)：「レッサーデザイン」の基礎的素養としてすべての専門領域のデザインの基本となる技術を得る科目である。

「デザインプレゼンテーションスキル」(選択必修)：すべての専門領域のデザインの基本となる技術を得る科目である。

「PC環境」(選択必修)：「レッサーデザイン」の基礎的素養としてすべての専門領域のデザインの基本となる技術を得る科目である。

- 7)「生活デザイン」を学んだ上で、中小企業を中心に企業で「レッサーデザイン」を担当する人材を育成するために必要な科目として以下を配する。１)～６)の「生活デザイン」を学ぶ課程をサポートする科目であるため、１～８セメスタを通じて適宜配置する。

①全学共通科目

「女性総合講座」(必修)：本学の建学の精神、歴史を学び相模女子大学の学生としての自覚を養い、教養を身に付ける意味を学び、大学での教育システムや学び

を計画する手掛かりを学ぶ科目とする。

「基礎教育講座」(必修)：8つの工房を軸にデザインの専門領域と領域相互の係りを生活の視点から知り、4年間デザインを学ぶためのデザインリテラシーを学ぶ科目とする。

その他、以下の各科目の履修を推薦する。(選択必修)

(人間と文化)：「心理学」「文化人類学」「民俗文化論」「社会学入門」

(科学と環境)：「数理リテラシー」「脳の科学」

(現代社会と国際化)：「経済学入門」「メディアと社会」

(情報とキャリア)：「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」「基礎統計学」「情報処理概論」「ビジネス実務総論」「簿記基礎」

(外国語科目)：「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」

②デザイン教養科目

「スモールビジネス」(選択必修)：中小企業での採用や起業に向けて、経済、経営、会社組織の基本を学ぶための科目とする

③基礎講義科目

「デザインとビジネス」(選択必修)：経済の視点を踏まえて多様なビジネスの現場におけるデザインの可能性を学ぶための科目とする。

④キャリア研修

「キャリア研修Ⅰ」(必修)：就職に向けて社会人としての基礎を基礎学力の面から学ぶための科目

「キャリア研修Ⅱ」(必修)：就職に向けて社会人としての基礎を基本的な言動の在り方から学ぶための科目

⑤デザイン研修

「デザイン研修Ⅰ」(作品発表)：産学官連携プロジェクトをはじめとする実社会と係って展開される各種のプロジェクトにおいて、デザインの実現化のプロセスを学びデザインを生かす場としての企業の成り立ちへの関心と理解を助ける科目とする。

「デザイン研修Ⅲ」(インターンシップ)：就職に先立って企業の活動の一端を経験し、企業と職業への関心を育てる科目とする。

- 8)「レッサーデザイン」の思想とその上に成り立つ「生活デザイン」を習得し、中小企業を中心に「レッサーデザイン」を実現する人材を育成するための1)～7)の教育課程編成の基本方針に加え、工房ごとに専任教員を軸として専門領域を学ぶための課程を以下のように配する。(建築工房、室内工房は受験資格取得に適合した教育課程であるが、他の工房は目指す進路に適合した教育課程として記述した。)

専門領域における教育課程は、自身の進路計画に合わせて、軸とする工房に並行して他の工房に係わる科目を選択して履修する。専門領域に範囲を縛られないより総合的な表現技術や知識を得ることで、専門領域をまたぐ進路も開かれ、「レッサー

デザイン」を具体的な形として実践する力が養われる。

①建築工房：専任教員（杉元葉子）を核として教員を配置する（参考資料12）

1級建築士の受験資格取得のための指定科目50単位を配し、すべての指定科目を履修することによって実務経験3年で受験資格取得できる教育課程とする。専門領域に直接係わる科目として「空間デザイン基礎Ⅰ」「空間デザイン基礎Ⅱ」「建築デザイン演習Ⅰ」「建築デザイン演習Ⅱ」と順次、より高度な課題を扱う演習を学びの中心に配し、主に図面表現の技術を会得する科目として「製図基礎Ⅰ」「製図基礎Ⅱ」「CAD演習」「建築CAD演習」「建築CADプレゼンテーション」を置く。さらに空間デザインの基本的な専門知識を習得する講義科目を順次配する。「建築デザイン演習Ⅰ」「建築デザイン演習Ⅱ」以外の科目は室内工房と共通とする。

1級建築士の受験のための指定科目を中心に建築工房、室内工房に係る科目を2、3、4、5、6セメスタで履修する。一例としてこれに加えてデジタルデザイン関連の科目を多く履修することで、PCの技術者を置かない小さい建築デザイン系の事務所、中小の工務店等を目指す人材を育成する。またプロダクト、あるいはテキスタイル関連の科目を多く履修することで、建材とりわけ内外装材のメーカー、家具什器のメーカーなどを目指す人材を育成する。（参考資料28-1）

すべてのセメスタで建築または室内工房の専任教員の担当する科目が開講されており、常に学生に対して空間デザイン系の工房が開かれていて学生のさまざまな状況を把握し適切な履修指導が可能な体制となっている。

②室内工房：専任教員（稲田深智子）を核として教員を配置する（資料12、資料25-1、資料25-2、資料26、）

2級建築士インテリアプランナー、インテリアコーディネーターの受験資格を目指す教育課程とし、2級建築士の受験資格（実務経験0年で受験資格取得可能）およびインテリアプランナーの登録資格取得のための指定科目を配する。専門領域に直接係わる科目として「空間デザイン基礎Ⅰ」「空間デザイン基礎Ⅱ」「インテリアデザイン演習Ⅰ」「インテリアデザイン演習Ⅱ」と順次、より高度な課題を扱う演習を学びの中心に配し、主に図面表現の技術を会得する科目として「製図基礎Ⅰ」「製図基礎Ⅱ」「CAD演習」「建築CAD演習」「建築CADプレゼンテーション」を置く。さらに空間デザインの基本的な専門知識を習得する講義科目を順次配する。「インテリアデザイン演習Ⅰ」「インテリアデザイン演習Ⅱ」以外の科目は建築工房と共通とする。

2級建築士の受験資格やインテリアプランナーの登録資格取得のための指定科目を中心に建築工房、室内工房に係る科目を2、3、4、5、6セメスタで履修する。一例としてこれに加えてテキスタイルあるいはプロダクト関連の科目を履修することで、内装材や家具什器、家庭用設備機器のメーカー、インテリア関連の店舗・ショールームなどを目指す人材を育成する。またデジタルデザイン関連の科目を多く履修することで、

PCの技術者を置かない小さい室内デザイン系の事務所・内装業を目指す人材を育成する。
(資料28-2)

すべてのセメスタで室内または建築工房の専任教員の担当する科目が開講されており、常に学生に対して空間デザイン系の工房が開かれていて学生のさまざまな状況を把握し適切な履修指導が可能な体制となっている。

③ファッション工房：専任教員（角田千枝）を核として教員を配置する

主に、アパレルメーカー（デザイナー、パタンナー）への就職を目指す教育課程とする。専門領域に直接係わる科目として「ファッションデザイン基礎Ⅰ」「ファッションデザイン基礎Ⅱ」「ファッションデザイン演習Ⅰ」「ファッションデザイン演習Ⅱ」と順次、より高度な演習課題を扱う演習を学びの中心に配し、パタンナーとして必須である「パターンメイキングCAD演習Ⅰ」「パターンメイキングCAD演習Ⅱ」を順次配する。また、ファッションデザイン表現技術を会得する科目「ピンワーク」、衣服製作の基本を理論的に学ぶ講義科目「体型とパターン」ファッションデザインの歴史を学ぶ「ファッションデザイン史」を置く。

デザイナー、パタンナーの技術習得のための科目に生産デザイン領域の工房の科目を加えて、衣類に限定せず自由にトータルなファッションをクリエイトする力を養うことを履修の基本とする。

一例として、生産デザイン領域からテキスタイル工房やプロダクト1・2工房に係わる科目を2、3、4、5、6セメスタで履修し、その学びを展開してファッションテキスタイルの制作、アパレル雑貨の制作など、ファッションデザインの幅を広げる教育課程とする。他に、視覚デザイン領域の係わる科目を2、3、4セメスタと並行して履修し、デザイン表現の幅を広げプリント生地に応用する等トータルとしてのファッションデザインを展開することができる。アパレルメーカー、アパレル系のショップなどを目指す人材を育成することができる。(資料28-3)

すべてのセメスタでファッション、テキスタイルまたはプロダクト1、2工房の専任教員の担当する科目が開講されており、常に学生に対して生産デザイン領域の工房が開かれていて学生のさまざまな状況を把握し適切な履修指導が可能な体制となっている。

④テキスタイル工房：専任教員（池田節子／小林るり）を核として教員を配置する。

主に、アパレル関連企業（デザイナー、商品企画）への就職を目指す教育課程とする。専門領域に直接係わる科目として「テキスタイルデザイン基礎Ⅰ」「テキスタイルデザイン基礎Ⅱ」「テキスタイルデザイン演習Ⅰ」「テキスタイルデザイン演習Ⅱ」と順次、より高度な演習課題を扱う演習を学びの中心に配し、繊維素材を学ぶ講義科目「生活とファブリック」を配する。また、テキスタイルデザイン表現技法を会得する科目「ファブリックワーク」を置く。

染織の技術や繊維素材の扱いに係わる科目に加えて、生産デザイン領域の他の工房の

科目を履修し素材としてのテキスタイルのさまざまなデザインへの適用を合わせて学ぶことを履修の基本とする。

一例として、生産デザイン領域からファッション工房に係わる科目を2、3、4、5、6セメスタと並行して履修して、素材としてのテキスタイルをファッションデザインに活かすことができるため、アパレル関連企業におけるデザイン担当や企画担当を目指す人材を育成する教育課程とする。(資料28-4)

また、視覚デザイン領域の科目を加えてプリント生地制作に応用する、室内工房の科目を加えてインテリアファブリックの制作に展開するなど、幅広くテキスタイルの可能性を学ぶことができる教育課程とする。アパレル関連企業を中心に、インテリア関連などファブリックを素材として扱う企業・店舗でのデザイン担当、販売担当を目指す人材を育成することができる。

すべてのセメスタでファッション、テキスタイルまたはプロダクト1・2工房の専任教員の担当する科目が開講されており、常に学生に対して生産デザイン領域の工房が開かれていて学生のさまざまな状況を把握し適切な履修指導が可能な体制となっている。

⑤プロダクト1工房：専任教員（松島直文）を核として教員を配置する。

主に、機器・什器・製造、販売メーカー（製品デザイン、企画、開発）への就職を目指す教育課程とする。専門領域に直接係わる科目として「プロダクトデザイン基礎Ⅰ」「プロダクトデザイン基礎Ⅱ」「プロダクトデザイン演習Ⅰ」「プロダクトデザイン演習Ⅱ」と順次、より高度な演習課題を扱う演習を学びの中心に配し、アイデア展開時には必須である「デザインスケッチ基礎」「デザインスケッチ応用」と図面表現の技術を会得する科目「プロダクト図面」を順次配する。また、プロダクトデザインの歴史を学ぶ講義科目「プロダクトデザイン史」、プロダクトデザインの一環としての技法習得演習科目「パッケージデザイン」を置く。「デザインプロジェクトⅡ-1」「デザインプロジェクトⅡ-2」以外の科目はプロダクト2工房と共通とする。

プロダクト1工房に係わる科目に加えて、生産デザイン領域の他の工房の科目や視覚デザイン領域、空間デザイン領域の科目を自身の進路計画に合わせて履修することを教育課程の基本とする。

一例として、視覚デザイン領域から2、3、4、5、6セメスタと並行してデジタルデザイン関連の科目とグラフィックデザイン関連の科目を多く履修することで、製品のデザインや企画、開発などを担当し、社内広報などにも携わることができる中小の機器・製造・販売メーカーを目指す人材を育成する教育課程とする。(資料28-5)

他に、生産デザイン領域からテキスタイル工房に係わる科目を2、3、4、6セメスタと並行して履修してファブリック素材としての知識を併せて会得し、家具・什器メーカーへの進路を目指す人材を育成することができる。

また、空間デザイン領域から建築、室内工房に係わる科目を履修することで建材メーカーの什器などのデザイン担当を目指す人材を育成することができる。

また、空間デザイン領域から建築、室内工房に係わる科目を履修することで建材メーカーの什器などのデザイン担当を目指す人材を育成することができる。

すべてのセメスタでプロダクト1・2、ファッション、またはテキスタイル工房の専任教員の担当する科目が開講されており、常に学生に対して生産デザイン系の工房が開かれていて学生のさまざまな状況を把握し適切な履修指導が可能な体制となっている。

⑥プロダクト2工房：専任教員（樋口千尋）を核として教員を配置する

主に、雑貨・アパレル雑貨・製造、販売メーカーへの就職を目指す教育課程とする。専門領域に直接係わる科目として「デザインプロジェクトⅡ－1」「デザインプロジェクトⅡ－2」以外の科目はプロダクト1工房の教育課程と共通である。「プロダクトデザイン基礎Ⅰ」「プロダクトデザイン基礎Ⅱ」「プロダクトデザイン演習Ⅰ」は、プロダクト1工房とプロダクト2工房どちらの進路においても基礎として必須であることから、オムニバス授業としている。

プロダクト2工房に係わる科目に加えて、生産デザイン領域の他の工房の科目や視覚デザイン領域、空間デザイン領域の科目を自身の進路計画に合わせて履修することを教育課程の基本とする。

一例として、生産デザイン領域からプロダクト2工房に直接係る科目に加えて、ファッションデザイン、テキスタイルデザインに係る科目を2、3、4、6セメスタと並行して履修してアパレル雑貨への展開を可能とし、アパレルメーカーの雑貨デザイン担当を目指す人材を育成する教育課程とする。（資料28－6）

他に、視覚デザイン領域から2、3、4、6セメスタと並行してデジタルデザイン関連の科目を多く履修することで、ホームページ制作などにも携わることができる中小の雑貨やアパレル雑貨の製造、販売メーカーを目指す人材を育成することができる。グラフィックデザインなど視覚デザインに係る科目を多く履修することで、企業広報、パッケージのデザインなどにデザインの専門家を置かない中小の雑貨やアパレル雑貨の製造、販売メーカーを目指す人材を育成することができる。

すべてのセメスタでプロダクト1・2、ファッション、またはテキスタイル工房の専任教員の担当する科目が開講されており、常に学生に対して生産デザイン系の工房が開かれていて学生のさまざまな状況を把握し適切な履修指導が可能な体制となっている。

⑦デジタルデザイン工房：専任教員（門屋博）を核として教員を配置する。

主に、WEBデザイン、グラフィックデザインと各企業広報担当への就職を目指す教育課程とする。専門領域に直接係わる科目として「デジタルデザイン基礎Ⅰ」「デジタルデザイン基礎Ⅱ」「インタラクティブデザイン演習Ⅰ」「インタラクティブデザイン演習Ⅱ」と順次、より高度な演習課題を扱う演習を学びの中心に配し、併せて表現技術を深化させる演習科目「デジタルグラフィック演習」「マルチメディアデザイン」を配する。また、デジタルデザイン表現技法を会得する科目「3DCG」「アニメーション表

現」を順次配し、ビジュアルデザインの歴史を学ぶ講義科目「ビジュアルデザイン史」(イラストレーション工房と共通)を置く。

視覚デザイン領域からデジタルデザイン工房に直接係る科目に加えて、その素材としてイラストレーションに係る科目を2、3、4セメスタと並行して履修して表現の幅をつくることができ、中小企業におけるWEBデザインとグラフィックデザインと広報担当などをを目指す人材を育成する教育課程とする。(資料28-7)

また、幅広く空間デザイン領域、生産デザイン領域から学び、デジタルデザインの素材として建築、室内、ファッション、プロダクト等のデザインの基礎を身に付けることで、表現の幅を広げることができ、中小企業における業務の対応能力を養うことができる。

デジタルデザインのスキルは、WEBデザインをはじめとするデザイン職を目指す人材を育成するとともに、空間デザイン領域、生産デザイン領域の工房の副専門としても極めて有効な教育課程である。

すべてのセメスタでデジタルまたはイラストレーション工房の専任教員の担当する科目が開講されており、常に学生に対してコミュニケーションデザイン系の工房が開かれていて学生のさまざまな状況を把握し適切な履修指導が可能な体制となっている。

⑧イラストレーション工房：専任教員(北谷しげひさ)を核として教員を配置する

主に、企業内グラフィックデザイン、企画広報担当への就職を目指す教育課程とする。専門領域に直接係わる科目として「イラストレーション基礎Ⅰ」「イラストレーション基礎Ⅱ」「イラストレーション演習Ⅰ」「イラストレーション演習Ⅱ」と順次、より高度な演習課題を扱う演習を学びの中心に配し、併せて表現技術を進化させる演習科目「アートディレクション」を配する。また、グラフィック表現技法を会得する科目「グラフィックデザイン基礎」「写真表現」「絵本表現」を順次配し、ビジュアルデザインの歴史を学ぶ講義科目「ビジュアルデザイン史」(デジタルデザイン工房と共通)を置く。

イラストレーション工房に直接係る科目に加えて、視覚デザイン領域のデジタルデザインに係わる科目を2、3、4、6セメスタと並行して履修し、デジタルによるイラストレーション表現を身に付けることができる。併せて生産デザイン領域のファッションデザイン、テキスタイルデザインに係わる科目を履修し表現の幅を広げることで中小企業の企業内グラフィックデザイン、広報などをより適切に担当できる人材を育成する教育課程とする。(資料28-8)

また、この課程はテキスタイルデザインへイラストレーションを展開するなど、さまざまな領域における表現スキルとしてイラストレーションを生活デザインに展開する人材を育成することができる。

すべてのセメスタでデジタルまたはイラストレーション工房の専任教員の担当する科目が開講されており、常に学生に対してコミュニケーションデザイン系の工房が開かれていて学生のさまざまな状況を把握し適切な履修指導が可能な体制となっている。

■人材需要の見通し（資料 1-1～1-5）

本学科の教育目的、人材育成の方針を16社の業種の異なる企業経営者（主に中小企業の経営者）および人事担当者等に対して示し、需要の有無についてのアンケートを実施した。アンケートは、企業の採用に関する考えを知るために定性アンケートとした。したがって、質問に対する理由の欄に記入された意見は、今後の本学科の人材育成に非常に役立つものである。

質問は、先述した本学科の教育目的の一つである人材育成の方針を説明し、女子大学における「生活デザイン」教育を受けた学生を採用対象にすることの可否とその理由およびその他として、用意した質問以外に担当させる部門、業務等の記入とその理由とした。回答の結果は、全ての企業に本学科の教育目的、人材育成の方針が理解され、その企業の業務内容に必要とされる部門においてデザインスキルを活かせる業務に採用対象とする回答を得ることができた。（質問の二つに採用対象とすると回答した企業が1社あり、回答数は17件）

回答の中には、以下のような本学科の教育目的、人材育成の方針に期待する回答も寄せられた。

- ①今回の「生活デザイン」の新たなデザイン教育と人材育成というテーマは現実的で良い考え方と思います。
- ②「生活デザイン」の観点から、自社製品のブランド戦略として女性の感性での商品企画、デザインは大きな武器、大きな戦力になると考えているとしている。
- ③総合職として採用しており、業務の兼務はないが、本学科の教育目的、人材育成の方針はジョブローテーションに対し柔軟な姿勢が期待できるとしている。

これらのことから、改めて、デザイン業務をこなしながら柔軟に対応できる人材が潜在的に望まれており、本学の生活デザインの学びに対する人材需要はあると判断することができる。

開設4年後には、以上のような企業を始め多くの企業の期待に応えることができる学生を輩出できるよう努めるとともに、入学定員数45名の進路先に向けて教員一人ひとりがその専門を通して本学科をアピールすることにも努める。

■入学者確保の見通し（資料 2-1、2-2、2-3）

本学科の「生活デザイン」に対する考えや特徴、カリキュラム等について女子高校生へ理解を求めるとともに、今後四年制としての生活デザイン学科のカリキュラム等へ反映させることも含めてアンケート調査を実施した。

調査方法は、予めアンケートへの協力を対象高校へ電話で依頼した後に、アンケート用紙を送付し、記述後に返送していただく方法をとった。アンケートの回答に対する記述欄

からは、本学科の学びに対して半数近くの生徒が興味と関心を持ったと読み取ることができる。

アンケート調査を実施した高校（本学の高等部も含む）は全て本学科の指定校推薦枠のある学校である。短期大学部での指定校推薦入試による入学者の実績が、ここ5年間の平均で入学者の50%（資料2-2）を占めていることをふまえ、この度のアンケートの実施により以下のように本学科の四年制での学びの内容が理解されたと読み取れることから、AO入試、一般入試等も含めて45名の入学者を確保できる可能性は高いと推測できる。

1. 「デザインはみんなのもの」それがデザイン学科の原点です。この考え方に対して、約半数の高校生が興味を持ち理解を得られたと判断できる。
2. 生活デザイン学科の特徴「最初に分野を決めずに学び始めること」に対して、半数以上の高校生が関心を持った。特に分野を決めずに学び、自分を見つけないとの回答は77%と高い値であったことから、十分理解されたと判断できる。
3. 生活デザイン学科で学んだ後の進路についての関心は、デザイナー、コーディネイターおよび、デザイン・商品企画・開発、宣伝業務であり、デザインに係わる仕事に就けることであった。
4. 学芸学部所属であるので、美術大学の専門分野のみを学ぶイメージが少なく、デザインの実技に加えて一般教養や各工房をクロスオーバーして学ぶことに意味があると理解されたことが読み取れる。
5. 希望進路は高校生の35%が文系志望であった。この結果を2011年9月に実施された河合塾の第2回全国統一記述模試志望動向と比較した場合、河合塾では文系22.2%、理系10.2%。本学の調査では文系35%、理系14%であることから全国の志望動向とほぼ同様と考えられる。デザイン系については、河合塾の志望動向では美術、デザインを合わせた志望動向は1.2%を示した。本調査では6%（57名）、デザイン系と文系、理系、その他の分野併記を合わせると7%（73名）になる。また、希望進路の記入ナシ（91名）のなかには、アンケートを実施した時点で進路に迷いがあった生徒であると考えられ、アンケートにより本学科の学びが理解され希望進路を変更する可能性が期待できると思われる。

以上のことから、今回実施したアンケート調査により、今後本学指定校をはじめ受験生に対する学科説明、オープンキャンパス、学校案内などのPR活動により生活デザイン学科を志望する受験生を増やすことに努めることで入学者の確保が出来るものと思われる。

本学科に対するアンケート調査以外で、入学者を確保出来る根拠は以下の通りである。

現行の短期大学部としての本学科に入学してくる学生の出身地域は、神奈川県が約 58%、東京都と神奈川県を合わせると約 77%である。大学全体では、神奈川県が約 63%、東京都と神奈川県を合わせると約 83%（平成 24 年度）であり、地元近隣からの入学者が圧倒的に多い。そのような学生の入学動機は、自宅からの通学で交通の便利な立地条件と緑豊かで静寂なキャンパスでの学習環境を挙げるものが多く、そのような本学の恵まれた環境条件が入学動機につながっていると思われる。

本学および本学科の入学者の大半を占める出身地域の神奈川県と東京都における、本学科を受験する受験生が目指す同じ領域である家政・生活系のデザインを学べる四年制の大学は、東京都に集中している。昭和女子大学の生活科学部、日本女子大学の家政学部、東京家政大学の家政学部、共立女子大学の家政学部、実践女子大学の生活科学部、東京家政学院大学の現代生活学部などである。したがって、神奈川県の受験生には、家政・生活系のデザインを学べる四年制の大学として設置する本学科への関心は高いと思われる。

各大学の募集定員は、①昭和女子大学（生活科学部）環境デザイン学科 160 名、②日本女子大学（家政学部）住居学科 75 名、被服学科 75 名、③東京家政大学（家政学部）服飾美術学科 140 名、造形表現学科 107 名、④共立女子大学（家政学部）被服学科 90 名、建築・デザイン学科 90 名、⑤実践女子大学（生活科学部）生活環境学科 80 名、⑥東京家政学院大学（現代生活学部）生活デザイン学科 120 名、である。

日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターのまとめた平成 23（2011）年度私立大学・短期大学等入学志願動向の資料の入学定員充足率によると、芸術系では、造形学部 97.54%、デザイン学部 95.77%であるのに対して、家政・生活系では、家政学部 111.04%、生活科学部 109.50%、現代生活学部 104.46%である。

また、上記各大学の情報公開資料による各学科の入学定員充足率は以下ようになる。

- ①昭和女子大学（生活科学部）環境デザイン学科：118%（平成 23 年 5 月 1 日現在）
- ②日本女子大学（家政学部）住居学科：129%・被服学科：128%（平成 22 年 10 月 1 日現在）
- ③東京家政大学（家政学部）服飾美術学科：124%・造形表現学科：149.5%（平成 22 年 5 月 1 日現在）
- ④共立女子大学（家政学部）被服学科：121%・建築・デザイン学科：114.7%（収容定員数充足率・平成 22 年 5 月 1 日現在）
- ⑤実践女子大学（生活科学部）生活環境学科：118.7%（（平成 23 年度）
- ⑥東京家政学院大学（現代生活学部）生活デザイン学科：107.5%（平成 22 年 5 月 1 日現在）

つまり、デザインを学ぶことができる上記の大学の家政・生活系の学部学科では入学定員数が充足しているのである。したがって、神奈川県において家政・生活系でデザインを

学べる本学科における入学者の確保は十分に可能であると判断できる。

上記に加えて、2012年5月から6月にかけて、本学の近隣にある東京都内および神奈川県内の高校3年生を対象に改めてアンケート調査を行った。この調査では17校1,964人を対象に当該学科の特徴をまとめたパンフレットおよび質問調査票を配布し、17校1,356人（男子8人、0.6%を含む）から調査票を回収することができた。回収率は69%となる。前述の学科のパンフレットは、当該学科の特色、美術系大学との違い、8つの工房の内容、4年間の学びの概要等を高校生にもわかりやすく説明する内容となっている。調査結果は「学校法人相模女子大学 相模女子大学学芸学部生活デザイン学科（仮称）設置に関するアンケート調査」として別添した。

このアンケート調査の結果をいくつか以下に示す。

問3「卒業後の進路の意向について」では、「大学進学」697人（52.0%）、「専門学校進学」381人（28.4%）、「短期大学進学」134人（10.0%）であり、進学希望者全体は1,212人（89.4%）という結果となった。

問4（問3で進学希望と回答した1,212人のうち、男子を除いた1,201人が対象）「進学したいと考えている分野（第一希望）」では、「教育学・保育学関係」206人（17.2%）、「文学関係」175人（14.6%）、「美術学関係」109人（9.1%）、「家政学関係」74人（6.1%）等々となった。

問9（問3で進学希望と回答した1,212人のうち、男子を除いた1,201人が対象）「生活デザイン学科（仮称）への進学希望」では、「進学を希望する」9人（0.7%）、「進学希望の一つとして考える」114人（9.5%）等々となった。

上記の回答結果から生活デザイン学科への進学需要を推計したところ以下のような結果となった。

①分析対象

東京都、神奈川県に在籍する高校3年生、1,356人

②大学進学者数

文部科学省「学校基本調査（平成23年度）」から算出

東京都、神奈川県の大学進学者（女子）46,489人

③学問分野別進学希望比率

実施アンケート結果から、高等学校卒業後に進学を希望している高校3年生のうち、当該分野への進学を希望している者（第一希望）の比率

家政学関係 74人（進学希望者1,201人に対する割合は、6.1%）

④本学への進学希望比率

実施アンケート結果から、高等学校卒業後に進学を希望している高校3年生のうち、当該分野への進学を希望している者（第一希望）で、本学への進学希望を持つもの（「進学を希望する」および「進学希望の一つとして考える」）の比率

③の74人中の15人（20.2%）

⑤進学需要推計

対象エリアの大学進学者数×学問分野別進学希望比率×本学への進学希望比率は、
 $46,489 \text{ 人} \times 6.1\% \times 20.2\% = 572 \text{ 人}$ となる。

上記から、本学進学意向者を本学志願者予備軍と想定した場合、相模女子大学学芸学部生活デザイン学科（入学定員 45 人）には、潜在志願者が 572 人存在し、この数は入学定員の 12.7 倍となっており、十分な潜在的志願ニーズが推定される。

このほか、本年 6 月以降の本学のオープンキャンパスにおける受験生の反応を以下に示す。

前述の「学校法人相模女子大学 相模女子大学学芸学部生活デザイン学科（仮称）設置に関するアンケート調査」の巻末には、本学科のオープンキャンパスに参加した高校生に対して実施したアンケート調査（6 月 10 日（日）実施：回答者数 45 名）「補記）オープンキャンパス来場者に対する調査」の結果を載せているが、「学芸学部生活デザイン学科（仮称）への進学を希望しますか（P - 42）」の問いへの回答は、「進学を希望する」7 名（14.9%）、「進学希望の一つとして考える」21 名（44.7%）であり、両方を合わせると 59.6%となる。

また、今回の設置認可申請後、これまで 6 月 10 日（日）、7 月 21 日（土）、22 日（日）、8 月 4 日（土）、19 日（日）の計 5 回のオープンキャンパスを実施したが、当該学科希望者は計 129 名（受付票回収枚数）おり、その内 3 年生が 86 名である。参加者の記載内容を集計した結果（以下は受付票記載内容の有効回答 75 名分より）、本学志望順位が第 1 志望：55 名、第 2 志望：5 名であり、第 1 志望率 73.3%の回答を得られた。そのほか学科説明、模擬授業も高い評価を得られ、別途学科独自で学科企画（作品制作体験コーナー：6/10、7/22、8/4、8/19 計 4 回、受験相談コーナー：6/10、7/21、7/22、8/4、8/19 計 5 回）を行い、体験コーナー参加者が 132 名（その内 3 年生 91 名、リピータが 12 名おり、2 回連続 8 名、3 回連続 4 名）、受験相談者が作品制作体験コーナー参加も含め 21 名おり、いずれも高い満足度を得られた。オープンキャンパスは受験対象とする学科を訪れることが目的であるため、多くの企画を通して本学科の魅力を多角的にアピールでき、本学科への受験を大いに動機付けできたといえる。なお、オープンキャンパスは 8 月下旬以降も 3 回の実施が予定されている。

5 月から 6 月にかけて実施したアンケートおよび最近のオープンキャンパス参加者等のデータから、本学学芸学部生活デザイン学科の入学定員を充足する需要があり、実際に当該学科を志望する受験生が数多く来校している。その上で今後も効果的な募集対策を講じていくことにより、45 名の入学者確保は可能であると判断する。

なお、45 名の入学定員としたのは、デザイン教育は、一律の教育ではなく学生一人ひと

りが導き出す解に対してそれぞれ対応することが求められ、そのフェイス・トゥ・フェイスによる指導が、豊かな発想力とオリジナリティーを育む源となることを考慮して設定した数である。

イ 学科の特色

人と、自然環境、産業、経済、科学・技術の調和を図り、人と社会と生活環境の円滑な係わりを創出し豊かな生活の確保を目指すデザインの教育においては、ますます加速し進歩する科学・技術と、それと共に多様化する価値観と生活文化の動向に対して、もう一度生活の原点から問い直し、本来のデザインを導き出すことが必要である。

それには、クリエイターとしての視点だけでなく、生活者の助言者として、日々の暮らしの支援者としての視点に立ち、デザイン（人工物や環境）と生活の円滑な係わり方を総合的な視点から提案することがより一層重要となることから、「生活デザイン」を実践できる人材を育成しなければならないのは先述してきた通りである。

多くの美術系の大学とは異なる小さい学科構成と、カリキュラムの独自性によって、この人材育成の目標を実現しようとするのがこの学科の基本的な特色である。

具体的な実践の方法の特色は以下の3点とする。

■知性と感性をクロスオーバーさせながら総合的視点をもって、身近なところから生活者の発想でデザインをクリエイト、コーディネートする

本学科の特色は、デザインの領域を超えた総合的知識と表現技術および社会的教養に立脚し、生活すなわち日常の暮らしに係わる身近なところから生活者の発想でデザインをクリエイト、コーディネートできる人材の育成にある。すなわち、総合的視点からデザインを発想できる人材の育成である。

具体的には、リベラルアーツを標榜する学芸学部において幅広い教養を身につけながら、専門領域を特定せずにデザインの基礎を学び、各時代における人の生活とデザインと社会の係わりを総合的にとらえ、現在の生活に必要なデザインの要素と社会における価値観とに照らし合わせ、問い直すことから始める。そして、日常の生活を深く観察し、その中から生まれる疑問を手掛かりに問題点を見出し、客観的分析を行い、さまざまな手段によるコミュニケーションを通し、そこから美的要素をはじめとする生活の技術と方法と価値観を、豊かで本来あるべき生活のスタイルとして、生活環境や生活具と共に身近なところから総合的視点をもって提案し、クリエイト、コーディネートする能力を養成する。

そのために、学科をデザイン系の学科としては異例の学芸学部において、発想がデザイン系の世界に閉じてしまわないようにすること、学科構成を極力小さくしてデザインの各領域間の距離を小さくし、領域間の自然な行き来を容易にする編成とすること、複数の工房での履修を前提にした自由度の高いカリキュラム構成にすること、さらにそうしたカリキュラムであっても学生が学習の目標を見失わないように、各自の軸となるデザイン領域、

具体的には履修する工房の選択の指針となるように、キーとなる科目を教育課程の要所に設けることを特色とする。

■プロジェクトを通して実践的にデザインを学ぶ

4年間のカリキュラムにおける枢要の授業として、「デザインプロジェクト」が3段階構成で実施され、実践的にデザインを学ぶことができる。

具体的には、自ら社会と係わるテーマを設定し、調査・観察（情報収集）、課題の発見と分析、解決、提案（プレゼンテーション）までのプロセスを各自で行動する。この過程により、自己のデザインの社会における妥当性、説得力を評価し、各プロセスに必要な能力を実感を以って認識することができ、主体性を以って企業や社会が求める基礎力を養うことができる。

特に、3年前期のデザインプロジェクトは、学科全体を横断して全工房が連携して行い、様々な角度からのデザインが総合的に生活と係わる中で、各領域の視点やデザインスキルの役割や可能性が見える。このプロジェクトでは、個々の学生は、ひとつのデザイン領域に縛られることなく、それまで身に付けたデザインの専門知識と技術を総合デザインとして実践し、その過程で補わなければならない学びの要素を再認識し、自分の進路に向けて次への深化を図ることができる。さらに4年次前・後期のプロジェクトでは、軸足をいずれかの工房におきながら必要に応じて他の工房での指導も受け、デザインのトータルなプロセスを卒業制作として実践する。

また、作品の発表、インターンシップなどを経験する「デザイン研修」においては、デザインは、社会において具現化され、多くの人に用いられ、さまざまに評価されながら人の生活をサポートし、人のためのモノづくりであることを、社会との係わりを通して実践的に学び、デザイン力、コーディネート力、コミュニケーション力を養う。

具体的には、短期大学部での実績を基にして、地域でのデザイン制作協力やイベント参加などを始めとする地域連携プロジェクト、企業や行政などとの産学官連携プロジェクトを、デザイン専門領域や学年に捉われず、領域を横断的に学生主体で実施する。また、学外の設計競技や展示会での作品発表、ファッションショーなどの自主企画を通して、社会に開かれた形で作品を制作する。そこでのプレゼンテーション能力やデザイン力に対する評価と、実地で学び取ったコミュニケーション方法や知識を通して、デザインに必要な要素を実践的に身に付け、社会人としての基礎を養う。

他に、学科独自で実施するインターンシップでは、デザインの各専門領域である工房を担当する教員が紹介する企業等で実習を実施し、企業をはじめとする実社会での実地体験を通してデザインと社会に必要な基礎を実践的に学ぶ。

■少人数で、フェイス・トゥ・フェイスで学ぶ

デザイン教育は、一律の教育ではなく学生一人ひとりが導き出す解に対してそれぞれ対応することが求められる。いわゆるフェイス・トゥ・フェイスによる指導が、豊かな発想

力とオリジナリティーを育む源となる。入学定員を45名とすることで講義科目は授業により6～10名、20～30名、最大で学科共通必修科目が45名の授業とし、きめの細かい指導により全員の理解度を上げることを目標とする。フェイス・トゥ・フェイスでの指導がより一層必要とされる演習科目は、8工房の専門領域における各授業が6～10名となり、一人ひとりに行き届いた指導の下でデザインを学ぶことができる。

また、フェイス・トゥ・フェイスの指導体制を敷くことによって、教員が早い段階で学生一人一人の個性や資質を十分に把握することができる。これにより、学生一人一人の履修計画や進路計画の指導が可能になり、自由度の高い教育課程で「生活デザイン」というまだ社会的に十分認知されているとは言えない形のデザインを学ぶにあたって、学生が進路を迷わないようにするとともに、適切にカスタマイズされた教育によって独自性のある人材を社会に送り出すことができる。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

本学科の教育目的は、上述したように、生活者としての視点で、社会を的確に捉え、読み解く力を養うと共に、社会での自立を目標に幅広い知識や教養を身に付け、人の生活を基盤とした生活のしくみ、環境、情報、モノをデザインする力を養い、クリエイションを通して社会で活躍できる人材を育成することである。

学部については、デザインを一般の美術系大学のように領域ごとの専門が明確でプロフェッショナルな分野として扱うのではなく、むしろデザインというクリエイションとしての思考方法の普遍性への信頼をもって、生活者の視点からデザインの発想と技術で生活環境を豊かにする人材を育成するという目標を明確にするため、日常に開かれたものとしてのデザイン教育を行うという意味で、本学科をリベラルアーツの一翼を担うものとして学芸学部にも所属させるものとする。デザインは、クリエイションのプロセスにおいても、創出したカタチを人に正しく伝え理解を得る手段においても、他者を深く理解し、しなやかに自己表現をして、互いを尊重しながら展開するコミュニケーション能力を必要とする。学芸学部は、他に日本語日本文学科、英語文化コミュニケーション学科、子ども教育学科、メディア情報学科の各学科を擁するが、共通して文系の教養をベースにし、真のコミュニケーション能力を伸ばし会得することを掲げる学部にも所属させることで本学科が育成を目指す人材像を明示する。

デザインを幅広く学び、総合的な視点からデザインを提案することができる人材を育成する学科であること、「生活デザイン」という新しいデザイン領域の構築を目標とすることを反映する名称であることが必要である。そして、その名称は受験生ならびに保護者に分かりやすく、卒業後の進路である就職先の企業などにも内容が理解しやすいことも必要で

あるため、以下の学部学科名称とする。学科名称は、短期大学部での実績を基に発展的に改編することから継承した。

学部名：学芸学部 Faculty of Arts and Sciences

学科名：生活デザイン学科 Department of Contemporary Life Design

学 位：学士（生活デザイン学）Bachelor of Arts, Contemporary Life Design

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

■教育課程の編成と体系付け

本学科は、これまでの短期大学部生活デザイン学科での実績を踏まえ、デザインを生活者としての総合的視点を出発点とするデザインとして捉え、専門性と総合性の融合である「生活デザイン」教育を目指す。

また、本学科の教育目的は、先述している通り生活者としての視点で、社会を的確に捉え、読み解く力を養うと共に、社会での自立を目標に幅広い知識や教養を身に付け、人の生活を基盤とした生活のしくみ、環境、情報、モノをデザインする力を養い、クリエイションを通して社会で活躍できる人材を育成することである。それには、デザインの基礎を学びデザインを知ることからはじめ、デザインの専門領域を理解し、多様なデザインの手段の会得とデザインの総合性の深化を図り、知性と感性をクロスオーバーさせながら個性豊かな創造力を育成するカリキュラムを構成し、四年制としてより一層充実した実践的教育課程を編成する。

本学科は、上記の理由から短期大学部の領域構成を継承して、デザインの三領域と呼ばれる環境のデザイン、生産のデザイン、コミュニケーション（情報・伝達）のデザインをそれぞれ空間デザイン、生産デザイン、視覚デザインの3領域構成とする。名称は、環境のデザインを、住むため、活動するための空間を考えるデザインとして「空間デザイン」、生産のデザインを、人によりつくりだされ使われる製品のデザインとしてそのまま「生産のデザイン」、コミュニケーション（情報・伝達）のデザインを、情報を具体的に見えるカタチで伝えるデザインとして「視覚デザイン」とした。

また、デザイン教育とは一元的な指導ではなく、各専門領域においては、学生と教員の距離が一番近い親方から弟子への技術伝承の関係のような、フェイス・トゥ・フェイスでの、キメ細かく、個性を尊重する指導を行わなければならないことから、専門領域の核である8つの研究室を工房と称し、空間デザイン（建築工房、室内工房）、生産デザイン（ファッション工房、テキスタイル工房、プロダクト1工房・プロダクト2工房）、視覚デザイン（デジタルデザイン工房、イラストレーション工房）の8工房を設置する。（※以下、研究室として用いる専門領域を工房とする。）本学科のカリキュラムは、この8つの工房を専

門にとらわれず並行して履修することができ、デザインを幅広く学べるものとする。学生は、幅広くデザインを学ぶことから始め、段階的に各自のデザインの軸となるデザイン領域を絞り込む。最終的な卒業の段階ではいずれかの工房に所属するが、最後まで複数の工房に係わって学ぶことが出来、その工房の組み合わせ方が学びの個性となって多様化した社会に対応する多彩な人材が育つ基礎となる。

教育課程の編成は、総合大学に設置する学科であることと学芸学部に所属することによる教養教育の充実を基盤とし、教養科目である〈全学共通科目〉と、空間デザイン、生産デザイン、視覚デザインの8工房に係わる〈専門教育科目〉によるものとする。さらに〈専門教育科目〉は、学科全体に共通する方法論、表現技術に係わる科目を〈生活デザイン総合科目〉とし、それぞれ授業形態により〈デザイン教養科目〉〈基礎講義科目〉〈基礎演習科目〉〈基礎技法科目〉の4構成として、2年次の前半である3セメスタまでにその大半を履修し、デザインを学ぶ上でのリテラシーを身に付けることが出来るように配置する。特に1年次前半の1セメスタは、さまざまな領域の視点から生活とデザインの係わりを概観し紹介する科目である「生活とデザイン」を配置し、さらに領域を網羅するように科目を履修して「生活デザイン」全般を学び、以降の各工房の教育につなげることが出来るように科目を配置する。そして、2年次後半である4セメスタからは、各工房単位で並行して設けられた方法論、表現技術を〈生活デザイン各論〉として、複数の工房を並行して履修し、デザインを幅広く学びながら総合的視点からの発想を持つ生活デザインを深めていくことが出来るように配置する。さらに生活の中での各工房のデザインの位置付けの理解と、自分の生活デザインの軸となる工房の確認のために、5セメスタで工房を横断する総合デザインプロジェクトを経験する科目を配置し、4年次の後半である8セメスタに本学科での学びの集大成であるデザインプロジェクトとしての卒業制作を配置する。

教養科目である〈全学共通科目〉は、社会人として自立し、社会におけるさまざまな課題を的確に読み解く力を養うための幅広い知識や教養と、社会における活動に不可欠なコミュニケーションやプレゼンテーションの能力を高め、「生活デザイン」を実践することをサポートするための素養として必要である。本学の〈全学共通科目〉は、1年次から配置され、将来の進路計画を中心に自身の関心や問題意識により適宜履修していくことが出来るよう全てのセメスタに開講されている。しかし、学ぶ目的が明確でないまま単位取得のためだけに履修されるのではなく、専門科目での各デザイン領域の学びを踏まえて、自己表現につながる目的意識をもって、デザインの〈専門教育科目〉と相互に啓発されながら履修されることが望ましい。そこで、専門科目の学習効果を高め、課題の解決方法やデザイン・コンセプトの組立を充実させ、デザインの意味と内容を高める意味合いのより高い科目は2年次後半から3年次に履修し、語学のように社会人一般としてのリテラシーを学ぶ科目は1年次から履修するよう指導するものとする。本学科における教育課程編成の骨子は以下の通りである。

- 1) 「生活デザイン」を総合的に学び実践するためには、デザイン表現リテラシーの修得が

不可欠である。3領域8工房の各専門領域に共通するリテラシーとしての方法論と表現技術を段階的に修得できるように授業科目を設定。

- 2) 工房にとらわれることなく、複数の専門科目を並行して履修し、デザインを幅広く学びながら各自の学びの独自性に合わせたプログラムで「生活デザイン」を深めていくことができるように、3領域8工房の各専門領域の授業科目を並行して設定。

特に4セメスタ以降は、工房ごとに「デザイン演習Ⅰ、Ⅱ」を配置し、さまざまな授業科目で学んだことを具体的なデザインとして実践していく学びの軸とする。

- 3) 社会のさまざまな領域におけるプロセスや成果物において、今やコンピュータ利用は必要不可欠である。まして新しい方法とカタチを創り出すデザインにあっては、デザインの方法としてもその表現としてもコンピュータに関わる情報関連知識と操作スキルが必須である。デザインの表現技術と操作スキル、事務処理の道具としての操作スキル、情報収集と発信に必要な知識とルールやマナー、デザインの道具としてのスキルを段階的に修得できるよう授業科目を設定。

- 4) 本学科の特色の一つでもある、プロジェクトを通してデザインを実践的に学ぶことができる①「デザインプロジェクトⅠ」、②「デザインプロジェクトⅡ-1」、③「デザインプロジェクトⅡ-2」、④「デザイン研修Ⅰ」（作品発表―産学連携プロジェクトや地域連携プロジェクトへの参加、公募展をはじめとする展示会等への参加）⑤「デザイン研修Ⅱ」（見学―海外における現地でのデザイン研修）⑥「デザイン研修Ⅲ」（インターシップ）、⑦「デザイン研修Ⅳ」（デザイン表現の幅を広げる技法修得集中演習など）など、通常の教室内の授業を超えた多彩な教育を可能とする授業科目を設定。

- 5) 工房の知識や技法修得の保証であり、社会におけるキャリアの幅を広げることができる資格の取得を支援する授業科目を設定。

- 6) 本学科の目標の一つである「レッサーデザイン」を担当できる人材を育成するために必要な科目として、社会人としてのリテラシーを学ぶことができるキャリア支援授業科目を設定。

■科目区分の設定及びその理由

専門科目は、デザインの基礎を学びデザインを知ることからはじめ、デザインの専門領域を理解し、多様なデザインの表現手段の会得と、デザインの総合性の深化を図り、知性と感性をクロスオーバーさせながら個性豊かな創造力を育成することができる設定とする。

専門科目における必修科目・選択必修科目・選択科目の設定は、カリキュラム全体にわたり複数の工房の科目を並行して履修し、デザインを幅広く学びながら各自の学びの独自

性に合わせたプログラムで多様なアプローチから「生活デザイン」を学ぶことができるようにするため、必修科目を極力少なくしている。

「生活デザイン総合科目」は、「生活デザイン」の基本的考え方を知るとともに、各工房に共通したデザイン表現リテラシーとしての方法論と表現技術を修得することが目的である。生活デザインの総合的視点を特に養うための「生活とデザイン」と、すべてのデザイン領域の基礎的技法となる「コンピュータ表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を必修とする。そのほか、デザイン教養科目、基礎講義科目、基礎演習科目、基礎技法科目は選択必修科目としている。

〈生活デザイン各論〉は、生活デザインの総合的視野の中で各デザイン領域の社会における位置を学ぶ「デザインプロジェクトⅠ」と、各自の選択した生活デザインのあり方を最終的に表現するための「デザインプロジェクトⅡ」「デザインプロジェクトⅢ」を必修とする。さらに、デザインの専門領域を並行して複数学びながら専門性と総合性の融合を目指した生活デザインを深めていくことができるよう、各工房単位で選択必修と選択科目としている。

また、社会人としてのリテラシーを学ぶことができるキャリア支援授業として設けた〈キャリア研修〉は、全ての学生に必要であるため必修とした。

教養科目である〈全学共通科目〉は、基礎共通科目として本学共通に指定されている必修科目のほか、生活デザインの学びをサポートする科目、就職先での業務に必要とされる科目を各セメスタ開始時のオリエンテーションで学生の履修計画に合わせて指導する。

科目区分は以下に記述する。

全学共通科目

「生活デザイン」の実践をサポートし、社会人として自立するための幅広い知識や教養、コミュニケーション能力を高めるための素養を身に付けるための科目群として位置付ける。

先述したように、本学の教養科目である〈全学共通科目〉は、基礎共通科目、共通教養科目、外国語から構成されており、1年次から配置され、学科指定科目と学科推薦科目を中心に自身の関心や問題意識により適宜履修していくことができるよう全てのセメスタに開講されている。しかし、専門科目と教養科目による学びの相互の効果を得るために2年次後半から3年次に履修するように指導する科目と、社会人としてのリテラシーを学ぶために1年次から履修するよう指導する科目を置く。

1)「基礎共通科目」は、3つの講座で構成されている。3科目6単位設け、必修4単位とする。

①「女性総合講座」は、本学の建学の精神、歴史を学び相模女子大学の学生としての自覚を養い、教養を身に付ける意味を学び、大学での教育システムや学生生活を計画する手掛かりを学ぶことを目的としている。学長、客員教授、外部講師等によるオムニバス形式で行われる。必修2単位とする。

②「基礎教育講座」は、大学での学び方の基本を理解することを目的としている。4年間の学習生活に必要な基礎とコミュニケーション力を養う。また、学科固有の専門

教育科目のリテラシーを補い、自立的な学習を推進するための授業計画と演習形式で行う。この授業の一環として、本学科は入学直後の新生に対する宿泊研修を実施する。必修2単位とする。

- ③「さがみ発想講座」は、本学が今後果たすべき使命を「地域の未来を、女性ならではの着眼点で発想し、貢献する女性を育てる」として、「見つめる人になる。見つける人になる。」のスローガンを新しく掲げた。スローガンをカリキュラムに具体化する一歩として設けている。発想力が広がることを目的としている。2単位とする。

- 2)「共通教養科目」は、本学科においては工房を超えて広い視野や知性を深め学生の課題探求能力を育成するだけでなく、豊かな人間性を育む知性、現代社会が抱える諸課題を総合的に判断する能力を育て、実社会において自立する基礎的素養となることを目的としている。

そのためにこの科目は、「人間と文化」、「科学と環境」、「現代社会と国際化」、「健康とスポーツ」、「情報とキャリア」、「地域協働活動」の科目群から構成されている。本学科の学生はそれぞれの科目群を踏まえて、自分の問題意識や関心に応じて、主体的に履修する。また、自立した社会人として、卒業後の具体的進路先でデザイン能力と教養を活かしながら「レッサーデザイン」を担当できることを目標として、工房を通して各群から修得が推奨される科目を指導するものとする。51科目95単位設け、「人間と文化」群は選択必修2単位以上、「科学と環境」群は選択必修2単位以上、「現代社会と国際化」群は選択必修2単位以上、「健康とスポーツ」群は選択必修1単位以上、「情報とキャリア」群は選択必修2単位以上とする。

- 3)「外国語科目」は、グローバル化される社会においてますます重要になっている外国語を修得すると共に異文化を理解することを目的に英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、中国語、韓国／朝鮮語、特設外国語の各外国語、及び「海外英語集中講座」、「英語集中講座」から構成されている。留学する機会も設けられている。本学科の学生においては、外国語の文献やネット情報等によるデザインの情報収集、海外での作品発表や見学などに英語は必須であるため、修得することを指導するものとする。23科目28単位設け、選択必修3単位以上とする。

専門教育科目

〈生活デザイン総合科目〉

授業形態によりデザイン教養科目、基礎講義科目、基礎演習科目、基礎技法科目の4構成とし、1～6セメスタに配置する。

デザインを幅広く学び表現するためには、デザイン表現リテラシーの修得が不可欠である。これらの科目は、8工房の各専門領域に共通するデザイン表現リテラシーとしての方法論と表現技術を段階的に修得できるように、多くの科目を並行して履修できるよう配置する。

- 1)「デザイン教養科目」は、デザインの前提となる社会的教養を習得することを目的に4科目を1セメスタから6セメスタに配置している。

全学共通科目同様、4セメスタ以降各工房で学ぶことで得た自分の関心や問題意識の広がりにより、遡って履修できるように指導するものとする。

デザインを学ぶための基礎知識として、社会に通用する教養として、「近・現代美術史」「環境学」を設けている。

また、デザインは他者に対して言葉で自分の考えを正確に伝えるためのプレゼンテーション技術が必要であり、情報を収集する際の意味の理解が必要であることから、「イメージと言葉」を設け、デザインは経済活動であることから起業のスタートアップに必要な要素を通して経済、経営、会社組織の基本を学ぶための「スモールビジネス」を設けている。4科目8単位設け、選択必修4単位以上とする。

- 2)「基礎講義科目」は、各工房におけるデザインの歴史、デザインの入門的な知識や方法論など「生活デザイン」の一般的素養を修得するための講義科目とし、幅広くデザインを学ぶためのリテラシーとなる科目とし、14科目28単位設け、必修2単位、選択必修10単位以上とする。
- 3)「基礎演習科目」は、デザインの基礎的表現方法を修得するための演習科目とし、幅広くデザインを学ぶためのリテラシーとなる科目とし、23科目30単位設け、必修5単位、選択必修6単位以上とする。
- 4)「基礎技法科目」は、各工房における基礎的デザイン技法を修得する科目とし、幅広くデザインを学ぶためのリテラシーとなる科目とし、15科目23単位設け、選択必修6単位以上とする。

〈生活デザイン各論〉

8工房に必要な方法論と表現技術を修得できる科目を4セメスタ以降に配置する。科目と単位数は、デザインプロジェクトを除いて空間デザイン領域が14科目27単位、生産デザイン領域が8科目16単位、視覚デザイン領域が7科目14単位とし、3領域合わせて選択必修8単位以上とする。

〈デザインプロジェクト〉

実践的にデザインを学ぶことは本学科の特色の一つである。4年間のカリキュラムにおける枢要の授業科目として、実践的にデザインを学ぶデザインプロジェクトを3段階構成で配置する。3科目6単位設け、全て必修とする。

- 1) 1段階は「デザインプロジェクトⅠ」と称し、4年間の要の期間である3年生の前半5セメスタに配置する。学科でメインとなるテーマを設け、8つの工房を横断する総合デザインプロジェクトとしての授業とする。プロジェクトはグループワークとし、デザインを展開する際の役割を分担して実施する。メインテーマを基に各グループで個々のテーマを設定して、授業のプロセスに合わせて展開し、具体的な提案を行う。すべてのプロセスに全教員が係わり、各専門からの立場で指導する。各教員からの異なる見解に対してグループ内で意見や考えをまとめ、説明し説得していく能力とデザ

インをまとめていく能力を各自がグループワークを通して身に付けることを目指す。このデザインプロジェクトを通して、デザイン能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を実践的に向上させ、社会人としての基礎力を養う。また、さまざまなアプローチによってデザインが生活を形づくる過程を知り、それぞれの専門領域である工房の位置付けを知って、それまで身に付けた専門知識や技術の上に総合デザインとして表現するため、さらに要請される学びの要素を再認識し、今後の自己表現の軸として深めていくデザイン専門領域の確認を行う要の課程とする。

- 2) 2段階は「デザインプロジェクトⅡ－1」と称し、7セメスタに配置する。卒業制作の前段として、学生各自で関心を持つテーマを設定し、自分が深める工房を軸に必要な他の工房を重ねながら、「生活デザイン」を新しいカタチとして表現し、提案するための準備段階とする。実社会の現状である産業や経済、科学技術、環境などについて情報を収集し、各工房を軸に総合的視点からその理解と認識を深め、「生活デザイン」としてのカタチを探り、深化させて卒業制作へとつなぐことを目指す。制作は、工房間の連携による総合的視点からの指導を受けながら進める。
- 3) 3段階は「デザインプロジェクトⅡ－2」と称し、8セメスタに配置する。四年間の集大成である卒業制作に取り組む。「デザインプロジェクトⅡ－1」の成果を基に、〈生活デザイン〉を具体的で新しいカタチとして実践するために学生各自が集大成としてのテーマを設定する。いずれかの工房を軸に、必要に応じて他の工房での制作や指導を取り入れながら、生活を幅広い視野で総合デザインとして捉え、実践し、社会に向けて提案するとともに社会への出発点とする。

〈資格支援科目〉

一級建築士、二級建築士を除く資格を支援する演習科目として、3、4セメスタに配置し、5セメスタ以降でも履修できるものとする。設置する「カラーコーディネイト演習」「ファッションビジネス演習」「インテリアコーディネイト演習」「福祉住環境演習」は、「生活デザイン」を実践する上でサポートとなる資格を取得できる科目である。科目数と単位数は、4科目4単位とする。

〈キャリア支援科目〉

社会人としての基礎素養として、さらに就職対策として、必修科目とする学科独自の二つのキャリア研修を設ける。4セメスタまでに単位を修得するよう指導するものとする。科目数と単位数は、2科目2単位とし、必修2単位とする。

- ・「キャリア研修Ⅰ」（必修科目）は、将来の進路に向けて、大学での学びをより理解するための基礎学力を養うことを目的に、高校までの学習の復習を行う教育科目とする。1セメスタに配置し、3セメスタでも履修できるものとする。eラーニングにより学習する。また、一定のレベルに達している学生は、SPI対策と英語等の外国語や実社会で役に

立つ講座をeラーニングにより履修できるものとする。

- ・「キャリア研修Ⅱ」（必修科目）は、さまざまな分野・領域における社会人としてのリテラシーを学習するための教育科目とする。4セメスタに配置する。

※ 5セメスタ以降のキャリア支援プログラムは、全学共通科目およびキャリア支援グループが実施するプログラムによりキャリア形成を行うものとする。

〈デザイン研修〉

本学科の特色の一つである。社会を通してデザインを実践的に体験しながら学び、デザインの総合性としての専門領域の理解を促がすとともに、自身の学びの確認や計画および進路決定への指針、デザイン深化の手がかりとなることを目標としている。学生の関心に併せて自主性と積極性を優先して実施することから、集中的でより柔軟な授業形態をとる研修科目として、4つのデザイン研修科目を選択科目として設ける。科目数と単位数は、4科目8単位とする。

デザイン研修の各研修をⅠ～Ⅳとして区別しているが、これは本学の全学共通科目の名称に方式を合わせたものである。それぞれの括弧書きでその内容がわかるようにしてあり、Ⅰ～Ⅳへのステップアップを意味するものではなく順番を問わずそれぞれ独立して履修することができる。入学時の宿泊研修の履修指導でこの点を周知徹底するほか、セメスタ毎のオリエンテーションでも再確認する。

◎「デザイン研修Ⅰ」（作品発表）：

3年次に通年で配置する。

社会から実践的にデザインを学ぶ事を目的に、学生自らデザインを社会に向けて提案、発表する。地域でのデザイン制作協力やイベントの企画・参加などを始めとする地域連携プロジェクト、企業や行政などとの産学官連携プロジェクト、グローバルに展開される各種デザインコンペ、公募展をはじめとする展示会への参加などを、工房を軸として実施する。

そこでのデザイン展開プロセスやプレゼンテーション能力、デザイン表現力に対する評価、実地で学び取ったコミュニケーション方法や知識を通して、デザインに必要な基礎力を実地で実践的に向上させ、社会人としての基礎を養うことを目指す。また、自身の進路決定の指針、デザインの深化の手がかりとなることを目標とする。希望する学生は、実施途中で履修登録し、プレゼンテーションをはじめ適宜の方法で評価を受け、単位の認定を受ける。制作は、該当する工房の指導を受けながら進める。

◎「デザイン研修Ⅱ」（デザイン見学）：

2、3年次の休業期間に配置する。

異なる文化において優れたデザインに出会う体験を重ねることは、デザインを学ぶ上

で必須である。美術館・博物館、また実際のフィールドで、さまざまなデザインを見学する機会を、集中研修の形で実施する。見学対象について、学生が事前・事後の調査を行い、レポートを作成・発表する。1回／2年の開講とし、原則として海外での見学に基づく研修を行う。

◎「デザイン研修Ⅲ」（インターンシップ）：

就職活動と係わりが深いため3年次の休業期間に配置する。

大学で学んだことを社会との関係の中で理解することは、将来のイメージを育む意味で勉学の有効な動機づけになるとともに、専門の理解を深めるうえでも極めて有意義である。デザイン関連をはじめとするさまざまな企業・職種でのインターンシップを中心に、幅広い形で実社会での仕事の経験を積み、仕事の社会的責任と社会におけるデザインの各分野の役割を学ぶことを目的とする。実施時期は各インターンシップ派遣先と折衝して決定し、夏季および春季の休業期間に行う。

◎「デザイン研修Ⅳ」（デザインスキルアップ）：

基礎知識と技法を基にしたデザイン技法会得のための学外での集中実習であるため、2年次の夏季休業期間に配置する。

社会において実際に運営されているスタジオに出向き、実践的にデザイン制作を体験し、デザイン制作が経済活動であることを学ぶと共に、各工房を超えて、デザイン技法会得と技術を向上させることを目的とする夏季集中実習とする。開講実習科目は版画演習(エッチング・木版画等)／アクセサリーデザインとする。

以上の科目をもって履修課程を以下のように構成する。

■履修課程：専門科目履修の流れ（資料3）

1) デザインを知る課程（1セメスタ）：

デザインの三領域（空間デザイン・生産デザイン・視覚デザイン）をデザインの基礎として幅広く学び、デザインの目的とその意味を理解し、日常の生活とデザインの係わりを知ることから始める。デザイン表現の基礎として、全てのデザイン領域つまり工房に共通する平面デザイン、立体デザイン、絵画表現、デッサンをはじめとする描画力や構成力、コンピュータ操作など、表現技法の習熟を図る。また、フィールドワークを通して優れたデザインや環境に接することにより、デザインの有用性を学ぶ。

2) 専門領域を知る課程（2、3セメスタ）：

デザインの各専門領域である8工房に係る科目を通して、一つの工房におけるデザ

インのあり方と複数の他の工房との関係を学び、デザインの総合性と各専門領域である工房の位置を理解する。複数の工房を並行して学ぶ。

3) 軸とする専門領域へトライアルする課程（4セメスタ）：

3セメスタまでに学習した複数の工房から絞り込んだ工房で方法と表現技術を深め、自分のデザインに相応しい軸となる工房を確認するトライアル課程とする。

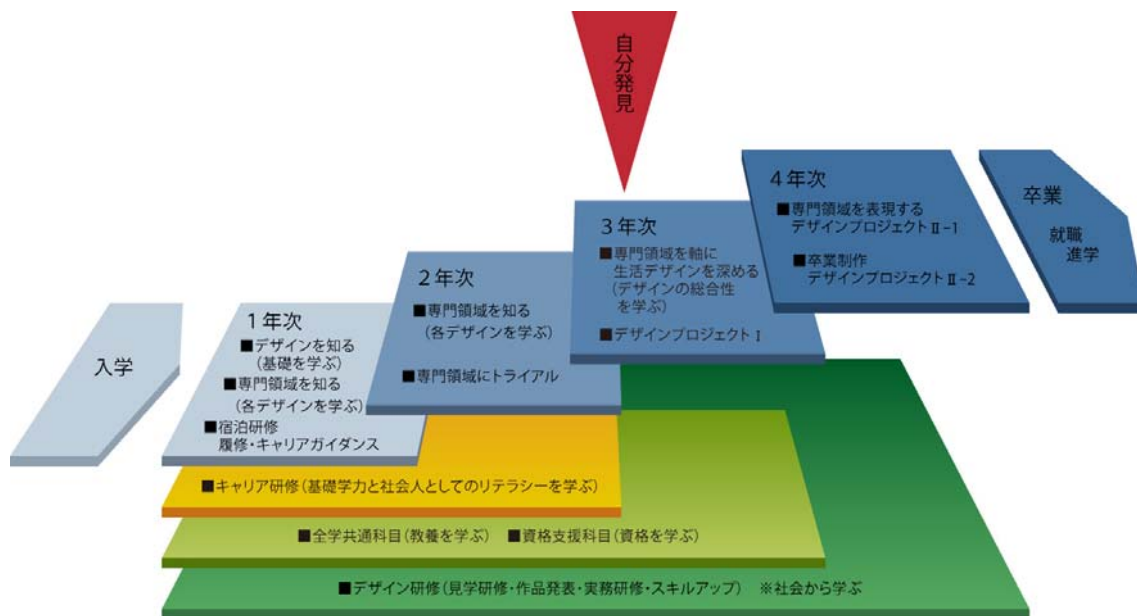
4) 自分を発見する課程（5セメスタ）：4年間の要となる重要な課程と位置づける。

幅広く学習したデザイン領域の中から選択し、4セメスタで確認した自分に相応しい工房を軸に、各工房を横断して実施するデザインプロジェクトⅠを中心に履修する。社会人としての基礎力を身に付け、学習意欲を高めると共に、専門領域である工房を軸に総合的視点で学ぶことのモチベーションを高め、卒業までの充実を図り、「生活デザイン」を通した自己実現に向けての計画を練ることができるセメスタである。また、軸となる工房の「生活デザイン」全体における位置づけを認識し、工房のデザインの専門知識を総合デザインとして実践するためにさらに要請される学びの要素を再認識し、以降の学びを構築することができる課程とする。すなわち自分を知り、自分を発見することができる、4年間の要の課程とする。

5) 軸となる専門領域を中心に他の専門領域を重ね、「生活デザイン」の深化を図り、総合としてのデザインを学ぶ課程（6、7、8セメスタ）：

各自のデザインの軸となる専門領域である工房をさらに深く学ぶとともに、将来への意図を持って「生活デザイン」として学びの巾を広げることのできる期間である。デザインプロジェクトⅡ－1において、卒業制作の前段として社会を観察し、情報を収集しながら専門領域での表現力の深化を図り、デザインの総合的視座の獲得を図る。

デザインプロジェクトⅡ－2の卒業制作においては4年間の知識と表現技術と実践力の集大成として、「生活デザイン」を実践すると共に、社会への出発点とする。



オ 教員組織の編成の考え方及び特色

本学科のデザイン教育においては、実践的にデザインを修得させることが枢要である。デザイン領域毎に、その領域のデザインを専門として教育・研究および企業等で実務として実践にあたってきた専任教員を専門科目にバランスよく配置し、兼任教員による教育との十分な連携を図るとともに、個々の学生を把握しフェイス・トゥ・フェイスで指導することができる、責任ある教育体制にすることが必須である。本学科は、専門領域を研究室単位で8工房として設置することから、空間デザイン領域に2名、生産デザイン領域に4名、視覚デザイン領域に2名、合計8名の専任教員構成とする。

このうち、空間デザイン領域2名、生産デザイン領域2名、視覚デザイン領域2名、合計6名は、短期大学部生活デザイン学科の専任教員を配置する。残りの2名については、生産デザイン領域に平成25(2013)年4月着任として、1名は企業の雑貨やパッケージ等のデザイン専門分野において現役で活躍している人材を、他の1名はファッションデザイン専門分野において現役で活躍しながら教育経験を有する人材を新規に採用した。また、生産デザイン領域4名の内1名は平成26年3月に定年退職するため、平成26年度に後任としてテキスタイルデザイン専門分野において現役で活躍しながら教員経験を有する者1名を4月着任とする。したがって、相模女子大学就業規則第32条には、「職員の定年は、満65歳とする。ただし、大学教育職員(助手を除く)にあつては満67歳とする」と規定しているが、教員の年齢構成表に示す通り完成年次までの教員組織の編成上の問題は生じない。

■専任教員の組織編成の特色

デザイン専門領域としての8工房は、各領域である、建築（室内）デザイン、ファッションデザイン、テキスタイルデザイン、プロダクトデザイン（機器関係、雑貨とパッケージ関係）、デジタルデザイン、イラストレーション（グラフィックデザインも含む）に専門を持つ教員からなる。教育・研究での業績はもとより企業を始めとするデザインの現場において、実務として実践にあたり多くの業績を有する専任教員により、各専門の軸となる授業科目を担当しながら学科としての組織を運営している。そのような専任教員であることが、必修科目、選択必修科目、選択科目である演習科目を中心に学生一人ひとりに対して実践としての生活デザインを指導することを可能としている。

また、デザインは常に自然環境、産業、経済、科学・技術と係わりあって人のためであり、デザイン教育においても同じである。それら多くの技術や情報を含んだデザインを、より深く生活デザインを学ぶ場として、デザインの現場における実際のデザインをリアルタイムで学生に伝えることも重要である。本学科の専任教員には、教育にウェイトをおきながら現役でデザイン制作活動を行うとともに多くの業績を有する教員も多く、デザインの現場における実際のデザインをリアルタイムで指導することが可能であり、学生一人ひとりが導き出す解に対して、デザインの現場からの視点で生きた具体的な対応を可能としている。

兼任教員の役割も同じ理由で重要であり、現役で第一線で活躍しながら、デザインの現場における実際のデザインをリアルタイムで伝え指導できる兼任教員の充実を図っている。

デザインの現場で、現役で活躍している専任教員においては短期大学部でも同様であるが、教育についてはいうまでもなく、教授会関係委員、役職、学科の分掌業務、オープンキャンパスや入学試験に関する担当分掌など、すべての大学の組織運営を支障なく行っていることから、四年制においても支障を来すことは無く、むしろその実績と業績が教育に還元されているといえる。

■教員の年齢構成

本学科が開設となる平成25（2013）年4月時点での教員年齢構成は、60歳代2名、50歳代3名、40歳代1名、30歳代2名である。平成25（2013）年度4月着任の2名が30歳代である。

また、平成26（2014）年3月に1名が定年退職し、平成26（2014）年4月着任の後任教員の年齢は50歳代である。したがって本学科の完成年度である平成28（2016）年4月での年齢構成は、60歳代3名、50歳代2名、40歳代2名、30歳代1名であり、極端な偏りはない。

生活デザインを実践する指導においては、熟年教員を中心に中堅教員と若手教員が前者を支えかつリードしていくことが期待される構成である。

教員の年齢構成表

	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代
2013 年 4 月	2 名(教授 1・准教授 1)	3 名(教授 3)	1 名(准教授 1)	2 名(講師 2)
2014 年 4 月	3 名(教授 3)	2 名(教授 1・講師 1)	2 名(准教授 1・講師 1)	1 名(講師 1)
2015 年 4 月	3 名(教授 3)	2 名(教授 1・講師 1)	2 名(准教授 1・講師 1)	1 名(講師 1)
2016 年 4 月	3 名(教授 3)	2 名(教授 1・講師 1)	2 名(准教授 1・講師 1)	1 名(講師 1)

カ 教育方法、履修指導方法および卒業要件

■教育方法

〈授業形態〉

専門科目は、講義科目と演習科目を中心に、エの項目で履修課程として記述したように段階を追って表現力と表現技術を養いながら専門領域を涵養することを通して、創造力を育成する方法であることが求められる。演習をはじめとして各授業で設定する課題を教育の中心におき、フィールドサーベイ、オブザベーションを基にして、教員とディスカッションしながら各自の答を導き出す過程と、答を説明する場であり教員や場合によっては学生同士でのアドバイスと講評の場でもあるプレゼンテーションの過程とを充実させることで、創造力を育成する。また、演習科目においてはポートフォリオを作成し、その内容をフィードバックできる形式の授業とする。

〈少人数制〉

「学科の特色」と重複するが、デザイン教育は、学生一人ひとりが導き出した解に対してそれぞれ対応することが求められる。いわゆるフェイス・トゥ・フェイスによる指導が、豊かな発想力とオリジナリティーを育む源となる。入学定員を45名とすることで講義科目は授業により6～10名、20～30名、最大で学科共通必修科目が45名の授業とし、きめの細かい指導により全員の理解度を上げることを目標とする。また、フェイス・トゥ・フェイスでの指導が、より一層必要とされる演習科目は、8工房の専門領域における各授業が6～10名となり、一人ひとりに行き届いた指導体制を取ることができる。

配当年次については、先述した「科目区分の設定及びその理由」の通りであり、効果的な教育を行うことができる。

〈学生の相談・支援〉

生活デザイン学科の教員は企業等でのデザイン業務経験者が大半を占めており、キャリア計画を始めとするデザインの各領域に対する進路、将来設計など科目履修方法も含

めてリアルタイムに相談と支援を行える体制を取ることができる。

また授業科目のうち、各工房のデザイン演習は学びの軸となる授業科目であるので、「デザイン演習Ⅰ」または「デザイン演習Ⅱ」のいずれかまたは両方を専任の教員が受け持つようにする。一方、工房を開かれたものにし学生が多様なデザインに触れる機会を確保するため、各工房のデザイン演習その他の演習に必要な応じて非常勤の教員も積極的に配置する。その結果、専任が担当しない「デザイン演習」がある場合でも、空間デザイン、生産デザイン、視覚デザインの領域ごとにみれば専任の教員が少なくとも1人担当しているようにし、工房間の連携をよくすることによって学生が工房に出入りしやすい環境を整える。

さらに学生が相談しやすい環境づくりの一つとして、各教員の研究室は、演習室に近い場所に設けている。モノづくりを目的とする領域であるため、教員同士、教員と学生とのコミュニケーションが重要であり、個別指導、資料や道具類の運搬及び安全確保等緊急の対応を要することからである。

また、本学はクラス担任制を実施しており、学生生活や学習などの日常的な相談と支援を行う体制を取ることができる。

■履修指導方法

本学のカリキュラムは、春学期・秋学期の2学期制のセメスタ制である。セメスタごとに、段階的にデザインに必要な方法論と表現技術を修得できるよう構成している。

履修指導としては、短期大学部での成果を四年制においても継承する入学直後の1泊2日の宿泊研修を実施し、学科の目的や学科の履修の流れをはじめとするカリキュラムと将来の進路に向けた4年間の学習計画、学生生活計画についての十分なガイダンスを行い、学びのスタートとして学生の関心に応じた1セメスタと2セメスタの時間割作成を指導する。短期大学部における宿泊研修は、将来の進路に関するイメージ作り、友達作り、学ぶ目的など学生生活の充実に成果を上げている。また、各工房担当教員がセメスタごとに、将来の進路に基づいた履修モデルをもとに基本となる履修科目を提示し、進路に沿った履修指導を行い、一人ひとりの学生が迷いなく履修できる体制とする。このような丁寧な履修指導が履修の偏りを減らすとともに授業への積極的な取り組みを生み出すことになる。デザイン教養科目とキャリア研修および教養科目（全学共通科目）に関しては、エの教育課程の編成の考え方及び特色の項の「科目区分の設定及びその理由」で前述した指導を行う。

〈履修モデル〉

基本的な履修モデルとして、8セメスタのデザインプロジェクトⅡ－2の卒業制作を行う軸となる各工房で想定される複数の進路について用意する。用意する履修モデルは、①建築工房（資料4）、②室内工房（資料5）、③ファッション工房（資料6）、④テキスタイル工房（資料7）、⑤プロダクト1工房（資料8）、⑥プロダクト2工房（資料9）⑦デ

デジタルデザイン工房（資料 10）、⑧イラストレーション工房（資料 11）、とする。

学生は、自分の関心や将来の進路、資格取得等に照らし合わせて、履修モデルを参照しながら、各自のカリキュラムを構成する。

各工房の目指す進路に向けた履修モデルは以下の通りとする。

①建築工房（資料 4）

一建築士（実務経験 3 年）の資格取得を目指すモデル

②室内工房（資料 5）

二級建築士（実務経験 0 年）・インテリアコーディネーターの資格取得、インテリアテクニカル関係への就職を目指すモデル

③ファッション工房（資料 6）

アパレルメーカー（デザイナー、パタンナー、生産管理）への就職、ファッションアドバイザーを目指すモデル

④テキスタイル工房（資料 7）

アパレル関連企業（デザイナー、アシスタント、商品企画）への就職を目指すモデル

⑤プロダクト 1 工房（資料 8）

機器・製造・販売メーカー（製品企画・開発、社内広報担当）への就職を目指すモデル

⑥プロダクト 2 工房（資料 9）

アパレル雑貨・製造・販売メーカー（製品企画・開発、社内広報担当）への就職を目指すモデル

⑦デジタルデザイン工房（資料 10）

WEB デザイン、グラフィックデザインと各企業広報部（WEB 系デザイン事務所・DTP 系デザイン事務所・企業内広報部）への就職を目指すモデル

⑧イラストレーション工房（資料 11）

企業内グラフィックデザイン、企画広報担当への就職を目指すモデル

■卒業要件

生活デザイン学科の卒業単位数は、124 単位とする。その構成は、全学共通科目 24 単位以上（必修科目 4 単位、選択必修科目 12 単位、選択科目 8 単位）とし、専門教育科目は 80 単位以上（必修科目 15 単位、選択必修科目 36 単位、選択科目 29 単位）に自由科目 20 単位以上とする。各セメスタで修得できる単位数の上限は 24 単位である。各必修科目、必修選択科目、選択科目の科目数、単位数は、エの教育課程の編成の考え方及び特色の項の「科目区分の設定及びその理由」で説明した内容から設定している。

キ 施設、設備等の整備計画

α) 校地、運動場の整備計画

■校地について

校地は、「学校教育法」「大学設置基準」「短期大学設置基準」等が定める必要な施設・設備を有し、また、近郊都市として発展を続けている相模原市南部の中心にあるため、交通アクセスがよく、周辺を文教施設に囲まれた緑豊かな好適な教育環境の中にある。

校地として神奈川県相模原市に 173,088 m²を所有する。校地の規模は、大学及び同一法人の設置する短期大学部の合計で 126,251 m²（大学専用 36,530 m²、短期大学部専用 4,184 m²、共用 85,537 m²）、同じく同一法人の設置する高等部・中学部・小学部・幼稚部の併設各校で 46,837 m²であり、校地整備は、定常的な維持管理の他、年次整備計画により環境の整備を行っている。

今後の取り組みとしては、緑豊かな教育環境を維持し保全する組織的管理体制を構築することが急務であるとともに、近隣地域との間にさらなる連帯感や良好な協力関係を築いていくのが責務である。また、学生のみならず在校する全ての人が、快適で安全な学園生活を送れるよう、ユニバーサルデザインの図られた教育環境の構築を目指し、その改善・改革の実現に向け、限られた財源のなかで、経済的及び効果的な整備計画を推進する。

■運動場等について

学園の正門に近い位置に運動場、北門の近くに体育館を有しており、また、屋外テニスコートは運動器具の整備や全天候型のコート、夜間照明等の利便性が図られている。厚生補導施設は、1クラブ1室を確保している。学生自治会各部会室を設置し、活動に対する支援を行っている。保健室、学生相談室では、気軽に利用しやすい環境作りに努め、快適な学生生活を送れるように健康及び精神面での支援を図っている。

今後の取り組みとしては、本学でもキャンパスアメニティー「快適環境作り」とともにエコキャンパスを意識した長期・短期のキャンパス整備計画の展望や改善策を検討しながら、財政状況に応じ、順次実施していくところである。

β) 校舎等施設の整備計画

■校舎等について

校舎等の施設規模は、大学及び同一法人の設置する短期大学部の合計で 42 棟、54,120 m²である。その内、校舎は 38 棟、延床面積で 50,456 m²（同窓会 1,363 m²含む）である。他に体育館 1 棟、延床面積 1,331 m²、旧寄宿舎施設の 3 棟、延床面積 2,333 m²を所有している。校舎ごとにラウンジが配置され、講義の間の空き時間を利用した学生間のコミュニケーションづくりに活用されている。また、各校舎は、個性ある建物であり、広いキャンパスに

分散して配置され、変化に富んだ空間を提供している。反面、校舎が分散して配置されたことによって、授業間の移動に時間がかかることが難点である。

既存施設の整備については、定常的及び年次整備計画により維持・保全管理を行っている。また、事業計画により、平成4年に研究室棟及び附属図書館、平成6年に講義棟、平成13年には創立100周年記念事業として食堂を中心とした厚生施設、平成20年には、マーガレット本館(法人事務所・大学執行部・教室等)を建設した。

講義室及び演習室は、ゼミ室(10～25人収容)から大教室(430人収容)までの収容人数別の講義室、演習室があり、AV設備等その用途により必要な設備を配置している。空調、衛生等付帯設備については、機能及び安全保持のための基本的整備はもとより、安全で快適な教育空間構築を目指して整備している。機器設備についても、各講義室にAV・視聴覚機器設備、実験・実習室には実験・実習機械機器備品・什器等設備を整備して教育の実効を図っている。

教員の研究室については、研究室棟の整備により全員が個人研究室を所有しており、併せて共同研究室も整備され、教育研究スペースの充実が図られている。

現状としては、「学校教育法」「大学設置基準」「短期大学設置基準」等により定められた必要な施設・設備は充足しているが、校舎等の施設と設備・機器の老朽化が進んでおり、定常的及び年次整備計画や毎年度の事業計画の中で優先順位をつけながら改善とその維持、保全に努めているところである。

■生活デザイン学科の施設・設備・機器備品等の整備計画について

生活デザイン学科の学習に必要とされる施設・設備・機器備品については、入学定員数45名、3年次編入学者数5名の計190名の四年制として短期大学部からの更なる教育効果を図るために以下の演習室、工作室を整備する。

1) 演習室：各工房に関する演習室

①コンピュータ室(3室・内1室はデジタル工房が使用)

Windows コンピュータ107台とグラフィックソフト、基本ソフトおよび周辺機器(内26台に建築CADソフト)、Mac コンピュータ5台とグラフィックソフト、基本ソフトおよび周辺機器、学科共用のWindows コンピュータ室3室のうち1室に建築CADソフトおよびプロダクトデザイン専用CADソフトをインストールした26台のコンピュータを設置。

※上記の内、Windows PC29台、Mac PC5台、その他関連機器については、平成27年4月から使用できる環境とする。また、プロダクトデザイン専用CADソフトは平成26年4月から使用できる環境とする。

②工作室(平成27年4月完成予定)

フィルター付き換気装置、集塵機等を備えた演習室。設備は、パネルソー1台、バンドソー5台、ジグソー盤5台、卓上ドリル盤3台、ベルトサンダー(集塵機付き)1台、作業台10台、塗装用コンプレッサー、スプレーガン2台および備品を設置

③撮影スタジオ（平成27年4月完成予定）

撮影用照明セット4セット、撮影台、バックシート、三脚をはじめとする撮影用什器類およびデジタルスチルカメラ5台、ビデオカメラ5台を設置。

④空間デザイン演習室（主に建築工房、室内工房が使用）

製図室2室に平行定規を備えた製図台を計50台、学科共用のWindowsコンピュータ室3室のうち1室に建築CADソフトをインストールした26台のコンピュータを設置。

⑤ファッションデザイン演習室（主にファッション工房が使用）

ファッションデザイン実習室、ファッションデザイン準備室に工業用ミシン12台、バキューム式アイロン台3台、実習机12台を設置。また、学科共用のWindowsコンピュータ室3室のうち1室に教卓用1台を含むアパレルCADをインストールしたコンピュータ11台とアパレルプロッター、プリンター、プレス機などの周辺機器を設置。

※アパレルCADをインストールしたコンピュータは、短期大学部に3台あり残り8台については平成27年4月から使用できる環境とする。

⑥テキスタイルデザイン演習室（主にテキスタイル工房が使用）

染織室2室のうち、染め教室にガスコンロ、流し付き実習机12台と洗濯機、湯沸かし器、大型の流し、洗濯試験機、耐光試験機、摩擦試験機、染色用タンク等を設置。織り教室に織機30台、糸紡ぎ車12台等を設置。また、テキスタイルパターン展開として学科共用のWindowsコンピュータ室3室の112台（5台はMAC）全てにインストールされたグラフィックソフトによる学習環境。

⑦立体デザイン演習室（主にプロダクト1、2工房が使用）

プロダクト実習室1室に実習机46台、ボール盤4台、ジグソー2台、金工用バーナー4台、他加工、工具等の備品を設置。

また、プレゼンテーション展開やグラフィック展開として学科共用のWindowsコンピュータ室3室の112台（5台はMAC）全てにインストールされたグラフィックソフトによる学習環境とする。また、プロダクトデザインにおいて必要であるCADソフトも26台のコンピュータにインストールして使用できる環境とする。

⑧平面デザイン演習室（主にイラストレーション工房が使用）

石膏像、イーゼル、エッチングプレス機等を設置。また、グラフィックデザイン展開として学科共用のWindowsコンピュータ室3室の112台（5台はMAC）全てにインストールされたグラフィックソフトによる学習環境。

c) 図書館等の資料及び図書館の整備計画

■図書等資料の整備方針

既存の図書・学術雑誌等に追加し、四年制となる「生活デザイン」教育のカリキュラム

にあるデザイン三領域で、新たに必要となる知識や表現技術力等を身に付ける為に必要な図書、学術雑誌、視聴覚資料、電子ジャーナル、デジタルデータベース等を充実させる。

図書・学術雑誌・視聴覚資料等整備状況（完成年度）

図書	内国書	デザイン・建築学関連等	冊 14,422	冊 16,514
	外国書	デザイン・建築学関連等	2,092	
学術雑誌	内国書	デザイン・建築学関連等	種 48	種 58
	外国書	デザイン・建築学関連等	10	
視聴覚資料				1,160 点
電子ジャーナル				6 点
デジタルデータベース				39 点

■デジタルデータベース、電子ジャーナルの整備

本学では、インターネットで通常アクセスできるデジタルデータベース以外に、図書・雑誌論文・新聞記事等が検索できる NDL-OPAC や国立情報学研究所（NII）の CiNii を始め、日経テレコム 21 や雑誌記事索引集成データベースなどの利用が可能となっている。他に言葉を調べるツールとして、ジャパンナレッジ・プラス NK があるが、新たに現在活躍中の人物やあらゆるジャンルの著名人のプロフィールや、その人物関連の本・雑誌・新聞記事をまとめて調べることができる WHOPLUS と、ブリタニカ国際大百科事典の日本語版・英語版双方を網羅したブリタニカ・オンライン・ジャパンとも契約、また Free で利用できるデータベースなどもリンクを張り充実を図っている。

電子ジャーナルの利用については、本学紀要は電子化し国立情報学研究所（NII）にアップしており閲覧ができる。また、Business Source Elite の中にあるデザイン・建築学等の文献も閲覧が可能であり、その他一部のものについても、電子ジャーナルの閲覧が可能である。

■閲覧環境の整備

現行の閲覧席は 422 席（オープン席、グループ閲覧室、個室含む）であるが、学部学科構成と収容定員の変更により学生数は減少するため、現状で充分足りている。

但し、教員専用であった個室については、学生が自由に利用できるよう全室開放することとし、調査・学習に適した環境を提供している。

■レファレンスサービスおよびガイダンス教育の拡充

情報の媒体と発信が多様化しているなかで、レファレンスサービスをより充実させていく。利用者が自力で文献探索ができるよう所蔵検索や文献検索等のガイダンス教育を行うほか、各種データベース講習会にも力を入れていく。

■情報関係のサービスの充実

図書館内のグループ閲覧室 3 室に情報処理教室と同様の機能を有するノート PC38 台を設置、パソコンコーナーに 10 台デスクトップ PC を設置、その他各階のオープンスペースエリア等に同様の LAN 端末 25 台を配置し、学生が自由に情報検索やレポート等の課題作成ができる環境を整えている。今後も継続していく。

■他の大学・機関との連携の拡充

現在、国立情報学研究所の相互協力、神奈川県内大学図書館相互協力協議会、相模原市内大学図書館・市立図書館相互協力連絡会に加盟しており、文献複写依頼、現物貸借、「共通閲覧証」の発行等で利用者に便宜を図っている。これらの連携を継続していく。

■司書の人数及び配置の考え方

1) 教育研究支援センター学術情報グループ職員の配置

- ・ 附属図書館長（教授兼務） 1 人
- ・ 教育研究支援センター長 1 人
- ・ 学術情報グループマネージャー（管理職） 1 人
- ・ 専任職員 2 人（庶務・発注）
- ・ 業務委託 閲覧・参考業務、受入・整理業務

2) 配置の考え方

司書の専門業務については、業務委託によりデータの構築・品質管理ならびに利用者サービスを充実させる。

ク 入学者選抜の概要

■入学者選抜の基本方針

本学科のアドミッションポリシーは次の通りとする。

『デザインは環境的、精神的、道具的に整備された豊かな生活の確保を目指すものですが、ますます加速し進歩する科学・技術と、それと共に多様化する価値観と生活文化の動向に対して、もう一度生活の原点から問い直し、本来のデザインのあり方を導き出すことが必要になってきています。』

それには、クリエイターとしての視点だけでなく、生活者として、日々の暮らしの支

援者としての視点に立ち、デザインによる人と社会と生活環境の円滑な関わりの創出を総合的な視点から提案し、実践できる人を育てなければなりません。生活デザイン学科は、そのような考え方を「生活デザイン」として捉え、「生活デザイン」を学び、それを生かして社会で活躍できる多くの人が育つことを目標にしています。

本学科で「生活デザイン」を学ぶためには、日々の生活の中でさまざまなモノが発するメッセージを受け取り、感動する心、その意味を理解しようとする気持ち、そこから生まれる疑問や課題を観察・分析しようとする好奇心が大切です。まず好きになること、好きであることが何よりも大切になります。

さまざまなモノやコトに興味を持ち、頭の中に現れてくるカタチの無い何かを、手を使って具体的に見えるカタチにしていくプロセスを楽しむことができ、既成に捉われることなく、自らの個性を表現できる探究心と積極性を持ち合わせている人に相応しい学科です。』

以上のようなポリシーに基づき、課題を的確に把握、理解し、解決策としての「生活デザイン」を実践できる能力を持つ受験生を受け入れたい。デザインには思考し判断する理性と、感性がともに必要となるが、教育の過程において、様々な個性が相互に触発しあい学生の能力が多面的に育つようにするために、具体的には、面接におけるコミュニケーション能力、デザインへの関心やデザインに向けられた感性、学力試験から判断される理解力、思考力など、重点となる判断基準が異なる複数の試験によって多様な入学者を選抜する。

■選抜方法および募集人員：

本学科では、入学定員を 45 人と設定しているが、このうち 23 人を推薦入試で、5 人を AO 入試で、11 人を一般入試で、6 人を大学入試センター試験利用入試で募集する計画である。入試別の詳細は下表のとおりである。

近年の受験生の一般的な傾向としては、受験校数を 2～3 校程度に絞っており、特に女子の場合は自宅から通学が容易な近隣の大学を志望することが多い。本学は比較的 18 歳人口の多い地域に所在しているとはいえ、近隣には数多くの大学があり、それらの大学と受験生の奪い合いになることが多く、入試日程は競合校と同様な時期、回数となっているのが現状である。また、多様な受験生の受験機会を確保する意味合いもある。

なお、一般入試は大学 3 学部および短期大学部の試験日を同一日としており、一部を除いて共通の入試問題を使用し、教員の入試問題作成への負担を軽減している。このほか、入試当日の試験監督業務についても、特定の教員の負担にならないよう公平な割り当てをするように配慮している。

入試種別	募集人数	備 考
推薦入試	23 人	高等部推薦、指定校推薦及び公募制推薦の合計
AO 入試	5 人	
一般入試	11 人	A 日程：4 人、B 日程：3 人、C,D 日程：各 2 人 同窓生子女推薦入試及び社会人特別入試による若干名を含む
センター利用入試	6 人	A,B,C 日程；各 2 人

推薦入試では、面接によって受験生の生活デザインへの関心やモノをつくることを楽しむ力を判断する。AO 入試では、同様の面接とともにアピールシートの内容を判断する。一般入試では、各日程とも教科試験科目は、「国語」、「外国語」の 2 教科必須とし、各教科の配点は 100 点、計 200 点満点で選抜する。一方、大学入試センター試験利用入試では、A 日程、B 日程、C 日程 C1 方式は「国語」、「外国語」、「数学」、「地理歴史」、「公民」の 5 教科 23 科目の中から 2 科目選択となっており、各教科の配点は 200 点、計 400 点満点で選抜する。また、C 日程 C2 方式においては、さらに「理科」を追加し 6 教科 29 科目の中から 4 科目選択とし、計 800 点満点で選抜する。詳細は下表のとおりである。

(一般入試) A～D 日程共通

方式	教科	試験科目	配点
2 教科	国 語	国語総合（古文・漢文を除く）	100
	外国語	英語 I・II	100

(大学入試センター試験利用入試) A、B 日程および「C 日程 C1 方式」

教科	科 目	配点	選択方法
国 語	『国語』（近代以降の文章のみ）	200	2 科目を選択する
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』	200	
数 学	「数学 I」『数学 I・数学 A』	200	
	「数学 II」『数学 II・数学 B』『工業数理基礎』『簿記・会計』『情報関係基礎』	200	
地理歴史	「世界史 A」「世界史 B」「日本史 A」「日本史 B」「地理 A」	200	
公民	「地理 B」 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」『倫理、政治・経済』	200	

(大学入試センター試験利用入試)「C日程C2方式」

教科	科 目	配点	選択方法
国 語	『国語』(近代以降の文章のみ)	200	4 科目を選 択する
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』	200	
数 学	「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	200	
	「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』『工業数理基礎』『簿記・会計』『情報関係基礎』	200	
理科	「物理Ⅰ」「地学Ⅰ」「理科総合A」「理科総合B」「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」	200	
地理歴史	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」	200	
公民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」『倫理、政治・経済』	200	

ケ 資格取得を目的とする場合

■取得可能な資格

本学科の教育課程を経て資格取得可能な資格は、一級建築士(実務経験3年)、二級建築士(実務経験0年)の国家資格とカラーコーディネーター、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーターなどである。

建築士の資格については、指定科目の分野として、建築設計製図、建築計画、建築環境工学、建築設備、構造力学、建築一般構造、建築材料、建築生産、建築法規、その他がある。これらの分野ごとに指定された単位を取得し、合計で50単位以上履修すれば、建築実務経験3年で一級建築士の受験資格が得られ、40単位を履修すれば建築実務経験0年で二級建築士の受験資格が得られる。(資料12)

注記：1級建築士の受験資格については、指定科目の分野ごとに必要単位数が定められている。さらに指定科目の合計単位数に応じて受験資格取得に必要な実務経験年数が定められている。この基準に従い指定科目50単位が取得可能で実務経験3年で1級建築士の受験資格が取得できる教育課程とする。各科目が指定科目に該当するかについて、8月中旬に概要とシラバスを添えて財団法人建築技術教育普及センターに指定科目の確認申請をし、9月の審査委員会で審査を受ける予定である。なお、建築士の受験に係る単位取得については、建築工房および室内工房で履修指導を担当する。(資料12)

インテリアプランナーの資格については、20歳以上であることが条件である以外は、受験に制限は設けられていない資格である。ただし、インテリアプランナー試験

に合格した者は、本学科で指定された科目を、分野ごとに指定単位数取得することによって、インテリアプランナー登録を受け、資格を取得できる。(資料 25-1、25-2)

また、資格取得を支援する科目としては、カラーコーディネイターには「色彩論」と「カラーコーディネイト演習」、インテリアコーディネイターには「インテリアコーディネイト演習」、福祉住環境コーディネイターには「福祉住環境演習」が対応して、受験をサポートしている。これらの資格は、受験に制限は設けられていない資格である。(資料 26)

コ 企業実習や海外語学研修など学外実習について

既に「エ 教育課程の編成の考え方及び特色」の「科目区分の設定及びその理由」に記述しているが、社会を通してデザインを実践的に学び、専門科目をさらに深化させスキルアップしていくため、集中的でより柔軟な授業形態をとる研修科目としている。

	科目名	備考
専門教育科目	デザイン研修Ⅰ（作品発表） デザイン研修Ⅱ（デザイン見学） デザイン研修Ⅲ（インターンシップ） デザイン研修Ⅳ（デザインスキルアップ）	科目につく記号（Ⅰ～Ⅳ）はステップアップを意味するものではない。
全学共通科目	英語集中講座Ⅰ・Ⅱ 海外英語集中講座Ⅰ・Ⅱ 海外韓国語集中講座 海外中国語集中講座	

注）半期１５回の授業運営を円滑に行う為、主に休業期間中の実施としている。

生活デザイン学科では、デザイン研修という科目区分を設け、実習科目として４つのデザイン研修を配置する。

デザイン研修Ⅰ～Ⅳは、科目の性格上通常の時間割に配当せず、他の科目の妨げにならない学期中の通常の時間割外の時間（６時限目の利用や土曜日などの授業が配当されない時間）、および夏季、春季の休業中に行う。また、他の科目の予習復習の妨げにならないように実施時期や頻度に配慮する。履修の年次・セメスタは学生の学びに応じて配当している。また、順次段階的にデザインの技法や知識を習得する「生活デザイン」の主となる教育課程に対し、これをサポートして実践的経験を与える趣旨の科目であり、学外との係りが深く、計画的に事前調整を行い実施に当たる。

研修計画の概観は次のとおりである。

1) デザイン研修Ⅰ（作品発表） 単位数は2単位

3年次に通年で配置する。

地域でのデザイン制作協力やイベントの企画・参加などを始めとする地域連携プロジェクト、企業や行政などとの産学官連携プロジェクト、グローバルに展開される各種デザインコンペなどを、工房を軸として実施する。

希望する学生は、実施開始時または途中で履修登録し、プレゼンテーションをはじめ適宜の方法で評価を受け、単位の認定を受ける。制作は、該当する工房の指導を受けながら進める。

実習先が確保されるものではなく、毎年案件を検討、調整し進める。

短期大学部の実績では、横浜市経済局工業技術支援センターとのデザイン連携プロジェクトを2010年、2011年、2012年と実施しているが、今後も継続し内容の充実と質を高めていく予定である。他には、相模原税務署との税金展ポスター制作を2009年～2011年と実施している。今後も継続予定である。また、中小企業基盤整備機構とのデザイン連携プロジェクト、地元大型店舗でのファッションショーを始めとする地域での活動は今後も継続して実施し、同じく内容の充実と質を高めていくことを予定している。

2) デザイン研修Ⅱ（デザイン見学） 単位数は2単位

1回／2年の開講とし、原則として海外における実習授業としている。短期大学部での実績をもとに、美術館・博物館、また実際のフィールドで、さまざまなデザインを見学する機会を、集中研修の形で実施する。希望する学生は、実施開始時に履修登録し、見学対象について、学生が事前・事後の調査を行い、レポートを作成・発表することで評価を受け、単位の認定を受ける。

3) デザイン研修Ⅲ（インターンシップ） 単位数は2単位

デザイン関連をはじめとするさまざまな企業・職種でのインターンシップを中心に、幅広い形で実社会での仕事の経験を積み、仕事の社会的責任と社会におけるデザインの各分野の役割を学ぶことを目的とする。実施時期は各インターンシップ派遣先と折衝して決定し、夏季および春季の休業期間に行う。希望する学生は、開講に合わせて随時履修登録し、レポートおよび発表を以って評価を受け、単位認定を受ける。短期大学の実績としては、インテリア系の企業を中心に過去10年間学生の派遣を行ってきた。

4) デザイン研修Ⅳ（デザインスキルアップ） 単位数は2単位

基礎知識と技法を基にしたデザイン技法会得のための学外での集中実習であるため2年次の夏季休業期間に配置する。

社会において実際に運営されているスタジオに出向き、実践的にデザイン制作を体験

し、デザイン技法会得と技術を向上させることを目的とする夏季集中実習とする。開講実習科目は版画演習(エッチング・木版画等)／アクセサリーデザインとする。

希望する学生は、年度初めに履修登録を行い実習先のスタジオと協議の上ケジュールを立て実施する。作品の制作、プレゼンテーションを行い、評価を受け、単位認定を受ける。

5) 英語集中講座Ⅰ・Ⅱ 単位数はⅠ：2単位 Ⅱ：1単位

グローバル化に即し、「教育及び学術上の交流に関する協定」を締結した海外の大学(カナダ・マニトバ州立大学)から講師を招いた英語研修セミナー・春季集中講座を実施し、英語集中講座ⅠおよびⅡとして単位認定する。

- ・開講時期：春季休業期間中に実施する。
- ・履修登録：希望者は後期に実施される説明会に参加し、Ⅰ・Ⅱそれぞれ異なる内容ならびに単位認定となる成績基準の説明を受け、期日までに申込書を提出する。講座終了後、講座の評価ならびに報告書の提出をもって単位認定する。

6) 海外英語集中講座Ⅰ・Ⅱ 単位数はⅠ・Ⅱともに2単位

グローバル化に即し、「教育及び学術上の交流に関する協定」を締結した海外の大学で開設される英語研修セミナー・夏季集中講座に参加し、海外英語集中講座ⅠおよびⅡとして単位認定する。

海外英語集中講座Ⅰ(協定校：カナダ・マニトバ州立大学)

- ・開講時期：夏季休業期間中に実施する。
- ・履修登録：希望者は前期に実施される説明会に参加し、渡航計画・内容ならびに科目として単位認定となる成績基準の説明を受け、期日までに申込書を提出する。講座終了後、講座の評価ならびに報告書の提出をもって単位認定する。

海外英語集中講座Ⅱ(協定校：オーストラリア・モナシュ大学)

- ・開講時期：夏季休業期間中に実施する。
- ・履修登録：希望者は前期に実施される説明会に参加し、渡航計画・内容ならびに科目として単位認定となる成績基準の説明を受け、期日までに申込書を提出する。講座終了後、講座の評価ならびに報告書の提出をもって単位認定する。

7) 海外韓国語集中講座 単位数は2単位

グローバル化に即し、「教育及び学術上の交流に関する協定」を締結した海外の大学(韓国・国民大学)で開設される韓国語研修セミナー・夏季集中講座に参加し、海外韓国語集中講座として単位認定する。

- ・開講時期：夏季休業期間中に実施する。
- ・履修登録：希望者は前期に実施される説明会に参加し、渡航計画・内容ならびに科目として単位認定となる成績基準の説明を受け、期日までに申込書を提出する。講座終了後、講座の評価ならびに報告書の提出をもって単位認定となる。

8) 海外中国語集中講座 単位数は2単位

グローバル化に即し、「教育及び学術上の交流に関する協定」を締結した海外の大学（台湾・文藻外語学院）で開設される中国語研修セミナー・春季集中講座に参加し、海外中国語集中講座として単位認定する。

- ・開講時期：春季休業期間中に実施する。
- ・履修登録：希望者は後期に実施される説明会に参加し、渡航計画・内容ならびに科目として単位認定となる成績基準の説明を受け、期日までに申込書を提出する。講座終了後、講座の評価ならびに報告書の提出をもって単位認定となる。

注記1：

デザイン研修Ⅰ～Ⅳの具体的な開講時期、履修登録時期、実習先確保の方針、授業の進め方を以下に研修ごとに記す。

◎「デザイン研修Ⅰ（作品発表）」

[開講時期、履修方法、指導方法]

3年次に通年科目として配置する。単位を認定する対象として採択するプロジェクトは、あらかじめ学科で審議の上決定し、5メスタ開始前のオリエンテーションでプロジェクト内容、実施時期と方法、場所、成績評価の基準を周知し、5セメスタ開始時に履修登録を行う。

プロジェクトとしては、地域または産学官連携プロジェクト、各種デザインコンペティション、公募展等への参加、展覧会の企画・実施を指導する。複数のプロジェクトが同一セメスタに併存してよいとし、専門領域を超えた総合デザインとしてチャレンジすることを推奨する。

「デザイン研修Ⅰ」は、各プロジェクトの指導は、該当するプロジェクトの内容に最も適した工房を核とした全専任教員による共同授業方式として実施する。成績評価は、核となった工房の教員が原案を作成し、授業で共同する全教員で全プロジェクトについて審議して決定する。全プロジェクト分をまとめて学科長が成績報告を行う。

地域および産学官連携プロジェクトは、地域、企業、行政などの連携先から委託、人材や技術・材料の提供を受けた課題について、主に学内で調査、討議、デザイン、制作を行う。途中、連携先とのディスカッションやプレゼンテーション等を経、その際連携先に出

向く場合もあり得るが、多くの場合は学内会場で行う。通常の通年開講2単位の実習に相当する時間数の作業等を、核となる工房を中心に各工房の指導の下で行うことを単位認定科目とする前提条件とし、プロジェクトにおける各自のテーマに取り組むプロセスと達成度を基準に成績評価を行う。

公募展への応募や各種デザインコンペティションは、核となる工房中心に各工房の指導の下で調査、参加者相互のディスカッション、各自の制作を原則として学内で行う。通常の通年開講2単位の実習に相当する時間数の作業等を、工房の指導の下で行うことを前提として、一定規模以上の公開コンペティションであり、3年次の課題としてふさわしい内容であるものを単位を認定する対象とする。概ね入賞以上に準じるレベルの作品について単位を認定するが、入賞の評価基準が審査員と指導教員で異なること、入賞決定の時期が遅れることから、入賞という結果でなく課題制作のプロセスを重視して成績評価を行なう。

展覧会等の企画・実施は、通常の通年開講2単位の実習に相当する時間数の作業等を、核となる工房を中心に各工房の指導の下で行うことを前提として、公開性が強い企画であることと新作を含み3年次の作品として優れたものを展示することを単位認定の対象として採択する条件とする。企画実現へのプロセスを重視して成績評価を行なう。

[実習先確保の方針]

地域および産学官連携プロジェクトについては、前身である短期大学部生活デザイン学科で近年毎年行ってきた連携を継続する。特に、立ち上げから本学科と密接に係って展開されてきた横浜市経済局工業技術支援センターのデザイン連携プロジェクトには、さまざまな中小企業が参加しており今後の継続を可能としている。例年開催されている各専門領域の学生向けのデザインコンペティション等も多数ある。実務経験があり現在もデザイン各界の企業と係りを持つ教員が中心の学科構成であるため、その利を活かして各工房で1以上の確保が可能である。毎年学科で1以上の地域連携プロジェクト、1以上の産学連携プロジェクト、複数のデザインコンペティションを確保することは可能である。

[教育課程における位置づけ]

自分を発見し、専門領域（工房）を軸に生活デザインを深める時期に相当する3年次に実施する。この時期には「生活デザイン」の基礎「とレッサーデザイン」の考え方を理解し、いくつかにしぼった工房で専門領域の知識や技術を学び始めている。学んできた成果を社会で実践し、その手ごたえを各自の学びに反映し計画する最適な時期と位置付ける。

◎「デザイン研修Ⅱ（デザイン見学）」

[開講時期、履修方法、指導方法]

1回／2年の開講とし2年次、3年次の夏季休業中に配置する。初回は2015年度の開講とする。

開講年度についてはシラバスおよび入学時の宿泊研修での履修指導、セメスタごとのオリエンテーションで周知する。3、5セメスタのオリエンテーションで研修内容と旅程概要、旅費概算、成績評価の基準を周知し、セメスタ開始時に履修登録を行う。

研修は、担当教員の企画に基づき旅行社と旅行内容の覚書を交わし、旅行社が受注型企画旅行として催行する。担当教員が引率し、参加人数に応じて補助の教員がつく。研修の進め方について、旅行実施に先立って学長より書面で保護者に通知する。

3 / 5 セメスタの通常の時間割外の時間でミーティングを行い、旅程に基づいて学生の事前学習の指導を行う。また旅程詳細と旅費を確定し、学生が旅行社に旅行参加申し込みをする。研修は2日程度の事前学習ののち見学研修10日程度とし、現地に滞在してデザイン関連の見学を行う。帰国後報告書をまとめる。

研修に参加したことを前提に、事前調査、事後の報告書により研修担当教員が成績評価を行なう。

◎「デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）」

[開講時期、履修方法、指導方法]

3年次に配置する。インターンシップ受け入れ企業の指定した場所での実習となる。

研修内容及び時期はインターンシップ派遣先と折衝して決定する。実施は夏季および春季の休業期間とする。

単位を認定するインターンシップは、科にて審議の上決定する。終日の実習として計12日程度以上に相当することを前提に、専門領域の学びにおいて教育的意義が十分認められるものを採択する。具体的な個々のインターンシップ情報は、セメスタごとのオリエンテーション時に伝達方法を予告の上、掲示および説明会等の方法で具体的な情報を伝達する。インターンシップを希望する学生は、5または6セメスタに履修登録し、そのセメスタに実施される実習先から選択して実習を行う。

「デザイン研修Ⅲ」は全専任教員による共同授業方式とするが、個々のインターンシップの指導は、該当するインターンシップ受け入れ先に最も適した工房の専任教員が行う。インターンシップ先の業務に係る事前学習からはじめ、事後には実習報告書の提出を求める。これと実習先からの実習状況等の連絡をあわせて成績評価を行なう。実習等を指導した工房の教員が成績評価の原案を作成し、授業で共同する全教員で審議し、全インターンシップ分をまとめて学科長が履修登録および成績報告を行う。

[実習先確保の方針]

インターンシップの受け入れ先については、複数の教育機関の教員で構成するインターンシップ派遣のための機構であるインテリア・インターンシップ・インコーポレーション(I.I.I.)を通して10年以上の実績があるインテリア系企業のインターンシップを継続するとともに、I.I.I.で受け入れ先を確保してきたノウハウと、各工房の専任・兼任教員に多数いる実務経験者が関連企業にコネクションを持っていることを活かして、各工房に適した受け入れ先を確保する。また例えば日本建築家協会のオープンデスク制度のような各種団体の制度も利用する。以上により履修登録した学生数に相当するインターンシップ先は必ず確保する。

◎「デザイン研修Ⅳ（デザインスキルアップ）」

[開講時期、履修方法、指導方法]

開講時期は夏季集中実習として2年次の夏休み中に実施する。日程は実習先と年度初めに調整する。

履修希望者は5セメスタに履修登録をする。

版画演習(エッチング・木版画等)は、担当教員(専任)によるレクチャーおよび作品の構想から下絵まで学内で行い、版画スタジオに出向きスタジオ主催者によるエッチングや木版画の道具の使い方から彫り、摺りまでの制作指導を受けながら作品制作を行う。12日間の実習とし、レクチャーからアイデアスケッチは4日、スタジオでの実習は8日間とする。作品制作のプロセスと完成度により成績評価する。

アクセサリデザインは、担当教員(兼任)による材料の特性や加工に関するレクチャーからアイデアスケッチまでを学内で行い、担当教員の係わるスタジオに出向き、金属の切断、融合、研磨など金属加工の基礎技法の指導を受けながら作品制作を行う。12日間の実習とし、レクチャーからアイデアスケッチは4日、スタジオでの実習は8日間とする。作品制作のプロセスと完成度により成績評価する。

[実習先確保の方針]

版画演習の実習先は、短期大学部の卒業制作時に出向いて作品制作を行っているスタジオに了承を得ている。

アクセサリデザインの実習先は、担当の兼任講師の係わるスタジオであり了承を得ている。

注記2：

学生が各工房を選択するまでの流れと履修指導方法、「デザイン研修Ⅰ」の教育課程上の位置付けについて：

3年次は、自分発見の段階から、工房を絞りはじめ専門領域を学びながら「生活デザイン」を深化させ始める時期に相当する。それまでさまざまに「生活デザイン」を学んだ成果を実社会に向けて実践してその手ごたえを実感する中で、以下の教育課程の上での効果が期待され、それが各自の学びに有意義に反映されやすい時期である。

- ・ 関心がある専門領域が実社会のプロジェクトにおいてどのような役割を果たし得るのか知る。
- ・ 机上ではない、中小の企業の現実的なデザインの視点を知る。
- ・ 社会においての自分のデザイン力を認識・評価する。
- ・ 「レッサーデザイン」の基本的姿勢として実生活への細やかな視点を学ぶ

「デザイン研修Ⅰ」を履修登録する3年次前期はまだ最終的な工房選択には至っておら

ず、最終的な工房選択にあたっての指針作りとしても意味がある。

研修の個々のプロジェクトは、当該プロジェクトの内容が最も近い工房が核となって指導するが、「レッサーデザイン」の精神を大切にして専門領域に固有の限定された視点を避け、「生活デザイン」の総合性を確保するために、異なる専門の視点からの指導を全工房で行う。内容の異なる複数のプロジェクトが時期的に重なり合いながら進行する場合があります。

「デザイン研修Ⅰ」の履修は最終的な工房の選択と直接係わるものではない。「生活デザイン」の総合性をよりよく理解するために、自分が絞り込みつつある工房の視点から、別の専門領域のプロジェクトにチャレンジするなど、専門領域を超えた総合デザインとしてチャレンジすることを推奨する。しかし、プロジェクトの内容によっては専門的な知識や技術を前提とする場合があるので、「デザイン研修Ⅰ」の履修にあたって学生の科目履修履歴や適性にうまく適合するように、プロジェクトの情報を適切に提供し共同する専任教員全員で学生の履修指導にあたる。

5 セメスタに先立つオリエンテーションでプロジェクトの情報を提供の上、必要に応じて説明会や個別の履修相談も行う。学生は履修登録してプロジェクトごとのプログラムに従って履修する。3年次終了時に成績評価を行なう。

サ 編入学定員の設定について

■第3年次編入学定員の設定

編入学定員については、首都圏の家政・生活系統の学部学科を持つ女子大学に併設される短期大学および家政・生活系統の学部学科を持つ短期大学の同系統の学科の卒業生をまず想定している。次には、本学全体として比較的多くの入学実績のある甲信越地域および東寄りの東海地域にある短期大学も想定する。

これらのほか、当該学科の特性上、重視すべきは専門学校である。東京都および神奈川県にはデザイン分野（建築、インテリア、テキスタイル、ファッション、プロダクト、デジタル等）の学べる専門学校は30校以上存在し、関東圏では50校を超える。編入学の出願資格として、修業年限が2年以上でかつ総授業時間数が1700時間以上の課程の修了（見込）者であることが必要であるとしても、対象となる学生は潜在的に相当数存在し、需要があるものと考えている。

以上を踏まえ、また学芸学部他学科の編入学定員も考慮し、5名の編入学定員を設定した。想定する短期大学および近隣の専門学校の中から数校を当該学科の指定校推薦校とし、集中的な募集活動を並行して行うことで、継続的に志願者を確保できると考えている。

■既修得単位の認定方法

大学設置基準、短期大学設置基準の大綱化により、「他の大学又は短期大学における授業科目の履修により修得した単位を当該大学における授業科目の履修により修得したものとみなす」のほかに「大学以外の教育施設等における学修」も単位を与えることができるようになり、さらに「入学前の既修得単位等」についても認定できるようになった。

このように単位認定が比較的容易になった一方で、授業科目区分の廃止に伴い、特色ある教育課程が編成できるようになったので、各大学間の科目名の整合性がとりにくく、そのため科目対応の単位認定は難しくなった。

また、大学審議会答申「短期大学教育の改善について」（平成3年2月8日）の「学習機会の多様化、（4）大学への編入学」では「……短期大学において行われた教育が十分には評価されていないとの指摘もあることから、受入れ大学側においては短期大学教育に対して積極的に評価することが必要となる。例えば、編入学に当たって、短期大学での履修科目の認定につきより弾力的な扱いをすること、……」としている。

これらのことを踏まえて本学では、第3年次編入学の単位認定基準を以下のとおり定めたい。

■第3年次編入学生の単位認定基準

学芸学部

① 本学に編入学する前に大学又は短期大学等で修得した単位は、編入学後の学科に関わる科目としてできる限り活きるように配慮し、また編入学後、専門教育科目を中心とした履修が十分可能となるように、シラバス等を確認し、科目対応による単位認定を行い、全学共通科目（基礎共通科目、共通教養科目、外国語科目）、専門教育科目について、編入学生の修得してきた一般教養的科目のみならず専門教育科目からも認定することとし、その限度を全体として62単位とする。学生は、卒業要件単位数から認定単位数を除いた単位数を修得する。（資料13）なお、編入学生は、2年以上の在学を卒業要件の一つとする。

② 当該学科に相応する課程を卒業又は修了した者。

ア 専門教育科目は、一般教養的科目のみならず専門教育科目からも、授業形態と単位数及び授業内容について十分な確認を行い、科目対応による認定を行う。認定上限は全学共通科目と合計して62単位を超えない範囲とする。

イ 全学共通科目は、一般教養的科目のみならず専門教育科目から、科目対応による認定を行う。認定上限は、卒業要件単位数の最大値44単位とする。

ウ 編入学生の卒業要件単位数及び認定単位数

（生活デザイン学科）：平成27年（2015年）度の編入学生に適用

区 分	全学共通科目	専門教育科目	合計単位
卒業要件単位	24～44	80～100	124
認定単位 (上限)	0～44	0～62	0～62

③ 当該学科と相応しない課程を卒業又は修了した者。

ア 専門教育科目は、一般教養的科目のみならず専門教育科目からも、授業形態と単位数及び授業内容について十分な確認を行い、科目対応による認定を行う。認定上限は全学共通科目と合計して62単位を超えない範囲とする。

イ 全学共通科目は、一般教養的科目のみならず専門教育科目から、科目対応による認定を行う。認定上限は、卒業要件単位数の最大値44単位とする。

ウ 編入学生の卒業要件単位数及び認定単位数

(生活デザイン学科)：平成27年(2015年)度の編入学生に適用

区 分	全学共通科目	専門教育科目	合計単位
卒業要件単位	24～44	80～100	124
認定単位 (上限)	0～44	0～62	0～62

シ 管理運営

2003(平成15)年度より学芸学部教授会と短期大学部教授会が個々に開催されるようになったのを機に調整機関として大学評議会が設置されたが、2008(平成20)年度より大学院1研究科、大学3学部8学科、短期大学部2学科の体制になったことにより、大学評議会の役割は大学全体および複数の教授会等に共通する事項の調整および審議決議機関としての機能を果たしている。

大学評議會は、相模女子大学学則第 52 条の規定および「大学評議會規程」（資料 1 4）に基づき、学長、副学長（3）、学部長（3）、短期大学部長、大学院研究科長、学科長（各学部および短期大学部から各 1 名）、経営管理センター長、学生支援センター長、教育研究支援センター長をもって構成されており、学長が招集し、その議長を務めている。

任期については、学長、副学長、学部長及び短期大学部長は職を退いたとき、大学院研究科長および学科長は 1 年とし、再任を妨げない。開催頻度は原則として毎月 1 回開催することとし、必要に応じて臨時に開催することができるとしている。

審議事項は、大学、短期大学部および大学院に係る①学事に関する重要事項、②学生の身上に関する事項、③学則その他重要な規則の制定又は改廃に関する事項、④大学予算の原案に関する事項、⑤その他、学長の諮問事項、以上である。

教授会は、相模女子大学学則第 52 条の 2 の規定および「相模女子大学学芸学部教授会規則」に基づき、教授、准教授および講師をもって構成されており、学芸学部長が招集し、その議長を務める。

開催頻度は、原則として月 1 回定例教授会を招集するが入試選考期間、入学・卒業時期においては複数回の定例教授会を開催する。また、学芸学部長は必要と認めたとき臨時教授会を招集しなければならないとしている。

審議決定事項は、①学部長の選定に関する事項、②学科長の選定に関する事項、③教授、准教授、講師、助教および助手の任用、昇任その他の人事に関する事項、④名誉教授の推薦に関する事項、⑤学則の改正に関する事項、⑥学部学科の教育課程に関する事項、⑦授業科目の種類および編成に関する事項、⑧各種委員の選出に関する事項、⑨学術研究に関する事項、⑩学生の入学、留学、転学部転学科、休学、復学、退学、転学、再入学、編入学及び卒業に関する事項、⑪学生の試験及び単位修得に関する事項、⑫委託生、外国学生、科目等履修生、単位互換履修生、研究生、聴講生に関する事項、⑬学生の賞罰に関する事項、⑭学生団体、学生活動、学生生活に関する事項、⑮その他、学長の諮問事項、以上である。また、議題の設定にあたっては、教授会開催日の 1 週間前に 3 学部長、短期大学部長による学部長会議を開催し、議題の調整や情報の共有を図っている。

科会は、「科会に関する通則」（資料 1 5）に基づき、当該学科に所属する専任教員をもって構成され、必要な場合には助手を加えることができるとしている。

学科長は、当該科会において選挙により当選された学科長候補者が当該教授会の承認を得て決定される。

学科長の任期は 1 年とする。ただし、重任を妨げない。

開催頻度は、原則として月 1 回開催しているが、入試選考期間、入学・卒業時期においては複数回の定例科会を開催する。通則には謳っていないが、学科長が必要と認めたときは、臨時科会を開催している。

学科長は、科会の承認を得て次の事項を行う。

- ①当該学科の人事に関して教授会に提案。ただし、人事の取扱いに関しては、各教授会規則第3条第3号及び第9条の定めを準用し、出席者の過半数をもって決する。
- ②次年度の授業時間割の作成
- ③カリキュラムの改定原案の作成
- ④当該学科の共通施設の運用管理
- ⑤その他

各種全学委員会通則（資料16）において、学長は、大学及び短期大学部を包括する全学的な管理運営に関して必要と認めた全学委員会を、大学評議会の議を経て、設置することができる。各種全学委員会において、審議した事項を内容によって大学評議会、教授会・科会に上程する体制としている。また、平成24年度より、各種全学委員会の役割の強化として、任期を1年から2年とし、各委員会の事務局の課長職を委員とし、教職協働の推進を図る。併せて、新たにキャリア委員会等の4つの委員会を新設した。

各種全学委員会としては、(1) 全学教務委員会、(2) 全学学生支援委員会、(3) 全学入学委員会、(4) 共通教育機構運営委員会、(5) ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会、(6) 全学教職委員会、(7) 全学教職委員会専門部会5学科教職課程担当者委員会、(8) 全学教職委員会専門部会子ども教育学科教職・保育士資格課程担当者委員会、(9) 図書館運営委員会、(10) エクステンション委員会、(11) 学校法人相模女子大学情報化推進委員会・大学並びに短期大学部の教育・研究に関する部会、(12) ハラスメント防止・対策委員会、(13) 全学予算決算委員会、(14) 研究費審議委員会、(15) 企画・広報委員会、(16) 国際交流委員会、(17) 研究倫理委員会、(18) 実験動物委員会、(19) 組換え DNA 実験安全委員会、(20) 人事委員会、(21) 全学教員評価委員会、(22) 自己点検評価委員会、(23) 全学キャリア委員会、(24) 教員免許状更新講習運営委員会、(25) ブランディング推進委員会、(26) 学部・学科改編推進委員会、の以上26の委員会が設置されている。

(1) 全学教務委員会

委員長は、副学長（教育担当）とし、任期は2年。構成員は定数7名、副学長（教育担当）、各学部、短期大学部及び共通教育機構運営委員会から1名選出、ただし栄養科学部は大学院兼任者を選出、事務局マネージャー、適宜、学科からのオブザーバーを加えることができる。開催頻度は、不定期、年間およそ21回位。

任務は、①カリキュラムに関する事項、②授業時間割編成方針に関する事項、③試験並びに成績評価に関する事項、④単位認定に関する事項、⑤授業実施の条件整備並びに履修指導に関する事項、⑥学年暦・学事日程に関する事項、⑦その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(2) 全学学生支援委員会

委員長は、副学長（教育担当）をもって充て、任期は2年。構成員は定数6名、副学長（教育担当）、各学部、短期大学部から1名選出、事務局マネージャー、適宜、学科からのオブザーバーを加えることができる。開催頻度は、不定期、年間およそ7回位。

任務は、①学生自治並びに課外活動に関する事項、②学生の表彰並びに懲罰に関する事項、③学生の福利厚生に関する事項、④学生の健康管理に関する事項、⑤学生の相談に関する事項、⑥その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(3) 全学入学委員会

委員長は、副学長（総務担当）をもって充て、任期は2年。構成員は定数6名、副学長（総務担当）、各学部、短期大学部から1名選出、事務局マネージャー、適宜、学科からのオブザーバーを加えることができる。開催頻度は、不定期、年間およそ21回位。

任務は、①アドミッション・ポリシーに関する事項、②入学試験制度に関する事項、③入試日程に関する事項、④入学試験の実施に関する事項、⑤入学試験情報の公表及び開示に関する事項、⑥学生募集に関する事項、⑦その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(4) 共通教育機構運営委員会

全学の教養教育の充実を図る観点から学長の下に設置されている共通教育機構は、「相模女子大学共通教育機構規程」（資料17）に基づき、共通教育機構長（教育担当副学長）、各共通教育部会長、客員教員、その他必要な教員で組織されている。その管理運営に関する重要事項を審議するために共通教育機構運営委員会を設けて、共通教育機構長、各共通教育部会長、学部選出委員各1名、事務局マネージャーをもって構成されており、委員長には共通教育機構長（教育担当副学長）を充て、運営委員会を招集し、その議長を務める。開催頻度については年間15～18回程度開催している。

任期については、共通教育機構長（教育担当副学長）は職を退いたとき、そのほかの委員は2年とし、再任は妨げないとしている。

審議事項は、①全学共通科目等に関する教育の理念、目標に関すること、②全学共通科目等の教育課程の編成および改編に関すること、③全学共通科目等を主として担当する専任教員および非常勤講師の人事に関すること、④共通教育機構の予算および決算に関すること、⑤共通教育機構の自己点検・評価・FDに関すること、⑥その他共通教育機構の管理運営に関すること

共通教育機構の下に、教養教育を円滑に実施するために、全学共通科目等を共通教育系列と課程に区分し、その区分ごとに部会を設けている。その部会は、①人文科学系列部会、②社会科学系列部会、③自然科学系列部会、④外国語教育系列部会（英語と英語以外の語学教員）、⑤健康教育系列部会、⑥情報教育系列部会、⑦司書・司書教諭課程部会、⑧教職課程部会、の以上8部会である。

部会に部会長を置き、部会長は当該部会に所属する教員から学長が任命する。部会長の

任期は1年とし、再任を妨げないとしている。

部会長は、必要に応じ、部会会議を開催する。

部会の任務は、①教育課程の編成および実施に関すること、②時間割編成に関すること、③非常勤講師の採用計画に関すること、④自己点検・評価・FDに関すること、⑤その他共通教育課程の実施に関して必要なこと、の以上5点である。

(5) ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会

相模女子大学の教育理念及び学部学科等の教育目標に基づき、教員の教育研究活動の質的向上・能力開発、授業改善に資することを目的とし、教育方法の研究、工夫を積極的に推進するため、学長の下に、ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会を設けている。(資料18)

組織は、①副学長(研究・情報担当)、②各学科から選出された者(各1名)、③その他必要に応じて学長が委嘱する者(若干名)、④事務局マネージャーで構成され、現在、委員定数12名となっている。委員長は副学長をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。開催頻度は、年間6回程度である。不定期で、必要に応じ開催する。

委員の任期は、職務上委員になる者を除き、2年とし、再任は妨げないとしている。

任務は、①教育研究活動改善の方策に関する事項、②教員の研修計画の立案・実施に関する事項、③授業改善のための基本方針の策定に関する事項、④学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項、⑤FD研修会及びFD講習会の開催に関する事項、⑥FD活動報告書等の作成に関する事項、⑦その他委員会が必要と認めた事項、の7点である。

(6) 全学教職委員会

委員長は、副学長(教育担当)をもって充て、任期は2年。構成員は定数11名、教職課程2名及び国語担当1名、書道担当1名、英語担当1名、情報担当1名、家庭科担当1名、栄養教育担当(健康・管理)各1名、子ども教育学科1名、事務局マネージャー。開催頻度は、不定期、年間およそ8回位。

任務は、①教職に関する学科目編成の立案に関する事項、②教育実習の指導、運営に関する事項、③教育免許状の申請に関する事項、④教職課程の運営に関する事項、⑤その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(7) 全学教職委員会専門部会5学科教職課程担当者委員会

委員長は、委員会内の互選により決定する。任期は1年。構成員は定数9名、5学科教職課程担当、担当事務職員1名、必要に応じて、学長、副学長、該当の学科長が加わることができる。2008(平成20)年度以降、上記の「全学教職委員会」と合同委員会を開催し、任務を遂行している。

(8) 全学教職委員会専門部会子ども教育学科教職・保育士資格課程担当者委員会

委員長は、委員会内の互選により決定する。任期は1年。構成員は子ども教育学科の全専任教員、担当事務職員1名、必要に応じて、学長、副学長、該当の学科長が加わることができる。開催頻度は、不定期。

任務は、①子ども教育学科における「教職課程」に関する事項、②子ども教育学科における「保育実習」に関する事項、③その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(9) 図書館運営委員会

委員長は、附属図書館長（研究・情報担当副学長）をもって充て、図書館運営委員会を招集し、その議長を務める。任期は2年。構成員は定数8名、附属図書館長が各学部、短期大学部から教員各1名、附属図書館職員3名、適宜、学科からのオブザーバーを加えることができる。開催頻度は、不定期、年間およそ7回位。

任務は、①図書館の業務に関する事項、②本規則の改廃又は内規の制定に関する事項、③図書館資料の購入に関する事項、④図書館予算の範囲内における図書選定に関する事項、⑤その他、館長が必要と認める事項、以上である。

(10) エクステンション委員会

委員長は、委員会内の互選により決定する。任期は2年。構成員は定数6名、副学長（総務担当）、各学部、短期大学部から1名選出、事務局マネージャー。開催頻度は、不定期、年間およそ8回位。

任務は、①エクステンション・ポリシーに関する事項、②市民大学・公開講座等に関する事項、③大学地域コンソーシアムに関する事項、④その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(11) 学校法人相模女子大学情報化推進委員会・大学並びに短期大学部の教育・研究に関する部会

委員長は、部会内の互選により決定する。任期は1年。構成員は定数9名、副学長（研究・情報担当）、各学部教授会構成員のうちから学長が指名した者3名、短期大学部教授会構成員のうちから学長が指名した者1名、学生支援センター長、教育研究支援センター長、教育研究支援センター、事務局マネージャー。開催頻度は、不定期。

任務は、①教育・研究の情報化推進に関する事項、②情報の蓄積、提供及び発信に関する事項、③事務の情報化推進等に関する事項、④その他委員会から付託された事項、（情報化推進専門部会設置要項）、以上である。

(12) ハラスメント防止・対策委員会

委員長は、委員会内の互選により決定する。任期は2年。構成員は定数7名、副学長（教育担当）、各学部、短期大学部、大学院から1名選出、学長が指名する助手及び事務局マネ

ージャー各1名、学長が指名する相談員若干名。開催頻度は、不定期、年間およそ4回位。

任務は、①ハラスメントへの対応策の検討と実行および対応策に関する学長への意見具申、報告、②ハラスメントへの対応のための特別委員会の設置、③ハラスメントの防止に関する広報、学習、研修その他ハラスメントに関して理解を深めるための機会と情報の提供、④ハラスメントを行った者に対する教育・研修プログラムの立案カリキュラムに関する事項、⑤ハラスメントの被害者に対する救済措置の検討と実施、⑥ハラスメント防止・対策委員会活動に関する年次報告、⑦その他ガイドラインに基づき委員会が必要と判断した事項、(相模女子大学・相模女子大学短期大学部ハラスメント防止・対策委員会規程)、以上である。

(13) 全学予算決算委員会

委員長は、学長をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。任期は2年。構成員は定数11名、学長、副学長(3)、学部長(3)、短期大学部長、大学院研究科長、経営管理センター長、事務局マネージャー。開催頻度は、不定期、年間およそ2回位。

任務は、①大学・短期大学部全体の予算要求の調整に関する事項、②大学・短期大学部全体の予算執行及び決算に関する学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(14) 研究費審議委員会

委員長は、学長をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。任期は2年。構成員は定数20名、学長、副学長(3)、学部長(3)、短期大学部長、大学院研究科長、学科長(10)、事務局マネージャー。開催頻度は、不定期、年間およそ3回位。

任務は、①各種研究費に関する事項、②学術図書刊行助成費に関する事項、③海外出張助成費に関する事項、④教員の留学に関する事項、⑤その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(15) 企画・広報委員会

委員長は、委員会内の互選により決定する。任期は2年。構成員は定数6名、副学長(総務担当)、各学部、短期大学部1名選出、事務局マネージャー及び学長が任命する若干名。開催頻度は、不定期、年間およそ17回位。

任務は、①大学及び短期大学部の学内広報に関する事項、②大学及び短期大学部の学外広報に関する事項、③その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(16) 国際交流委員会

委員長は、委員会内の互選により決定する。任期は2年。構成員は定数4名、各学部、短期大学部から1名選出、事務局マネージャー及び学長が任命する若干名。開催頻度は、不定期、年間およそ12回位。

任務は、①大学間の国際交流計画に関する事項、②大学間の国際交流協定に関する事項、

③その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(17) 研究倫理委員会

委員長は、副学長（研究・情報担当）をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。任期は2年。構成員は定数8名、副学長（研究・情報担当）、学部長（3）、短期大学部長、大学院研究科長、一般の立場を代表する外部者1名以上を含む法律・会計・倫理を専門とする者2人以上、学長が必要と認めた教員若干名、委員会が認めた者若干名。開催頻度は、不定期、年間およそ3回位。

任務は、①研究実施計画及び出版公表原稿等の審査に関する事項、②研究の検証に関する事項、③その他研究上の倫理に関する学長の諮問及び委嘱事項、（相模女子大学研究倫理規程）、以上である。

(18) 動物実験委員会

委員長は、委員会内の互選により決定する。任期は2年。構成員は定数若干名。学長が委嘱する。開催頻度は、不定期、年間およそ8回位。

任務は、①動物実験の飼育管理及び動物実験に係る適正な実施確保に関する事項、②動物実験計画書の審査に関する事項、③その他学長の諮問及び委嘱事項、（相模女子大学動物実験に関する規程）、以上である。

(19) 組換え DNA 実験安全委員会

委員長は、委員会内の互選により決定する。任期は2年。構成員は定数若干名。学長が委嘱する。開催頻度は、不定期、年間およそ2回位。

任務は、①実験に関する規程の制定改廃に関する事項、②実験計画の文部科学省告示及び本規程への適合性の判断に関する事項、③実験に係る教育訓練及び健康管理に関する事項、④事故発生の際の必要な措置及び改善策に関する事項、⑤学内の連絡調整に関する事項、⑥その他実験の安全確保に関する学長の諮問及び委嘱事項、（相模女子大学組換え DNA 実験に関する規程）、以上である。

(20) 人事委員会

委員長は、学長をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。任期は2年。構成員は定数9名、学長、副学長（3）、学部長（3）、大学院研究科長、短期大学部部長、共通教育機構長、学長は、学科長を委員に加えることができる。開催頻度は、不定期、年間およそ10回位。

任務は、①教員人事に関する基本方針の策定に関する事項、②教員人事に関する全学的な調整に関する事項、③その他学長から付託された人事に関する事項、（相模女子大学・相模女子大学短期大学部人事委員会規程）、以上である。

(21) 全学教員評価委員会

委員長は、副学長（総務担当）をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。任期は2年。構成員は定数8名、副学長（3）、学部長（3）、短期大学部長、事務部門のセンター長のうち学長が指名した者1名、その他、評価が各領域・分野にわたって公平に行われるうえで、学長が必要と認めた者若干名。開催頻度は、不定期、年間およそ4回位。

任務は、①教員評価の実施に関する事項、②評価結果の取りまとめに関する事項、③その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(22) 自己点検評価委員会、

委員長は、学長をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。任期は2年。構成員は定数13名、学長、副学長（3）、学部長（3）、短期大学部長、理事長が指名する常務理事2人、大学院研究科長、センター長（3）、事務局マネージャー、その他学長が委嘱する者若干名。開催頻度は、不定期、年間およそ2回位。

任務は、①点検・評価の実施単位に関する事項、②点検項目並びに点検内容の検討に関する事項、③評価基準の設定並びに検討に関する事項、④自己点検表の様式の設定並びに検討に関する事項、⑤自己点検評価報告書の作成に関する事項、⑥自己点検評価報告書の公示方法に関する事項、⑦評価委員会の運営に関する事項、⑧その他委員長が必要と認めた事項、以上である。

(23) 全学キャリア委員会

委員長は、副学長（教育担当）をもって充て、任期は2年。構成員は定数12名、副学長（教育担当）、各学科から1名選出、事務局マネージャー。開催頻度は、不定期、年間およそ7回位。

任務は、①全学的なキャリア支援教育に関する事項、②具体的かつ実践的な就職活動支援に関する事項、③その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

(24) 教員免許状更新講習運営委員会、

委員長は、委員会内の互選により決定する。任期は2年。構成員は定数8名、幼・小教育担当者、国語科教育担当者、英語科教育担当者、家庭科教育担当者、栄養教育担当者、教職課程担当者、当該事務職員（2名）、その他委員長が必要と認めた者。開催頻度は、不定期、年間およそ7回位。

任務は、①講習開設の基本方針に関する事項、②講習開設の計画立案及び実施に関する事項、③講習のカリキュラム編成等に関する事項、④予算及び決算に関する事項、⑤講習開設に当たっての支援体制に関する事項、⑥その他講習の実施及び運営に関する事項、以上である。

(25) ブランディング推進委員会

委員長は、学長をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。任期は2年。構成員は定数5～10名、学長、副学長（3）、事務局マネージャー及び学長が任命する若干名。開催頻度は、不定期、年間およそ10回位。

任務は、①ブランディングの推進に関する事項、②その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

（26）学部・学科改編推進委員会、

委員長は、学長をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。任期は1年。構成員は定数17名、学長、副学長（総務担当）、学部長（3）、短期大学部長、学科長（10）、事務局マネージャー。開催頻度は、不定期、年間およそ6回位。

任務は、①学部・学科改編の推進に関する事項、②その他学長の諮問及び委嘱事項、以上である。

大学役職者を中心に議決機関ではなく、大学評議会や教授会等に関する調整、情報の共有、緊急時対応等を協議する機関として、四役会、部局長連絡会を定期的で開催している。

四役会は、週1回程度、構成員は学長、副学長（3）、学生支援センター長、事務局マネージャーとする。部局長連絡会は、2週間1回程度、構成員は学長、副学長、学部長（3）、短期大学部長、センター長（2）、事務局マネージャーとする。

ス 自己点検・評価

1991（平成3）年の大学設置基準改正を受け、本学においては、同年11月に教授会のもとに「自己評価検討委員会」が設置された。その後、委員会を中心とする準備作業を経て、平成7年6月15日に「相模女子大学自己点検評価委員会規程」を制定した。（資料19）

「自己点検評価委員会」（以下「評価委員会」という。）は、常に教育研究活動及び管理運営の現状を客観的に把握し、大学の理念・目的に照らして点検評価し、改善すべき点を明らかにするとともに、将来の改革の方向を検討し、不断の努力を行うことを目的として設置している。評価委員会の職務は、本学の教育研究活動及び管理運営状況について行った点検結果を評価し、改善・改革の指針を策定することと、点検評価の結果を報告書にまとめ理事長に報告するとともに、その概要を学報等に公表することである。

「自己点検実施委員会」（以下「実施委員会」という。）は、学部・学科、大学院及び各事務部門（以下「各機関」という。）を単位として実施する。各機関は、自己点検・評価を実施するため、それぞれに個別自己点検・評価組織（以下「個別評価組織」という。）を設置し、各機関の長から委嘱された委員により組織する。その職務は、周期的に実施する自己点検・評価実施要領を作成し、自己点検・評価の視点・項目・細目等を設定し、各個別評価組織間の調整と実施した点検・評価結果を検証し、全学的な視点による総合的か

つ体系的な点検・評価を加えた自己点検・評価報告書（案）を作成し、評価委員会に提出する。

第1回目の自己点検・評価は、1996（平成8）年度に実施した。この自己点検・評価は、平成7年度の教育研究活動を対象としたが、自己点検作業は行ったが評価作業まで至らず終了した。

第2回目の自己点検・評価は、大学基準協会の「大学評価マニュアル」に準じた内容と様式で、1999（平成11）年度に実施し、その結果を同年度末に「自己点検・評価報告書―1998（平成10）年度」として2000（平成12）年3月に刊行した。

第3回目の自己点検・評価は、大学基準協会の加盟判定審査を受けるため、2001（平成13）年度に前述の規程ならびに実施組織によって自己点検・評価の作業を行い、2003（平成15）年4月1日付で正会員として加盟・登録されることが承認された。承認に当たっては、本学の教育研究の現状に対して理解ある評価を受ける一方で、厳しい勧告と助言をいただいた。加盟判定審査の対象となった自己点検・評価報告書の全文と基礎データ調書の主要な部分を採録し、あわせて大学基準協会の加盟判定審査結果の原文を、大学に対する提言も含めて、冊子の形にして公表し、学内外の関係諸機関ならびに教員全員に配付した。この勧告・助言を真剣に受け止め、改善に向けて努力を重ねてきた。

第4回目となる自己点検・評価は、2007（平成19）年度に大学基準協会の大学評価・認証評価を受けるため実施した。その結果、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は、2015（平成27）年3月31日までとする。」との評価結果を得た。長所として特記すべき事項の他に、①教育内容・方法②学生の受け入れ③研究環境④教員組織⑤管理運営⑥自己点検・評価の6点に関して助言があったが大学基準協会の認証評価とともに「2007（平成19）年度大学評価申請のための点検・評価報告書」の全文をホームページで公開した。その後における改善・改革は、本学が抱える様々な課題を明確にし、教職員一人ひとりが不断の努力を怠ることなく問題点を自覚する中で検討され、本学の理念・目的を踏まえて学部学科改編及び新設、食物栄養系の大学院研究科の設置、教育研究組織の再編、教員・学生への支援体制の充実・強化を目的とする事務組織の再編等に努めてきた。大学基準協会の評価周期の中間時点にあたる3年後の改善状況として、①授業評価、②シラバス、③学生の受け入れ、④教員の留学制度、⑤教員の年齢構成、⑥管理運営、⑦自己点検・評価について、助言に対する改善報告書を2011（平成23）年7月に大学基準協会へ提出し、2012（平成24）年3月に大学基準協会より、「提言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでおり、今後の改善経過についての再度報告を求める事項はなし」と改善報告書検討結果の通知を受けた。

社会が急速に変化する現在にあって、速やかな改善・改革は必須の事項となっている。これまでの点検評価活動を通じて、本学の建学の精神・教育の目的・教育方針から展開されている教育課程や、これらを実施していく教員組織と事務組織の在り方、教育内容を実現していくための施設・設備の充実度、これを支える財政上の問題点等々が明瞭となり、大学は大学にふさわしい、「質の保証」が実現できるようにより一層の努力を必要とするこ

とが明らかとなった。本学は、自己点検・評価によって掘り起こされた課題に限らず、日々生ずる課題についても、教学事項については大学及び短期大学部を包括する全学的な管理運営に関して設置されている各種全学委員会、全学の教養教育の充実を図る観点から学長のもとに設置した「共通教育機構」、各科会、各学部教授会、大学評議会で、経営事項については2010（平成22）年度に学園の事業、人事、財務、施設、組織その他学園の経営に関する重要な事項を策定し、円滑に遂行するための企画委員会（資料20）が設置されたことにより、時間を置かず改善の策を講じている。併せて、各種全学委員会と大学事務担当のグループは、年間の成果と課題や統計的なデータをまとめた報告書を作成し、大学評議会と教授会において報告することで、PDCAサイクルを意識して、改善に向けた取り組みを行っている。また、教学と経営の両方にまたがる課題については大学経営懇談会や常任理事会で調整し、協働して改善の策を策定している。

セ 情報の公表

学校教育法施行規則第172条の2第1項に基づき、大学として、社会に対して説明責任を果たすとともに、教育上の質を向上させる観点から、教育研究活動等の状況について、ホームページにより、広く情報の公表に努めている。内容については、以下のとおりとなる。

① 大学の教育研究上の目的に関すること

- ・相模女子大学学則

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/guideline/outline/regulations.html>)

トップ>情報公表>教育研究基本情報>教育研究上の目的>相模女子大学学則

② 教育研究上の基本組織に関すること

- ・相模女子大学組織図

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/foundation/organization.html>)

トップ>情報公表>教育研究基本情報>組織>相模女子大学組織図

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・専任教員数

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/public/sennin.html>)

トップ>情報公表>教育研究基本情報>専任教員数

- ・各教員が有する学位及び業績

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/features/teacher/>)

トップ>本学の特徴>教員紹介

④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は

修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する
こと

- ・アドミッションポリシー

(http://www.sagami-wu.ac.jp/exam/admission_policy/)

トップ>情報公表>修学情報>入学に関すること>アドミッションポリシー

- ・入学定員数

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/guideline/outline/capacity.html>)

トップ>情報公表>修学情報>入学に関すること>入学定員数

- ・収容定員、在籍者数

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/public/teiin.html>)

トップ>情報公表>教育研究基本情報>収容定員・在籍者数

- ・就職先一覧

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/work/department/>)

トップ>情報公表>教育研究基本情報>就職者数・就職状況>就職先一覧

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・オリエンテーションについて

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/campus/class/record/orientation.html>)

トップ>情報公表>修学情報>授業に関すること>オリエンテーションについて

- ・授業について

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/campus/class/about.html>)

トップ>情報公表>修学情報>授業に関すること>授業について

- ・シラバス

(<https://smilesagami.sagami-wu.ac.jp/syllabus/syllabus/search/Menu.do>)

トップ>情報公表>修学情報>シラバス

- ・人材育成プログラム

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/public/jinzai.html>)

トップ>情報公表>修学情報>人材育成プログラム

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・卒業に関すること

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/guideline/outline/regulations.html>)

トップ>情報公表>修学情報>卒業に関すること>相模女子大学学則

⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・校地、校舎等の施設

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/guideline/institution/campusmap/>)

- トップ>情報公表>学費・キャンパス情報>施設・環境>校地・校舎等の施設
- ・大学施設一覧

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/guideline/institution/university/>)

トップ>情報公表>学費・キャンパス情報>施設・環境>大学施設一覧

- ・運動施設

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/guideline/institution/facilities/>)

トップ>情報公表>学費・キャンパス情報>施設・環境>運動施設

- ・交通アクセス

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/access/index.html>)

トップ>アクセスマップ

⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・学費

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/campus/procedure/sutudent/expenses.html>)

トップ>情報公表>学費に関すること>学費>校納金一覧

⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・キャリア支援

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/work/career/>)

トップ>情報公表>学生サポート情報>キャリア支援>キャリア支援について

- ・学生相談室

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/campus/support/consultation/>)

トップ>情報公表>学生サポート情報>心身の健康に関する支援>学生相談室

- ・保健センター

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/campus/health/center/>)

トップ>情報公表>学生サポート情報>心身の健康に関する支援>保健センター

- ・ハラスメントについて

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/campus/health/harassment/>)

トップ>情報公表>学生サポート情報>心身の健康に関する支援>ハラスメント

- ・奨学金について

(<http://www.sagami-wu.ac.jp/campus/scholarship/>)

トップ>情報公表>学生サポート情報>奨学金に関すること>奨学金について

⑩ 自己点検・外部評価に関すること

- ・自己点検、外部評価結果

(http://www.sagami-wu.ac.jp/guideline/external_valuation/index.html)

トップ>第三者評価・大学基準協会>自己点検・外部評価

ソ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

本学では、相模女子大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程（平成18年3月23日制定）（資料18）のもと、大学の教育理念及び学部学科の教育目標に基づき、教員の教育研究活動の質的向上・能力開発、授業改善に資することを目的として、2006（平成18）年度にFD委員会を、2007（平成19）年度に事務組織を改編して教育研究支援センターFD支援グループを設置し、授業の内容及び方法の改善を図るために、教職協働による組織的な取組みを展開している。具体的には、教員によるシラバス作成、学生による授業評価、教員評価、その他FD活動を実践している。

シラバスは、授業科目ごとに、「授業の到達目標」、「授業概要」、「授業計画（15回分）」、「準備学習」、「成績評価」、「テキスト・参考文献等」（以上の項目は必須）、「先生からのメッセージ」（任意項目）から構成される。各授業科目のシラバスは、各学部別に「Syllabus」として冊子にまとめ、毎年春学期の履修登録前に学生に配付している。学生は授業科目の選択にあたり、「その科目で何を学習するか」、「他の科目との関連性を含めて学科全体の学習領域のなかでどのような意味があるか」を理解する。ほとんど唯一の情報源としてシラバスを活用している。この意味で、また、教員の側にも授業を計画的に行い、指導方法を考える契機として意義が認められる。

学生による授業評価は、授業の取組みに対する学生の自覚を促すとともに授業に対する学生の率直な意見を聞き、授業の工夫、改善に役立てることを目的として2000（平成12）年1月に学生による授業評価を教員の一部において試行的に実施したことから始まり、現在では、全専任教員及び全非常勤講師を対象に、教員一人あたり年2科目以上実施している。実施期間はセメスターにおける第14週、第15週時点（春：7月、秋12月）で実施し、アンケートはマークシートと自由記述欄から構成される。教員は、マークシート集計結果と自由記述欄から、所見（「結果に対するコメント」と「改善の方策」）をまとめ、学長に報告する。この所見をアンケート集計結果とともに、ホームページ等に掲載して公表し、学生の閲覧に供している。学生による授業評価の項目には、授業内容のみならず、学生側の授業態度に対する自己評価も含まれていることから、教務に係る事務職員は、この学生による授業評価データを授業の実態を把握する観点から重要な情報源として活用している。また、教員の大多数が授業評価を自己診断に活用しており、所見に改善策を示し、次回の評価でその結果をモニタリングしているケースも少なくない。

これまでの授業評価は教員の努力課題であり、実行しなくとも罰則はなかったが、2007（平成19）年11月に自己点検・評価の観点から大学教員の総合的業績評価制度の導入について、業績評価検討委員会を設置し、教員の業績評価システム（「教育」、「研究」、「組織運営」、「社会貢献」）の検討を行った。結果、2008（平成20）年9月に、「相模女子大学・相模女子大学短期大学部教員評価指針」（資料21）を制定し、教員評価指針による評価結果は、自己の教育・研究等の活用に生かし、教員の昇進、研究費等の配分に関する資料とし

て活用することとしている。

その他 FD 活動では、FD 研修会として教員を対象に、年 3 回程度実施している。取り扱うテーマは教授法研究や教材研究、学生対応等で、講習会やワークショップ形式等により展開している。教員個人の質の向上だけでなく、学部をまたがる教員間の情報交換としても意義のある取組みである。また、教育研究成果発表会として、研究活動や教育活動の成果について、地域を含む学内外に公開している。授業評価結果を含むこれら FD に関する活動は、2009（平成 21）年度より、「FD 活動報告書」として刊行し、学内外に公表している。

大学の質の保証、学生の質の確保、学生の満足度の向上等が求められる中、現状を把握し新しい時代の要請に応え得るよう、人材の育成、教育・研究、地域・社会活動等を効果的・効率的に支援するための組織のあり方を考え、教員と事務職員とが連携・協力・協働の関係を保持しながら、一層の向上が図られるよう改善・改革し、遂行している。

タ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学のキャリア教育は、全学共通科目の必修科目及び選択科目の中で実施している。

必修科目の「女性総合講座」・「基礎教育講座」では、自ら学ぶ姿勢を養うとともに、将来のキャリア形成のために必要な知識の習得やプレゼンテーションスキルの習得、コミュニケーション力の向上を目標としている。

選択科目の「ビジネススキルズ」では、社会で女性が果たす役割や自己理解を深め、更に活躍中の社会人の話を聞くことで就職に対する意識を高め、自己啓発を通して自己の将来像を描けるようになることを目指している。

以上と並行して、事務部門のキャリア支援グループでは、低学年対象に基礎学力講座や 1～3 年対象に資格取得講座、就職活動生対象に就職準備講座を提供している。例えば、ウェブテスト対策の SPI2 講座や MOS・簿記講座、履歴書・エントリーシートの作成方法、業界業種等企業研究、個別・集団面接対策、ビジネスマナー講座、内定者との懇談会等、ワークショップを含めた実践的な支援を行っている。

また、年間を通して行う個人面談は、担当制とし職員が 10 学科をそれぞれ受け持っている。年々複雑化するメンタル部分を含む相談内容にも、常置するキャリアカウンセラーが対応して効率的な相談業務にあたっている。

次なる飛躍に向け、生活デザイン学科の四大化も含め、平成 25（2013）年度全学共通科目のカリキュラムを改定する。この全学共通科目を、社会人として自立するための幅広い知識や教養、コミュニケーション能力を高めるための素養を身につける科目群として位置づける。

この間、事務組織改革も並行して実施してきた。平成 18（2006）年の事務機構改編では、これまでの「就職」から「キャリア支援」へと名称変更したのみならず、学生の将来計画をも視野に入れた就職支援を行ってきている。

社会的・職業的自立に関する本学の取組み内容及び指導体制を以下の項目に沿って述べる。

■教育課程内の取組みについて

必修の基礎共通科目である「女性総合講座」（1 年前期）では、ライフプランニングと関わらせたキャリアプランニングの必要性を意識させ、「基礎教育講座」（1 年前期）では、4 年間の学習生活に必要な基礎とコミュニケーション力を養う。

共通教養科目の情報とキャリア（1～4 年前期・後期）では、情報に関する 2 科目とビジネスに関する 2 科目を新設することにより、働くことの意識化を進める。これら 4 科目の新設により、一部学科の学生のみ取得可能であった＜情報処理士＞資格を全学科の学生が取得可能となる。この共通教養科目は、学生の課題探求能力の育成に加え、専門分野を超えて広い視野と知性を深め、実社会で自立できることを目的としている。

更に、専門教育科目でも、社会人としての基礎素養及び就職対策として、必修でキャリア研修科目の区分を設ける。その科目と内容は、学科独自の「キャリア研修Ⅰ」（1・2 年前期）では、将来の進路に向けて、大学での学びをより理解するための基礎学力を養うことを目的に高校までの学習の復習を行うほか、就職試験に必須の SPI 対策や英語等を e ラーニングにより学習する。「キャリア研修Ⅱ」（1・2 年後期）では、さまざまな分野・領域における社会人としてのリテラシーを学習する。

3 年次以降のキャリア形成については、全学共通科目及びキャリア支援グループが実施する就職準備対策講座により対応する。

■教育課程外の取組みについて

① キャリア支援グループの設置

マネージャー(課長)を含む専任職員 4 名、嘱託職員 3 名、キャリアカウンセラー 2 名、パートタイマー 4 名が、大学 3・4 年生、短期大学部 1・2 年生のキャリア形成を含む就職の支援を学年に対応した内容で行っている。

② キャリア形成のための支援内容

- ・「女性総合講座」の一部で職員が新入生向けに低学年支援講座を担当
- ・一部学科の授業で職員が就職関連の講座を担当
- ・各種資格取得講座
- ・低学年支援講座
- ・就職準備講座
- ・基礎学力支援講座
- ・キャリアカウンセラーの配置
- ・インターンシップ

③ キャリア支援グループと関係部署との連携によるキャリア支援

- ・全学キャリア委員会（教授会関係委員会）

- ・学生相談室（学習・生活支援グループ）
 - ・キャリア教育に関する講演（FD 支援グループ）
- ④ 文部科学省平成 21 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）「学生支援推進プログラム」による学生の自立を支援する就職基礎力養成に関する取組み

■体制の整備について

学生の修学・厚生補導・就職支援等を行うための組織として、入学支援・学習・生活支援・キャリア支援の各部署を設置している。それぞれ入学から卒業・修了までの段階に応じた取組みを実施している。

特に就職支援に関しては、平成 24 年度より、就職に特化した「全学キャリア委員会」を設置した。同委員会は、教育担当の副学長をトップに据え、各学科から 1 名の教員とキャリア支援グループのマネージャー(課長)が構成員となる。任務は全学的なキャリア支援教育に関する事項及び具体的かつ実務的な就職活動支援に関する事項である。この体制が整備されることによって、教職協働による学生の就職支援体制も強化されることになった。

（資料 2 2 事務機構改編組織図 資料 2 3 各種全学委員会通則別表）

人材を受け入れる側のニーズについての企業アンケート

本学科の教育目的、人材育成の方針（添付資料 1 - 3、4）を 16 社の業種の異なる企業経営者（主に中小企業の経営者）または人事担当者等に対して示し、需要の有無についてのアンケートを実施した。アンケートは、企業の採用に関する考えを知り、今後の本学科の人材育成に役立てるために定性アンケートとした。したがって、質問回答に対する理由欄に記入された意見は、今後の本学科の人材育成に非常に役立つものである。

実施期間は、2011 年 6 月～9 月にかけてである。

アンケートを依頼した企業の業種と質問は以下の通りである。（添付資料 1 - 2、5）

業種：16 社（回答は 17 件）

- 1) 製造・販売業（生活雑貨、機器）・・・5 社
- 2) アパレル製造・販売業（ファッション雑貨の企画・制作・販売も含む）・・・4 社（内 1 社は 2 つの質問に回答）
- 3) インテリア材料製造・販売（インテリア用品も含む）・・・4 社
- 4) 不動産業・・・1 社
- 5) 経営コンサルタント業・・・1 社
- 6) 広告制作業・・・1 社

質問：回答に対する理由記述欄とともに設けた。

- 1) 採用対象にする考えは無い
- 2) 採用はデザイン専門職とし、デザイン制作業務を担当
- 3) 採用はデザイン専門職とし、事務職および関連業務も兼務
- 4) 採用は事務職とし、デザインおよび関連業務も兼務
- 5) 採用は営業部門とし、事務も含めデザインおよび関連業務を兼務
- 6) その他

以上の質問の他に、以下の記述も求めた。

- 1) 会社名、資本金、社員数、回答者、部署名・役職名の記述
- 2) アンケートデータを文部科学省へ提出することへの可否

各企業からの回答を次にまとめる。

業務ニーズの割合と業種

1) 採用対象にする考えは無い：6%

回答：1社

①インテリア用品製造・販売業：1社

2) 採用はデザイン専門職とし、デザイン制作業務を担当：12%

回答：2社

①アパレル製造・販売業：1社

②機器製造・販売業：1社

3) 採用はデザイン専門職とし、事務職および関連業務も兼務：29%

回答：5社

①機器製造・販売業：2社

②生活雑貨製造・販売業：1社

③経営コンサルタント業：1社

④ファッション雑貨の企画・制作・販売業：1社

4) 採用は事務職とし、デザインおよび関連業務も兼務：6%

回答：1社

①不動産業：1社

5) 採用は営業部門とし、事務も含めデザインおよび関連業務を兼務：23%

回答：4社

①アパレル製造・販売業：2社

②機器製造・販売業：1社

③広告制作業：1社

6) その他（理由記述欄から生活デザインの学びが活かせる業務であることが読み取れる）：24%

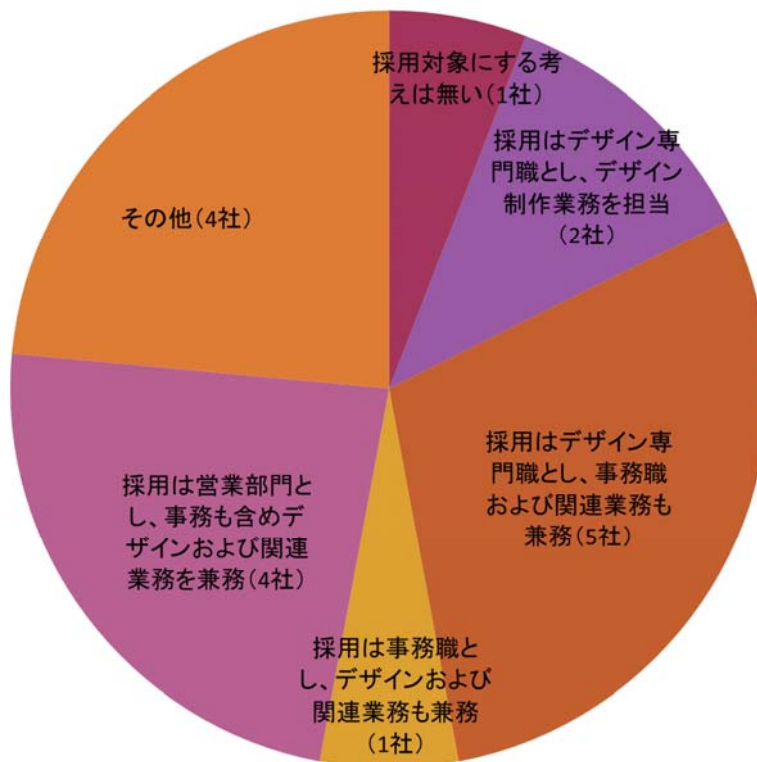
回答：4社

①インテリア材料製造・販売業：2社

②アパレル製造・販売業：1社

③インテリア用品製造・販売業：1社

まとめ



アンケートの結果は、全ての企業に本学科の教育目的、人材育成の方針が理解され、「採用はデザイン専門職とし、事務職および関連業務も兼務」(5社)、「採用は営業部門とし、事務も含めデザインおよび関連業務を兼務」(4社)をはじめ、その企業の業務内容に必要とされる部門においてデザインスキルを活かせる業務に採用対象とする回答を得ることができた。また、採用対象にする考えは無いと答えた1社においてもその理由を、即戦力を求めるため中途採用のみとしたうえで、求人するに当たっては、デザイン専門業務および関連業務の担当とした回答があり、本学科の教育目的、人材育成の方針が理解されていると判断できる。

回答の中には、以下のような本学科の教育目的、人材育成の方針に期待する回答も寄せられている。

- ①今回の「生活デザイン」の新たなデザイン教育と人材育成というテーマは現実的で良い考え方と思います。
- ②「生活デザイン」の観点から、自社製品のブランド戦略として女性の感性での商品企画、デザインは大きな武器、大きな戦力になると考えているとしている。

③総合職として採用しており、業務の兼務はないが、本学科の教育目的、人材育成の方針はジョブローテーションに対し柔軟な姿勢が期待できるとしている。

これらのことから、改めてデザイン業務をこなしながら柔軟に対応できる人材が潜在的に望まれており、本学の生活デザインの学びに対する人材需要はあると判断することができる。

以上

回答とその理由（理由の抜粋）

□採用対象にする考えは無い（１社）

①インテリア用品製造・販売

採用対象にする考えは無い

下記業務内容を鑑みれば、弊社の様な小企業では即戦力となる方を求めますので、大学新卒の求職者を採用する事は難しいと考えます。

大学卒業後、実務経験を数年経た方を中途採用しております。

求人をするに当たっては、デザイン専門で業務していただく事となります。

しかし、弊社は Fabless 企業(生産設備を持たないメーカー)ですので、生産委託工場に対しての生産交渉、価格交渉、品質管理の業務は付随してきます。

勿論、デザイン(企画・開発)やコスト計算も全て当該部署で行いますし、新規の協力メーカーの開拓及び交渉も業務として要求されます。小企業としては当然の勤務要求と思います。

□採用はデザイン専門職とし、デザイン制作業務を担当（２社）

①アパレル製造・販売業：

企画力でオリジナル商品メインの子供服メーカーであり少子化を逆手にしてこだわりの物作りができる。クリエイティブな専門的知識が必要となる。

②機器製造・販売業：

弊社のような小規模のメーカーにとって、人材という経営資源を業務の多機能化によって効率化を高める必要があり、その意味で複数業務の兼務という形で採用することは理にかなっている。しかし、デザインを一般事務職と兼務することはクリエイティブな業務と日常の帳票処理業務と兼務することは得策ではないように感じる。

わが社としては、設計開発チームのなかでデザイン業務+αに携わることが望ましい。

女子4年制大学のデザイン学科からの人材採用は、わが社および中小企業、東北の地域産業にとって大変有用と思われる。

今後、国内から大量生産、大量消費に向けた工業製品の商品開発、生産が海外に移転することがますます加速する。これらの工業製品は操作や管理する男性的視点での人間工学的なデザインが主流であったように思う。

これからの日本の省資源、省エネを含めた日本人的な新しい価値観を創造すべき国内市場にはより新しい生活提案に密着した商品開発が求められるであろう。

わが社は、特に国内の新しい顧客の創造を目指している、「生活デザイン」の観点から、自社製品の「テクモ、ブランド」戦略として女性の感性での商品企画、デザインは大きな武器、大きな戦力になると考えている。

□採用はデザイン専門職とし、事務職および関連業務も兼務（５社）

① 生活雑貨製造・販売業：

弊社は、横浜の型染め捺染にこだわった物作りにこだわり、春夏秋冬と年間４シーズンごとに新柄を作成していろいろな生地やアイテム落とし込んだ商品企画作業を行っております。企画メンバーの仕事の内容は企画関連業務の業務が重要な仕事になっております。今回の「生活デザイン」の新たなデザイン教育と人材育成というテーマは現実的で良い考え方と思います。参考に弊社の現在の６名の企画室のメンバーの役割分担は下記のようになっております。

- A. 柄作成専門 創造する部分から進める柄作成(契約社員)
- B. 柄作成専門 外部以来図案や海外図案を編集して柄作成担当(パート社員)
- C. カタログ製作担当、シーズンごとのプロパー商品の編集、合間に柄作成(社員)
- D. サンプルの整理、品番登録作業、合間に柄作成(社員)
- E. 直営店V P、直営オリジナル商品企画、合間に柄作成(社員)
- F. ウェブ関連業務(社員)

以上のように、社員はいろいろな業務を兼任しております。

②機器製造・販売業：

開発業務を主幹とし、3D-CAD操作、商品デザインをサブとした業務範囲
(開発業務は事務職 例えば特許整理、環境会計、ルーチン評価 etc)

③機器製造・販売業：

採用は技術部門とし、デザインおよび関連業務も兼務

製品開発に際して、デザインの専門知識、表現等を組み込んで行きたい。(行くべき)
ユーザからの視点から見た筐体、メカ設計等に参加できる。

④経営コンサルタント業：

幅広い業務を把握した上で、デザイン業務に反映させてほしい。

⑤ファッション雑貨の企画・制作・販売業：

当社のデザイン企画分野で採用する場合は、デザイン分野における専門知識および能力と同時に会社内の他の部署との関連業務を行うことも求められるため。

□採用は事務職とし、デザインおよび関連業務も兼務（１社）

①不動産業：

HP 作成等で、デザイン感覚は必要と思われ、自社サイトの立ち上げ等で有効になるかも。
また、デザインを通して細かな気配り(デザイナーは細部をつきつめる努力が必要)が、実仕事に何らかの役に立つと思われる。

□採用は営業部門とし、事務も含めデザインおよび関連業務を兼務（４社）

①機器製造・販売業：

営業部門に配属し、営業事務以外に以下の業務を担当することが可能と考える。①販売促進業務として、カタログ製作、販売店向けの新商品案内資料、展示会ブースデザインに関する業務②設計部門を補佐する業務として、新商品の包装・パッケージデザイン、取扱説明書の製作に関する業務。

②アパレル製造・販売業：

マーケットや弊社業務に深く関連性が無い為
知識の一部として営業に役立てば可

③アパレル製造・販売業：

直営店における販売スタッフとして現場における商品動向、消費者意識や売り上げ作りを経験して、コーディネーターや営業さらに、企画サイドの MD へのステップアップができる

④広告制作業

デザイナーとして採用するには、少々中途半端な感が否めない。それよりも、生活デザインを学んだ者としての感性を生かし、顧客のニーズを自分の中でイメージし、具体化させることのできる営業担当であれば、会社としても顧客にとっても価値のある人材となるのではと考える。

□その他 生活デザインの学びが活かせる総合職に置き換えることができる。（４社）

①アパレル製造・販売業：

採用は店舗の販売スタッフ業務を募集予定ですが、現在、店舗での販売キャリアを経験の

後企画生産部や企画コーディネーターへのステップアップにて、仕事に従事しているスタッフも多数おり、将来的に活躍の場は様々なチャンスは有ります。尚、その他内勤事務職や広報宣伝部(プレス)なども、多くの店舗スタッフ経験者によって構成されています。

②インテリア材製造・販売：

該当しそうなセクションは下記が考えられます。

- 1、プロダクトデザイン、(カーペット、床材、壁紙)美術系大学出身者が占めます。
- 2、スペースデザイン(プレゼンテーション資料として、床伏図＝フロアデザイン、コーディネートボードの作成)美術系大学、専門学校の出身者
- 3、ショールーム(営業の組織下にあり、商品説明、コーディネートアドバイスをを行います。又、ショールームのディスプレイ維持管理、POP等の製作も行います。)

専門職郡に当たり、IC資格も欲しいところですが、こだわりません。現状では派遣スタッフの比率が高くなっています。

私見ですが、求められる人材として生活体験を進んで行っている人。生活者のトレンド・ライフスタイルに敏感な人。言葉でコミュニケーションの取れる人。古いものでもモノの質(デザインも含め)の分かる人。モノが生活に溶け込んで行くに従ってのメンテナンスも語れる人。

③インテリア用品製造・販売：

アクタスでは、4大卒の方はすべて総合職として採用しております。

総合職として採用の場合、学科や専攻に関係なく、スタートは原則3年、各直営店舗で販売職を経験しながら仕事の基礎を培っていただきます。その後は、能力・適性、本人の希望に応じて各セクションに配置し、キャリアアップを図っていただきます。

弊社では配置部署においては業務の兼務はありませんが、貴校の方針はジョブローテーションに対し柔軟な姿勢が期待できると考えます。

④インテリア材製造・販売：

従来、学部学科不問で営業適性のある学生を職種・部門の別無く採用しているため、採用対象となります。

職種：営業、管理、製造、技術(商品企画)

営業先：インテリア販売店、卸店、商社、ハウジングメーカー、ゼネコン、建築事務所他

・ICへの営業活動

・販促物やプレゼン資料の作成、企画

・営業経験を軸とした商品開発 など

(※専門知識を直接的に活かすことに固執せず、様々な業務に柔軟に対応し、自分の可能性を見出す姿勢が求められます。)

企業に対するアンケートの説明

女子大学における新たなデザイン教育と人材育成

本学科のデザイン教育は、社会人として自立するために必要な一般的知識や教養を学び身に付けると共に、環境デザイン、生産デザイン、視覚（情報）デザイン^①の3分野の専門知識と表現技術を総合的に学び、デザイン領域に囚われない「生活デザイン」として、生活者としての視点と広い視野をもつ、生活を基盤としたデザインをコーディネート、クリエイトできる有為な人材を育成することを目的にしています。

今日、実社会では科学技術の進歩と産業・経済構造の変化に伴い、新しい概念をもった製品やサービスが次々に生まれており、デザインの現場においてもその業務内容はますます高度に専門化、分業化されています。

そのような現状において、ともすれば、資本を掛けた質の高いデザインが一部の限られた対象にだけ偏在し、生活に身近にある、資本を掛けるまでもない小さなものの多くに、未だ良いデザインとされるものが不在である社会が構成されていることも否めません。生活の豊かさが総合的な形で満たされにくい構造となっています。

日々の生活において良いデザインとされるものを遍在させるには、人、環境、モノすべてを対象に、生活の身近にある疑問に対して、デザイン領域を横断する広い視野をもって、最も生活に必要なこととして問題意識を持つことから始めなければなりません。そして、生活者側の視点で生活者と生産者をつなぎつつ、新しい価値や概念を創造し、解決策を身近な生活のデザインとして具体的に提案して行くことが必要です。つまり、小さなデザインのゼネラリストを育成することで良いデザインを遍在させることが可能となると考えます。

本学科は、「生活デザイン」として、先にも述べましたが、デザインの専門知識や表現技術とともに社会人として自立するために必要な一般的知識や教養を総合的に学び、デザイン領域に囚われない生活者としての視点と広い視野をもつ、生活を基盤としたデザインをコーディネート、クリエイトできる有為な人材を育成することを目的としています。そして、卒業後の受け入れ先である実社会へ教育内容をフィードバックするデザイン教育の一つの領域として、専門性と総合性の融合による「生活デザイン」の分野を構築するとともに、その質と内容を高めながら人材を育成し、小さなデザインのゼネラリストへの社会的要請に応じることを目標とします。

デザイン分野での求人・採用は、専門性が必須であるとして美術系や工学系の大学を卒業した学生に占められているのが現状です。そこで、デザインと教養を幅広く総合的に学び、最も身近な生活環境、生活具としてさまざまな視点から新しい価値や概念を提案することができる「生活デザイン」を学んだ学生の進路の一つとして、中小企業、特に地域における中小企業への就職を目標にしたいと考えています。良質のデザインを創出するため

の商品やデザイン開発を行うことを必要としているが、商品開発やデザイン部門を置くまでに至らない、また開発毎にデザインのアウトソーシングをすることができない中小企業、同様にアウトソーシングするまでも無いがデザインイメージの統一や広報活動により企業イメージを高める必要がある中小のサービス業、小売販売業などでの、総務課や庶務課が進路の一例として考えています。これらの部署では、事務系の業務をこなしながら必要に応じてデザイン制作を担当し、デザインを総合的な視点で捉え柔軟に対応することができる人材を育成することを考えています。

また、デザイン部門を置くメーカーにおいても、デザイナーだけではなく、営業担当者として、専門をある程度理解でき、事務系の業務もこなしながらユーザーとデザイン部門をつなぐゼネラリストとしての役割を担える人材育成も目標としています。

現状でのデザイン各分野のプロフェッショナルと呼ばれる人材が生み出すデザインを従来の「デザイン」と呼ぶならば、例えば先述したような、中小企業などにおける総務課、庶務課の業務とされる事務処理等を担当しながら、必要に応じて商品企画、社内報や社内イベントに関する冊子・ポスター制作、ノベルティーグッズのデザインや製造業での商品開発、製品デザイン、営業用プレゼンテーション資料の作成補助、HPの管理、自社デザインのアウトソーシング業者のコーディネートなど、良質のデザインにすることを目的とした身近なクリエイション作業から生まれる小さなデザインをウィリアム・モリス^②の言葉を借りて「レッサーデザイン (lesser design・小デザイン)」と呼ぶことができます。

デザインアドバイスやアイデアが要請されるショップやショールームでの業務など、「レッサーデザイン」にはさらに幅広い可能性を見出すことが出来るのではないかと考えます。その効果が及ぼす範囲は小さく狭くはあっても、デザイン戦略によって商品や製品、サービスの質をより優れたものにし企業イメージをより一層高めることが求められる場で「レッサーデザイン」を担当できる学生を育成することを、本学科の人材育成のひとつの具体的目標にしたいと考えています。また、空間デザインやCAD(Computer aided design)等の教育にあっても、1・2級の建築士やインテリア・コーディネーターの資格取得や、建築設計・施工図技術者養成を目指すのみならず、より柔軟に、建材メーカーや家具・什器メーカーなど建築周辺の産業で幅広く企画・営業や営業補助を担当できる人材の育成も目標として視野に入れていきます。

こうした本学科の教育のねらいの一つである「レッサーデザイン」は、中小企業における優れたアイデアや技術、サービスに、デザイン概念や美的価値を加えることによって商品価値を高めるだけでなく、社会全体のデザインレベルの向上に貢献することができるものと考えます。日本の企業の99.7%を占める中小企業は日本経済を根っこから支えているといっても過言ではなく、特に地域における中小企業は、地域の経済活性化に大きく寄与しています。「レッサーデザイン」を社会に根付かせることは、これからも豊かな生活を支えていくための一つのエレメントとなると考えます。

本学科は、「生活デザイン」を学んだ人材を送り出すことで、「生活デザイン」の一つの表現である「レッサー・デザイン」を丁寧に社会に根付かせ、社会全体のデザインのレベル向上に寄与することを目的の一つとしています。さらに将来においては次なるステップを構築して、「生活デザイン」の各分野においてより優れた専門的能力を併せ持つデザイナー

が育つことが出来るように、そして、多くの学生がデザインの専門性を活かせる進路を希望できるよう、人材育成に努めて行きたいと考えます。

以上です。

註①：環境デザイン：建築デザイン、室内デザイン

生産デザイン：ファッションデザイン、テキスタイルデザイン、プロダクトデザイン

視覚（情報）デザイン：グラフィックデザイン（広告・イラストレーション等）、

デジタルデザイン（web、CG、アニメーション等）

註②：ウィリアム・モリス：

ウィリアム・モリスは 1860 年ごろイギリスで、アーツ・アンド・クラフツ運動をおこし、産業革命による大量生産方式による機械生産品の醜悪さを批判した。

また、自ら壁紙や家具・調度品などを手工芸的に生産し、働く喜びの失われた分業機械生産を否定した。（モリス・マーシャル・フォークナー商会を設立、最初のインテリアデザイン会社とされる）しかし、民衆のためにおこされたはずのこの運動は、少量生産であることと高価な製品であったために、この後の波及はおさえられた。

アーツ・アンド・クラフツ運動：

特定の富裕層のみが享受できる芸術や工芸品を「大芸術(Great Arts・グレートアーツ)」とし、大芸術だけでなく、日常生活の中で大衆に役立つ芸術や工芸品を「小芸術(Lesser Arts・レッサーアーツ)」と呼び、小芸術を志向した。

■アンケート

長文をお読み頂きありがとうございます。このような人材育成を目標に女子大学における四年制の学科を設置することを考えていますが、御社でこのような教育を受けた学生を採用対象にすることは可能でしょうか。お手数をお掛けして誠に恐縮ではございますが以下の質問にお答えいただければ幸甚に存じます。

質問：

採用する場合の部門や職務について、お考えをお聞かせください。以下からお選びいただき、□にチェックを入れ、その理由もお願いいたします。以下の質問以外で御社に相応しい業務担当とする部門、業務等のお考えがある場合は、その他の欄にご記入ください。

☐ 採用対象にする考えは無い

理由：

☐ 採用はデザイン専門職とし、デザイン制作業務を担当

理由：

☐ 採用はデザイン専門職とし、事務職および関連業務も兼務

理由：

☐ 採用は事務職とし、デザインおよび関連業務も兼務

理由：

☐ 採用は営業部門とし、事務も含めデザインおよび関連業務を兼務

理由：

☐ その他

■御社についてご記入ください。

会社名：

資本金：

社員数：

ご回答者：

部署名・役職名：

以上、お答えいただきましたアンケートデータを、文部科学省へ資料として提出することへの可否について、チェックをお入れください。

☐ 可

☐ 否

以上、ありがとうございました。

高校生を対象とした相模女子大学生活デザイン学科についての意識調査（入学者確保の見通しに関するアンケート調査）

本学科の「生活デザイン」に対する考えや特徴、カリキュラム等について女子高校生へ理解を求めるとともに、今後四年制としての生活デザイン学科のカリキュラム等へ反映させることも含めてアンケート調査を実施した。

調査方法は、予めアンケートへの協力を対象高校へ電話で依頼した後に、アンケート用紙を送付し、記述後に返送していただく方法をとった。回答方法は、本学科の特徴などに関する説明文を読んだのちに回答であるYES、NOに対する理由記述によるアンケートとした。

調査対象高校は、本学の指定校枠のある学校である神奈川県内15校と東京都内2校の計17校の1、2年生の生徒を対象に行った。アンケートの回収は、神奈川県内14校（県立高校6校、私立高校8校）東京都内1校（私立高校）の計15校（回収率 88.24%）。回収数は1019枚（1年生266枚、2年生714枚、無記入39枚）。

実施期間は、2011年11月下旬～2012年1月中旬である。

アンケートの質問は以下の通りとする。

質問：

1) 生活デザインってなんだろう

Q. さあ、あなたも生活デザイン学科のデザインに少し興味をもてそうになりましたか？

2) 生活デザイン学科の特徴

Q. 最初に分野を決めずに学び始めることに、あなたは関心がありますか？

Q. 分野を超えてデザインを学ぶことができる生活デザイン学科のカリキュラムに関心がありますか？

3) 生活デザイン学科で学ぶと何ができるようになるの？

Q. 生活デザイン学科で学んだ後の進路に関心がありますか？

4) 美術系の大学とどこが違うの？

Q. 美術系の大学ではなく、生活デザイン学科で学ぶことは、あなたにとって意味があると思いますか？

5) こんな大学生活を送りたい

Q. あなたはどのような学生生活を期待していますか？

Q. あなたの希望進路を教えてください

アンケート集計（質問順）

1) 生活デザインってなんだろう

デザインとは、生活を支え、豊かにするさまざまな形を生み出すこと。

その仕事をしている人たちをデザイナーといいます。

デザイナーって、なんだか特別な人たちと思いませんか？

そしてデザインって、そのデザイナーたちの住む別世界の出来事だと思いませんか？

相模女子大学の生活デザイン学科で学ぶデザインは、少し違います。

「デザインは、みんなのもの」

それが生活デザインの原点です。

誰でも、自分たちの住む世界をよくしたいと願って、身近な小さいことから始めてみていい。

そうしたとても小さな芽を大切に育てるところから始めるのが、生活デザイン学科のデザインです。

Q. さあ、あなたも生活デザイン学科のデザインに少し興味をもてそうになりましたか？

☐ YES : どういうところに興味を感じましたか？

☐ NO : それはなぜでしょう？

■この問いに対して、図1に示すように「興味を持てた」43%、「興味を持てなかった」56%、「回答なし」1%であった。

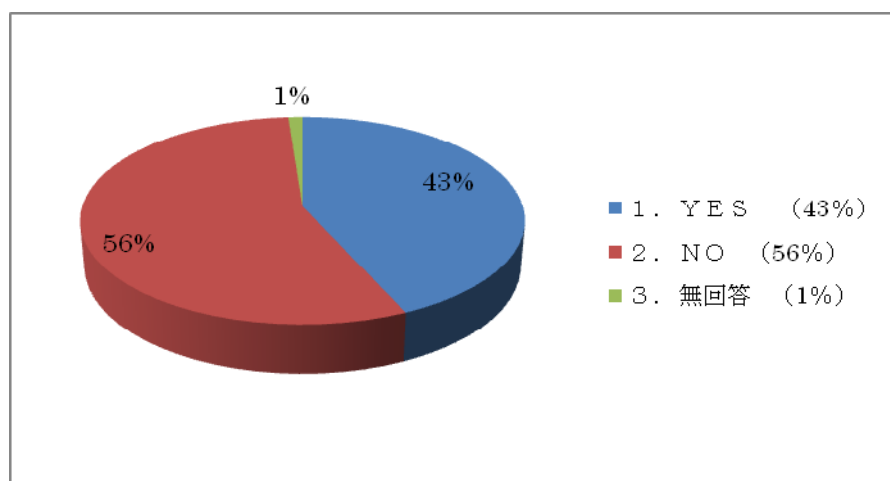


図1 生活デザイン学科に興味を持てそうになりましたか (%)

興味を持てたと回答した高校生がどういうところに興味があるのかは、(図1-1)に示

した。

「デザインはみんなのもの」36%、「デザインが好き・興味がある・楽しそう」28%、「デザインは生活を豊かにする」13%、「自分のデザインが役に立つ」9%、「デザインを学びたい」2%、「その他」12%であった。

デザインは高校生たちにとって特別な人たちの職業と思われていたのが、「デザインはみんなのもの」という言葉によってデザインを身近に感じ、デザインはデザイナーだけのものでなく、別世界の人たちのものでもなく、みんなのものだという発想に共感を持ったと思われる。また、デザインは身近なものであり、生活を豊かにすることが出来る生活デザインって面白そうとの記述も見られた。

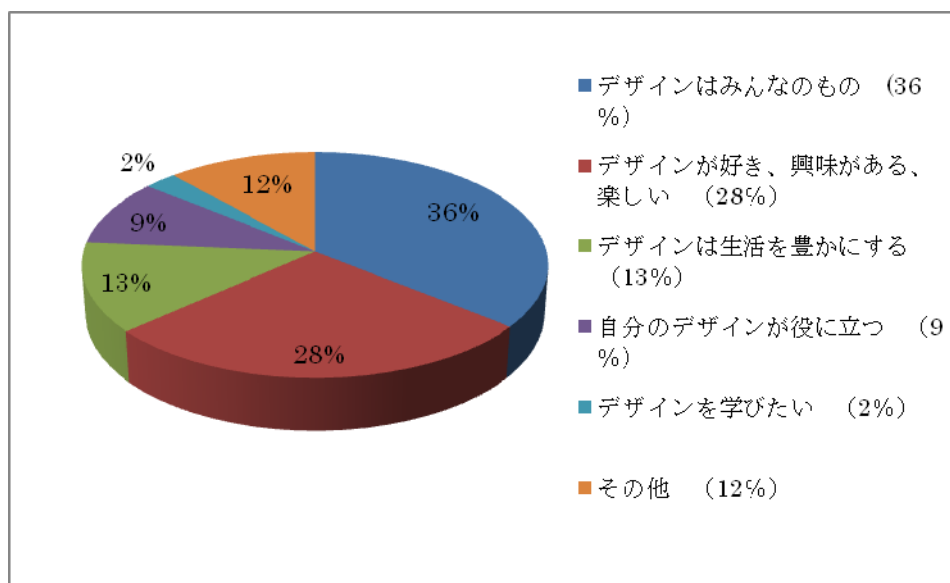


図1-1 どういうところに興味を感じましたか (%)

興味がないと答えた高校生に問いかけた「それはなぜでしょう」の回答を(図1-2)に示した。

「他学科に興味がある・他に夢がある」31%、「興味がない」19%、「生活デザイン学科が分からない」14%、「センスがない・向いていない」9%、「難しい・苦手・嫌い」12%、「その他」15%であった。

他分野への興味や夢を持ち、デザイン分野に興味を示さなかった。また、センスがない・向いていない、難しい・苦手・嫌いとの記述は、デザインは難しくセンスがないと出来ないとの先入観もあると思われる。

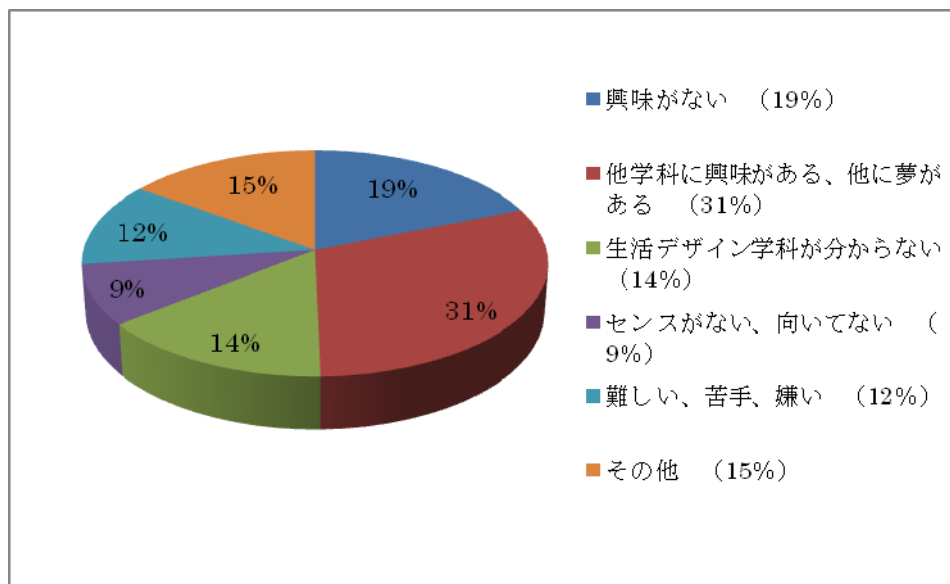


図 1－2 それはなぜでしょう (%)

2) 生活デザイン学科の特徴

私たちの住む世界は、多くの専門の知識や技術によって支えられています。

ことがらを深く知るには専門を選んで学ぶ必要があります。

でも、私たちの日常生活の中に専門分野の境界が見えているわけではありません。

たくさんのことが互いにまじりあい一体となって私たちの日常の世界を形づくっています。

そして分野のはざまにも、わくわくする可能性が潜んでいます。

だから生活デザイン学科のデザインも、一つの学科の中で分野を超えてたくさんのデザインに出会うところから始まります。

生活デザイン学科では、7つの専門の工房が学生たちを待っています。

建築デザイン、室内デザイン、ファッションデザイン、テキスタイルデザイン、プロダクトデザイン、イラストレーション、デジタルデザイン。

分野を超えてたくさんの実技演習を学びます。

何も知らないところから始めて、4年間学ぶ間にあなたの関心を育て、あなたのペースでじっくりと専門を見つければよいのです。

最初に専門分野を決めなくてよい。

そして、入学後も専門分野を超えて学ぶことができる。

だから生活に自然に寄り添ったデザインが学べる。

それが生活デザイン学科の大きな特色です。

Q. 最初に分野を決めずに学び始めることに、あなたの関心がありますか？

☐ YES : なぜ関心がありますか？

☐ NO :それはなぜでしょう？

Q. 分野を超えてデザインを学ぶことができる生活デザイン学科のカリキュラムに関心がありますか？

☐ YES :なぜ関心がありますか？

☐ NO :それはなぜでしょう？

■この問いに対して、(図2)に示すように関心を持った高校生は52%、関心を持てなかったは45%、回答なしは3%であった。生活デザイン学科の特徴である分野を超えて複数の分野が学べること、最初に専門分野を決めなくても自分のペースでじっくりと専門を見つけられることに関心が得られたと考えられる。

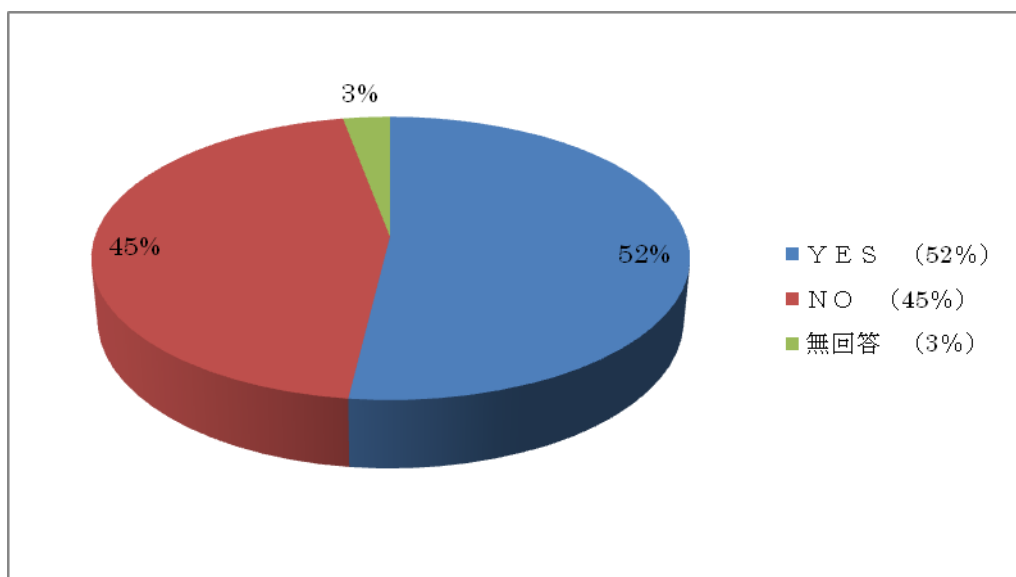


図2 最初に分野を決めずに学び始めることに、あなたは関心がありますか (%)

関心を持った高校生が生活デザイン学科の特徴のどういうところに関心を持ったのかを(図2-1)に示した。分野を決めずに学び、自分に合ったものを見つけるところという回答が77%と高い値であった。このことはまだ自分の進路を決められずに迷っているため関心が強かったと思われる。

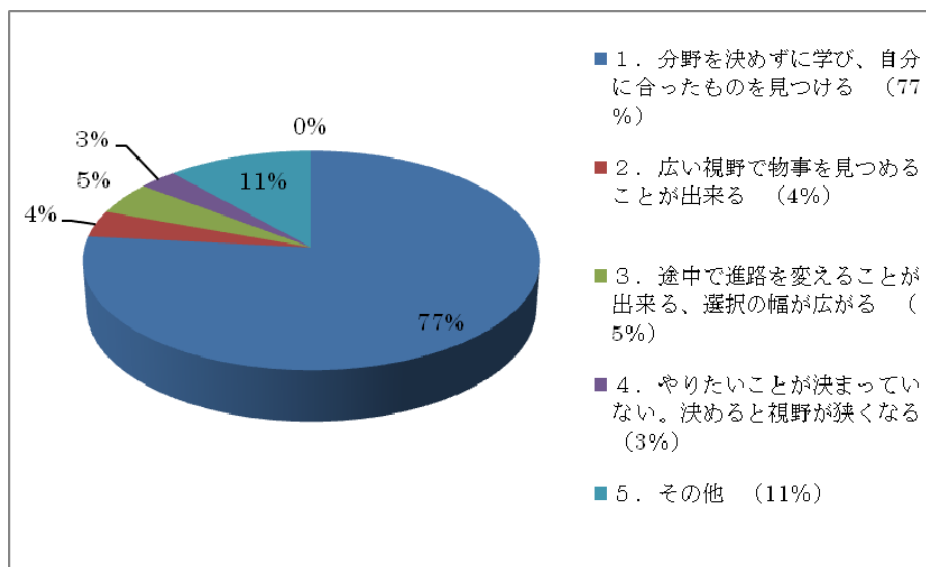


図 2－1 なぜ関心がありますか (%)

関心を持たなかった高校生の「それはなぜでしょう」の回答を(図 2－2)に示した。「分野、目標を決めてから学びたい」39%、「やりたいこと、進路が決まっている」20%、この値を合わせると 59%になり関心を持たなかった高校生はすでに自分の進路を決めているためと思われる。また、「分野・目標を決めてから学ばないと中途半端になり、やる気がなくなる」などの記述も見られた。

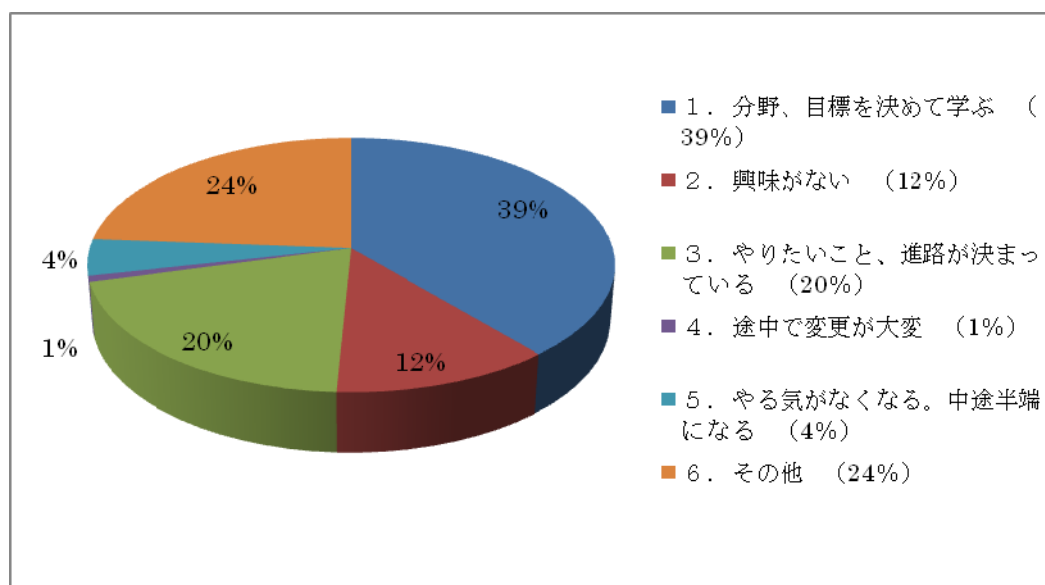


図 2－2 それはなぜでしょう (%)

3) 生活デザイン学科で学ぶと何ができるようになるの？

生活デザイン学科の7つ工房は、それぞれの分野の専門家を育てます。

どの分野のデザインを行うにしても、デザインする対象や背景をよく視ること、デザ

インされたモノを使う人や環境のことも考えます。

また自分がデザインしたモノのすばらしさを他の人に伝える必要もあります。

さまざま分野のデザインについて学ぼうちに、プロジェクトを企画・構想し推進していく基本的な力が身につきます。

そのような力が身についた人はどんな社会人になるのでしょうか？

たとえばデザイナー、でも、それだけではありません。

コミュニケーション力に優れ、幅広い視野や技術力を持つ人を、企業や社会も望んでいます。

各専門分野のデザイナーやコーディネーター、専門分野に関わる商品の企画や開発、営業、ショールーム業務や販売、企業での広告・広報部門、事務部門などなど……卒業後の進路のイメージは多彩です。

Q. 生活デザイン学科で学んだ後の進路に関心がありますか？

☐ YES : どのような進路に関心がありますか？

☐ NO : それはなぜでしょう？

■この問いに対して（図3）に示すように、「関心がある」39%、「関心がない」57%、「回答なし」4%であった。

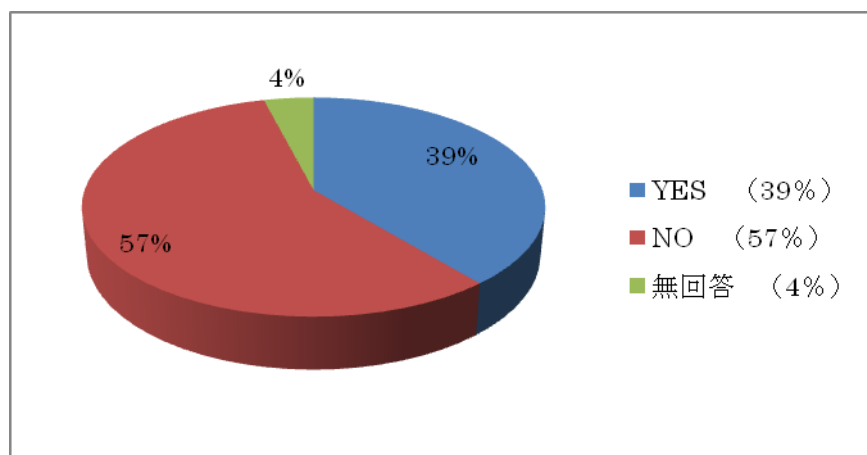


図3 生活デザイン学科で学んだ後の進路に関心がありますか (%)

進路に関心があると回答した高校生はどのような進路に関心があるのかを、(図3-1)に示した。

関心が高かったのは「各専門分野のデザイナー、コーディネーター」39%であった。次に「どのような進路があるか興味がある」24%、「商品企画・開発」9%、「広告・ポスター」8%、「ショールーム業務・販売・営業」5%、その他 11%であった。関心のある進路はデザイナーやコーディネーター、デザイン・商品企画・開発、広告・ポスターなどデザインに関係する仕事に就けるように希望と期待を抱いていると思われる。

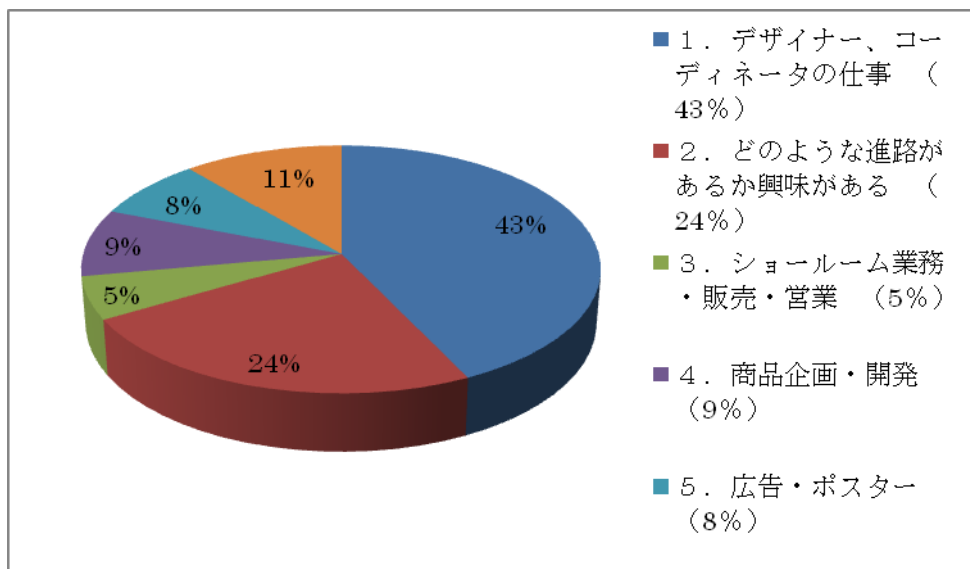


図 3-1 どのような進路に関心がありますか (%)

関心がないと答えた高校生に「それはなぜでしょう」の問いについての回答を（図 3-2）に示した。興味・関心・やりたいことがない 36%、他にやりたいことがある・決まっている 16%、デザイン分野の進路を考えていない 15%、進路が決まっている 7%、デザインの才能がない 6%、夢が違う 5%、その他 15%であった。関心がないと答えた高校生ははじめからデザイン分野は視野に入っていなかったと考えられる。

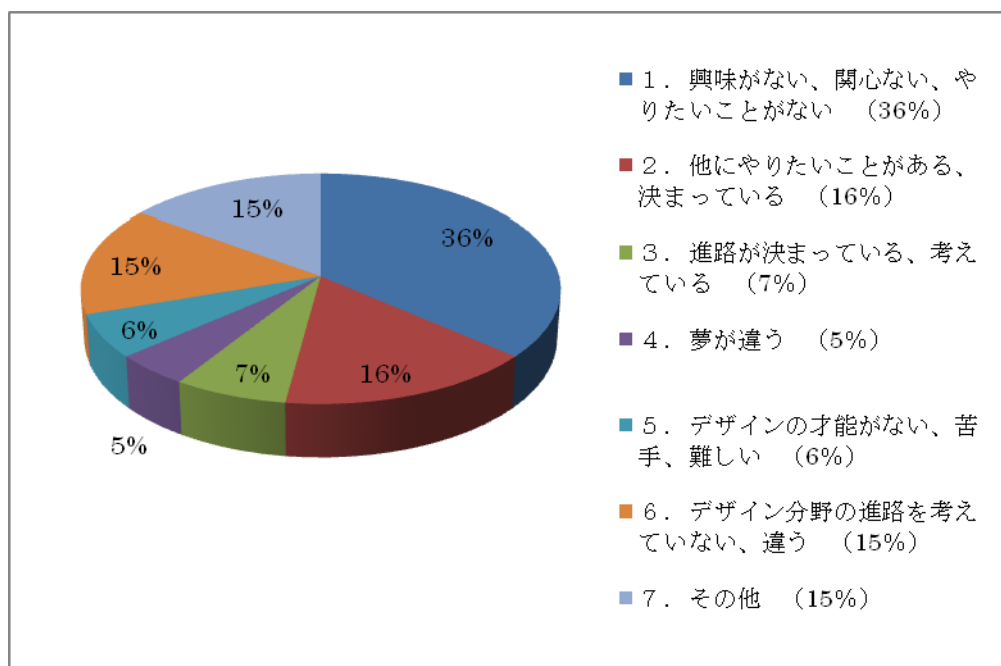


図 3-2 それはなぜでしょう (%)

4) 美術系の大学とどこが違うの？

生活デザイン学科は、以外のことも広く学べる「学芸」学部にも所属します。

そのため、社会に出るときに必要な一般教養もしっかり学べるので、将来の進路の選択の幅が広がる点が違います。

また、小さい学科の中に、たくさんの分野があることも特徴です。

少人数なので各工房との距離が近く、さまざまな分野の活動がいつも身近にあります。

一般的な美術系大学と比べて、分野をクロスオーバーした活動が簡単です。

何よりも、専門をしぼらずに入学しても安心なところが大きく違います。

Q. 美術系の大学でなく、生活デザイン学科で学ぶことは、あなたにとって意味があると思いますか？

☐ YES : どのような点に意味があると思いますか？

☐ NO : それはなぜでしょう？

■この問いに対して（図4）に示すように、「生活デザイン学科で学ぶことは意味がある」44%、「意味がない」51%、「回答なし」5%であった。

学芸学部にも所属することでデザインの実技に加えて一般教養も学ぶこと。また、美術大学は専門分野だけを学ぶイメージが強く、クロスオーバーして学ぶことが出来ることに意味があると感じたようである。

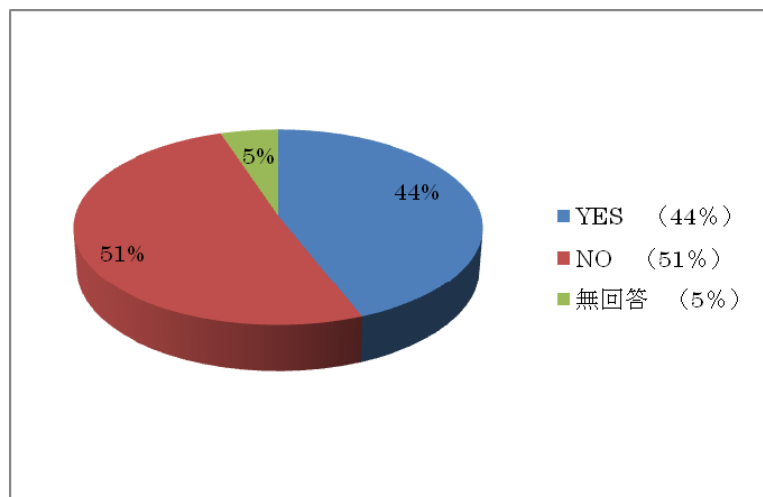


図4 美術系の大学でなく、生活デザイン学科で学ぶことは、あなたにとって意味があると思いますか？ (%)

意味があるとして「どのような点に意味があると思いますか」という問いに対する回答を（図4-1）に示した。

「幅広く学べる」42%、「デザイン以外の一般教養」16%、「専門を深く学べる」9%、「将来の進路の幅が広がる」8%、「ゆっくり進路が決められる」5%、「美術大学は絵・彫刻・

芸術のイメージ、苦手」2%、「美大一本で学ぶ」1%、「その他」17%であった。一般教養を含め容易にクロスオーバーしながらデザインを幅広く学ぶことができるところに意味があると思ったと考えられる。

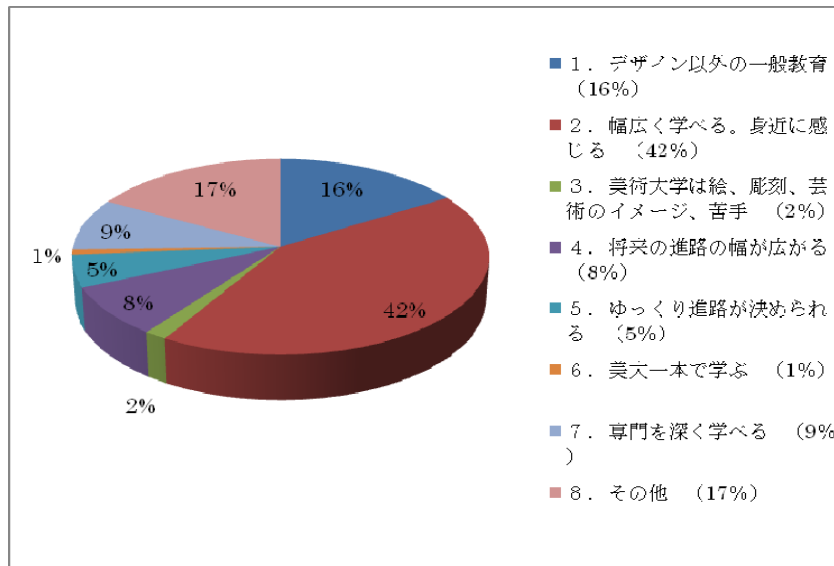


図4-1 どのような点に意味があると思いますか (%)

意味がないとこたえた高校生に「それはなぜでしょう」との問いに対する回答を（図4-2）に示した。「進路が違う」28%、「デザインに興味がない、苦手」17%、「違いがよく分からない」15%、「美術、デザイン両方に興味がない」13%、「美大の方が良い」8%、「その他」19%であった。意味がないと回答した高校生はデザイン分野に興味がなく苦手意識があることや別の分野に意味を見つけているためと思われる。

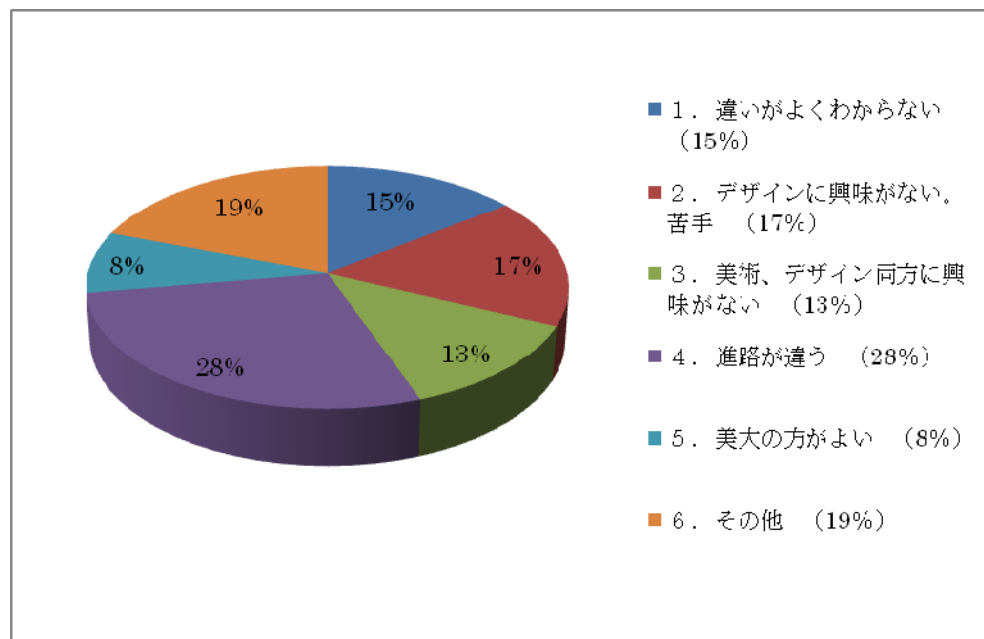


図4-2 それはなぜでしょう (%)

5) こんな大学生活を送りたい

生活デザイン学科では、実技演習を中心にカリキュラムが組まれています。

一年次から多数の実技演習を通して、作品をつくる中でデザインを学びます。

手を動かすことが好きな学生にとっても合っている毎日です。

演習は、各専門の道具やパソコンが並ぶいくつもの実習室で行われます。

理論を学ぶための講義科目もたくさん用意されていて、デザインの歴史や考え方がよくわかります。

工房を超えた学年全体でのプロジェクトや、学外の企業等と連携したプロジェクト、企業インターンシップ、作品発表など、教室を飛び出して学ぶこともあります。

4年間かけて学んだことを、最後に卒業制作という形にして、卒業します。

Q. あなたはどのような学生生活を期待していますか？

「なんでもかまいません。楽しみにしていることを教えてください。」

- この問いについては、(図5-1)に示した。「将来に向けて知識・技術をしっかり学び、就職につなげる充実した学生生活」23%、「楽しく充実した学生生活と勉強」18%、「興味のあること、好きなことを勉強して人との係わりを持つ」14%、「サークル・部活・勉強」8%、「自分のやりたいことを見つけしっかり勉強する楽しい学生生活」8%、「新しい友人を作り、一緒に学び充実した学生生活を送る」5%、「学園祭や他の行事とサークル」4%、「勉強はゆるく、自由で楽しい学生生活」4%、「サークル、バイト、遊び」2%、「進学しない、デザイン分野には行かない」2%、「英語、外国語の勉強」1%、「その他」10%であった。

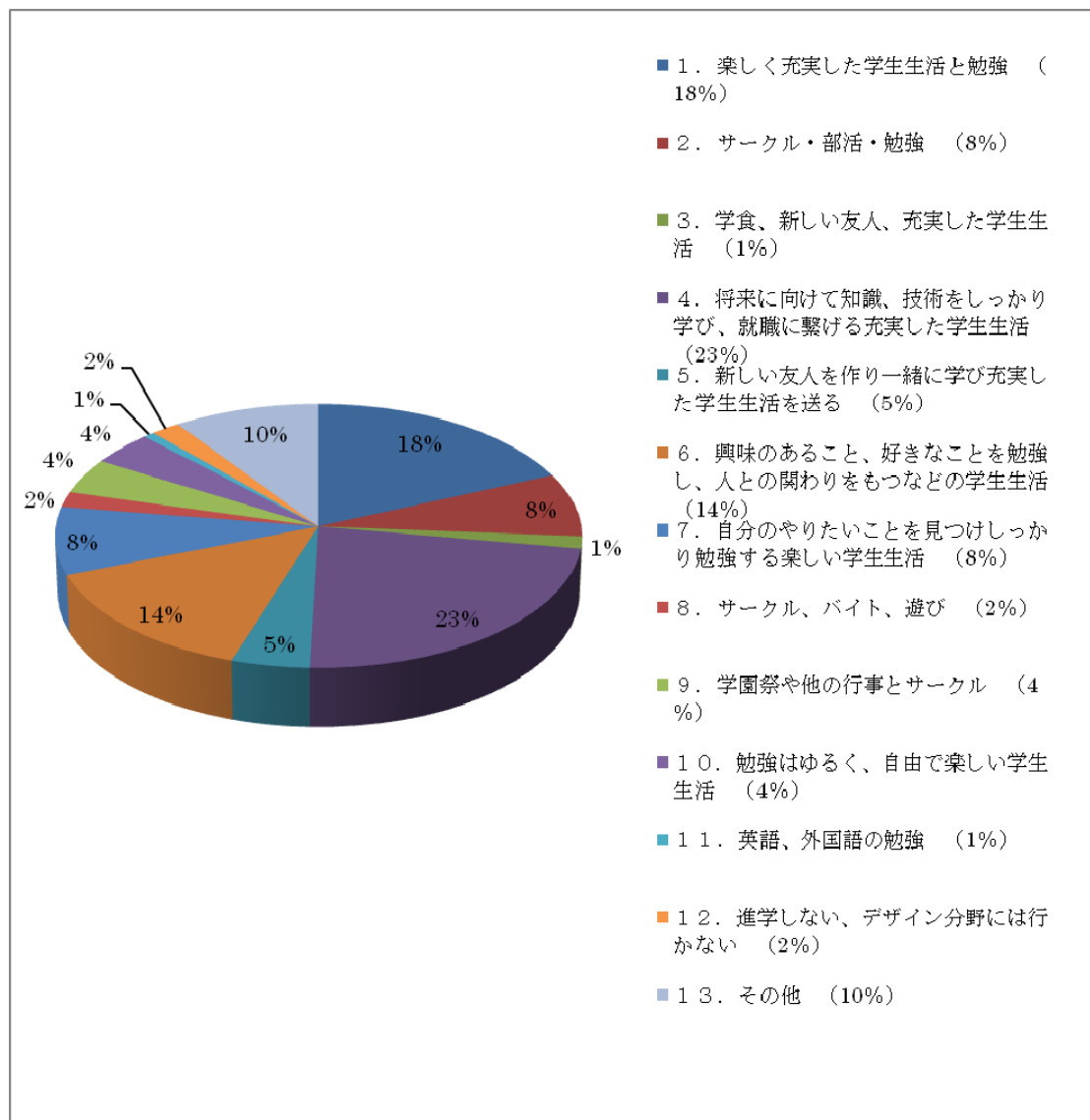


図 5－1 あなたはどのような学生生活を期待していますか (%)

Q. あなたの希望進路を教えてください

- ☐デザイン系 ☐デザイン以外の分野の美術系 ☐文系 ☐理系
☐その他の分野 ☐進学しない

■この問いに対して、(図 5－2) に示すように希望する進路は文系が一番多く 356 名で全体の 35%であった。次にその他の分野 266 名で 26%、理系 138 名で 14%、デザイン系 59 名で 6%、デザイン以外の美術系 (以後美術系と記す) 35 名で 3%、回答なし 91 名で 9%の順であった。そのほかに、デザイン系・文系、デザイン系・理系、デザイン系・その他の分野、美術系・文系、美術系・理系などである。デザイン系、デザイン系・文系、デザイン系・理系、デザイン系・その他の分野などデザイン系を合わせると 73 名になる。

また、進路を決めていない91名の中には今回のアンケートにより本学科を意識した高校生もいると思われ期待が持てる。

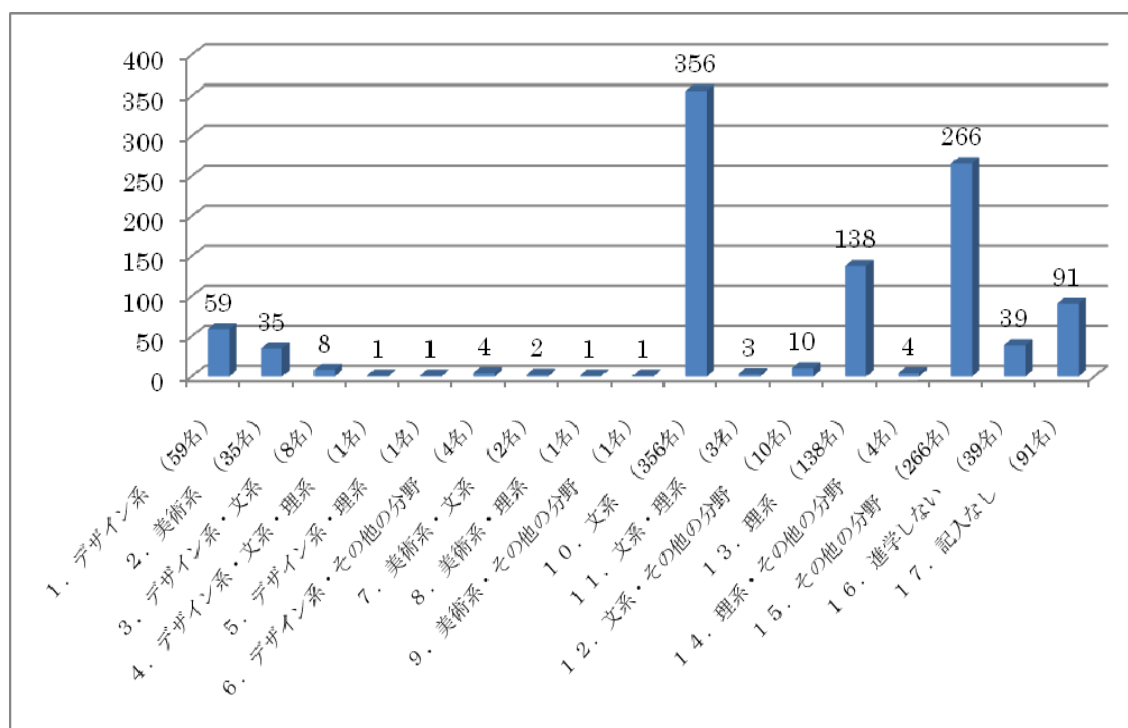


図5-2 あなたの希望進路を教えてください (数)

希望進路は高校生の多くが文系志望である。この結果を2011年9月に実施された河合塾の第2回全統記述模試志望動向と比較した場合、河合塾では「文系」22.2%、「理系」10.2%、本調査では「文系」35%、「理系」14%であることから全国の志望動向とほぼ同様と言える。

デザイン系については、同じく河合塾の第2回全統記述模試志望動向では美術・デザインを合わせた志望動向は1.2%を示していた。本調査では59名(6%)で、デザイン系と文系、理系、その他の分野の併記を合わせると73名(7%)になる。

次に、1) 生活デザインってなんだろう Q. 生活デザイン学科のデザインに少し興味がありますか？ 2) 生活デザイン学科の特徴 Q. 最初に分野を決めずに学び始めることに、あなたは関心がありますか？ の項目で「興味を持てた」「関心がある」と回答したものと希望進路別に比較検討した。

1) 生活デザインってなんだろう Q. 生活デザイン学科のデザインに少し興味がありますか？ の問いに対して「興味を持てた」の回答43%について希望進路別を(図6)に示した。デザイン系、美術系の希望進路でない文系や理系の高校生のなかにも生活デザイン学科のデザインに興味を持ったと思われる。

さらに、希望進路別に各分野のなかで生活デザイン学科のデザインに「興味を持てた」

の割合について（図6－1）に示した。デザイン系、美術系では65％～68％でほぼ順当であると思う。文系、理系、その他の分野の希望進路においても32％～42％の値であった。この数値から、アンケートを実施した時点で進路に迷いがあった生徒が希望進路を変更する可能性はあると考えられる。

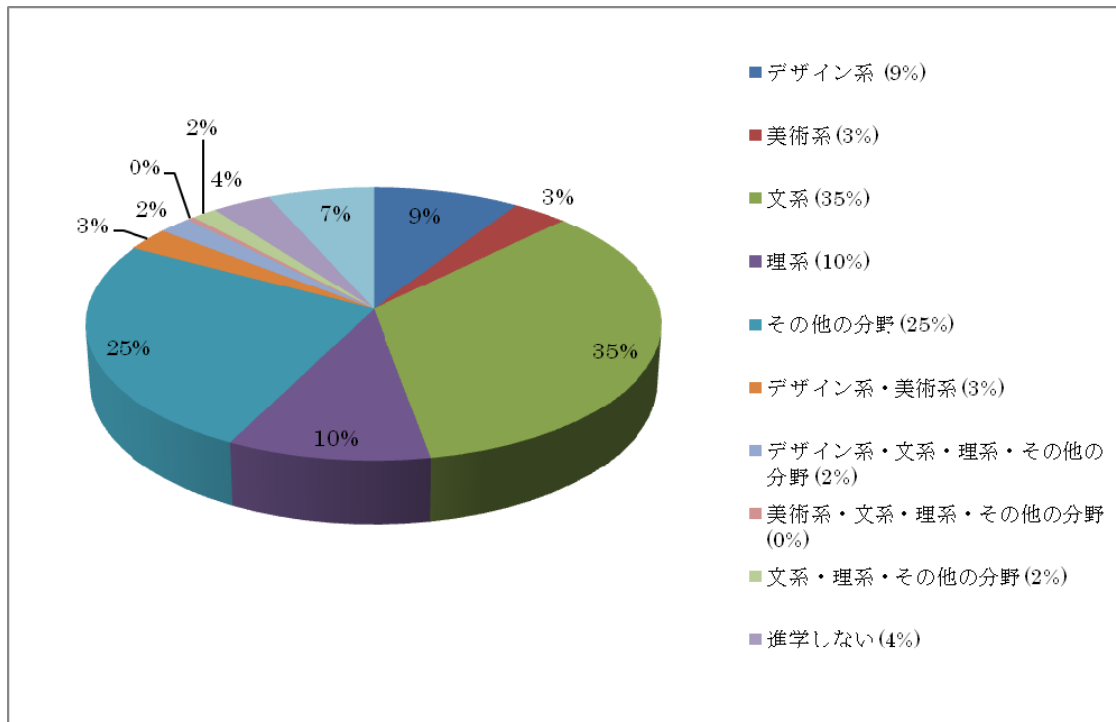


図6 希望進路別と生活デザイン学科に興味を持てた (%)

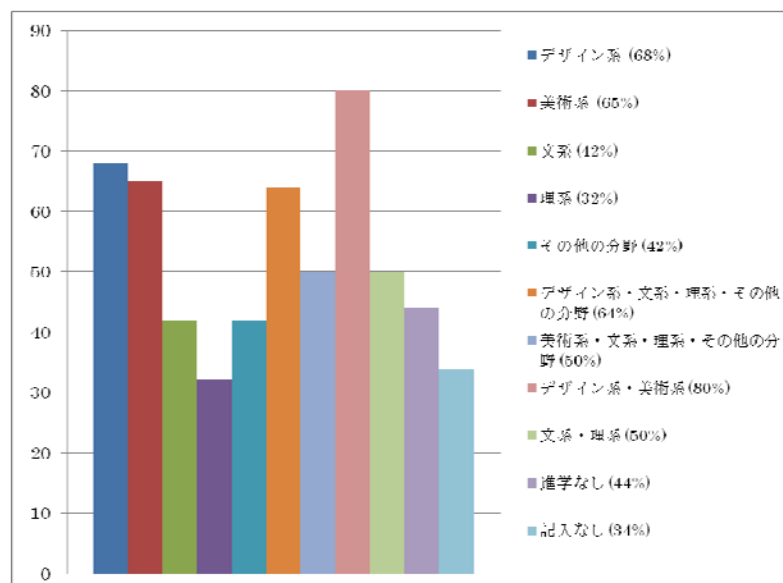


図6－1 各希望進路別分野と興味を持てた比較 (%)

興味を持てたと答えた高校生が「どういうところに興味を感じたか」の問いについての回答で、「デザインはみんなのもの」、「デザインが好き、興味がある、楽しそう」の上位2項目と希望進路の関係について（図6－2）に示した。このグラフから、文系、その他の分野、理系を希望進路にしているところが高い値であった。このことは生活デザイン学科の目指している生活デザインはデザイン系、美術系以外の高校生にも「デザインはみんなのもの」を身近に感じ、自分でも出来る範囲にあると理解されたと考えられる。

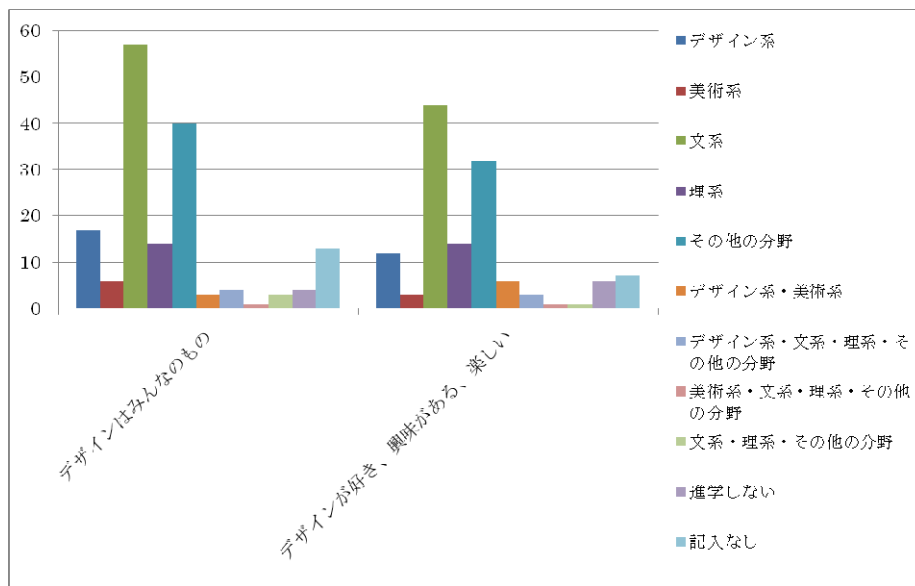


図6－2 希望進路別どういうところに興味を感じましたか（数）

2) 生活デザイン学科の特徴 Q. 最初に分野を決めずに学び始めることに、あなたは関心がありますか？ の問いに対して「関心がある」と回答した52%について希望進路別を（図7）に示した。生活デザイン学科の特徴としている「ある分野を決めずに学び始める」は希望進路に関係なく支持されたと考えられる。

さらに、希望進路別に各分野系での関心度について（図7－1）示した。関心が高かったのはデザイン系・美術系・デザイン系・美術系と文系・理系その他の分野と併記がある希望進路の65%～79%であった。また、文系56%、理系40%、その他の分野47%でも高い値を示した。このことから、希望進路が決定していても、まだ漠然としたものがあり最初に分野を決めずに学び始めてから自分に合ったものを見つけたいと思う気持ちがあると思われる。「分野が違うが自分の希望する進路の大学にこの方法があると良いのに」との記述も見られた。

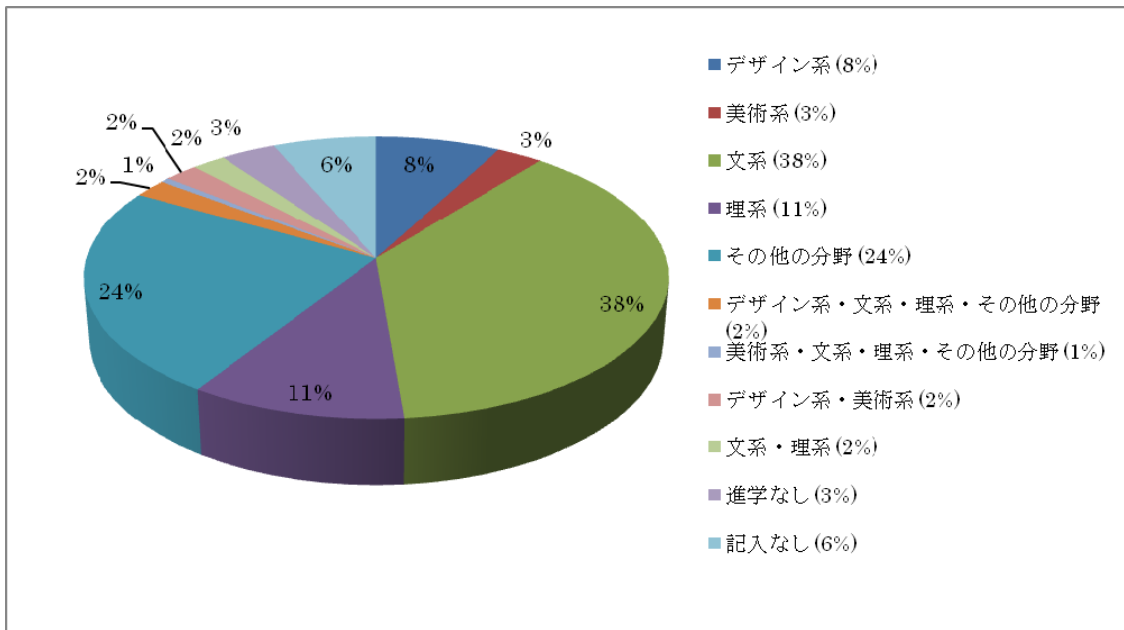


図 7 希望進路別と関心がある (%)

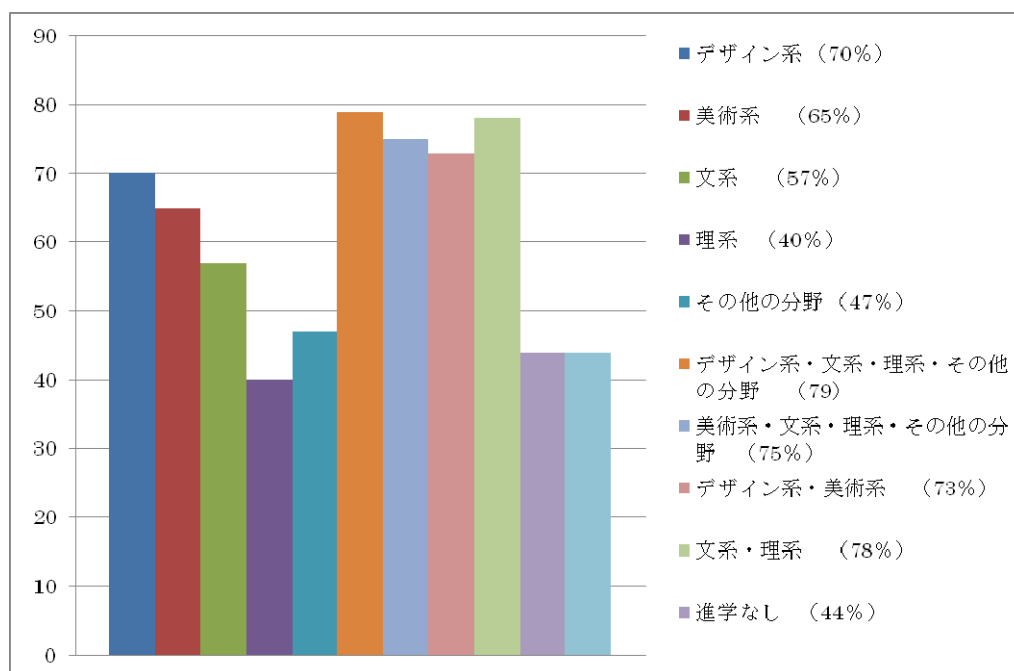


図 7-1 各分野希望進路と分野を決めずに学ぶ関心度の比較 (%)

関心があると答えた高校生が「なぜ関心がありますか」の問いについての回答で、「分野を決めずに学び、自分に合ったものを見つけたい」、「広い視野で物事を見つめることが出来る」の上位 2 項目と希望進路の関係について (図 7-2) に示した。

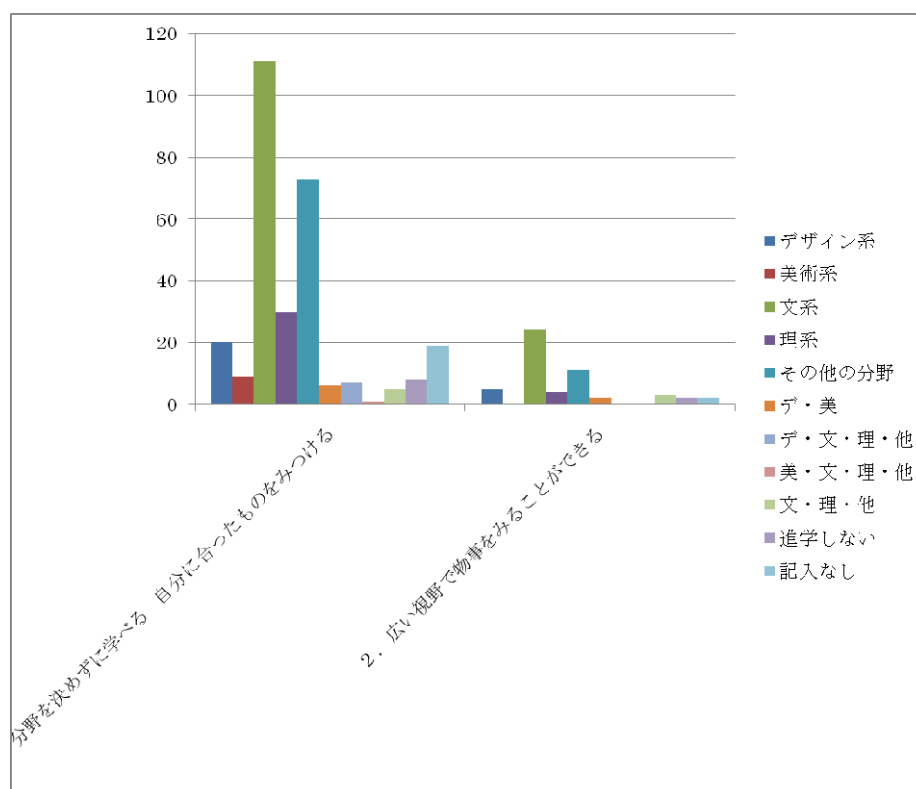


図 7-2 希望進路となぜ関心がありますか (数)

まとめ

アンケートの回答に対する記述欄からは、本学科の学びに対して半数近くの生徒が興味と関心を持ったと読み取ることができる。

アンケートを実施した高校（本学の高等部も含む）は全て本学科の指定校枠のある学校である。短期大学部での指定校推薦入試による入学者の実績が、ここ 5 年間の平均で入学者の 50%（資料 2-2）を占めていることをふまえ、この度アンケートの実施により以下のように本学科の四年制での学びの内容が理解されたと読み取れることから、AO入試、一般入試等も含めて 45 名の入学者を確保できる可能性は高いと推測できる。

1. 「デザインはみんなのもの」それがデザイン学科の原点です。この考え方に対して、約半数の高校生が興味を持ち理解を得られたと判断できる。
2. 生活デザイン学科の特徴「最初に分野を決めずに学び始めること」に対して、半数以上の高校生が関心を持った。特に分野を決めずに学び自分を見つけないと回答は 77%と高い値であったことから、十分理解されたと判断できる。

3. 生活デザイン学科で学んだ後の進路についての関心は、デザイナー、コーディネーターおよび、デザイン・商品企画・開発、宣伝業務であり、デザインに係わる仕事に就けることであった。
4. 学芸学部所属であるので、美術大学の専門分野のみを学ぶイメージが少なく、デザインの実技に加えて一般教養や各工房をクロスオーバーして学ぶことに意味があると理解されたことが読み取れる。
5. 希望進路は高校生の35%が文系志望であった。この結果を2011年9月に実施された河合塾の第2回全国統一記述模試志望動向と比較した場合、河合塾では文系22.2%、理系10.2%。本学の調査では文系35%、理系14%であることから全国の志望動向とほぼ同様と考えられる。デザイン系については、河合塾の志望動向では美術、デザインを合わせた志望動向は1.2%を示した。本調査では6%（57名）、デザイン系と文系、理系、その他の分野併記を合わせると7%（73名）になる。また、希望進路の記入なし（91名）のなかには、アンケートを実施した時点で進路に迷いがあった生徒であると考えられ、アンケートにより本学科の学びが理解され希望進路を変更する可能性が期待できると思われる。

以上のことから、今回実施したアンケート調査により、今後本学指定校をはじめ受験生に対する学科説明、オープンキャンパス、学校案内などのPR活動により生活デザイン学科を受験対象とする受験生を増やすことに努めることで入学者の確保が出来るものと思われる。

以上

		2013(25)				2014(26)				2015(27)				2016(28)					
		デザインを知る		専門領域を知る		専門領域にトリアル		自分発見		専門領域を中心に生活デザインを深める		専門領域を中心に実践する				小計			
		1セメ	単	2セメ	単	3セメ	単	4セメ	単	5セメ	単	6セメ	単	7セメ	単	8セメ	単		
全学共通科目	デザイン教養科目	●女性総合講座 ●基礎教育講座	2 2																
		小計	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4			
生活デザイン総合科目	基礎講義科目	◎近・現代美術史	2	◎イメージと言葉	2	◎環境学	2					◎スモールビジネス	2						
		小計	2	2	2	0	0	2	2	2	0	0	0	8					
	基礎演習科目	●生活とデザイン (オムニバス授業)	2	◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック	2 2 2 2	◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理	2 2 2 2	◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史	2 2 2	◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	2 2								
		小計	2	8	8	6	4	0	0	0	28								
	基礎技法科目	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ	2 1 1 1 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ	2 1 1 2 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ	2 1 1 2 1 1 1	◎デザインプレゼンテーションスキル	1			◎PC環境	1						
		小計	9	10	9	1	0	1	0	1	0	30							
	基礎技法科目	◎ピンワーク ◎メタルワーク	1 1	◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	2 1 1 1	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	2 1 2 2	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現	1 2 2	◎ファブリックワーク	2	◎パッケージデザイン	2						
		小計	2	5	7	5	2	2	2	2	0	2	0	23					
	生活デザイン各論					◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造	2 2 2 2 2	●デザインプロジェクトⅠ ◎建築構法演習 ○空間デザインと構法 ○空間デザインと計画	2 2 2 2 2	◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造	2 2 1 2 2 2 2	●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2	2 2 2 2 2 2 2	2 2					
						◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ	2 2 2	◎パターンメイキングCAD 演習Ⅰ	2 2 2	◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ	2 2 2 2								
	資格支援科目					◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション	2 2 2	◎デジタルグラフィック演習	2 2 2	◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン	2 2 2								
						小計	22		11	26	2	2	2	63					
キャリア研	キャリア研	●キャリア研修Ⅰ (SPI対策を主な内容とする)	1			○カラーコーディネート演習 ○ファッションビジネス演習	1 1	○インテリアコーディネート演習 ○福祉住環境演習	1 1										
		小計	1			小計	2		2							4			
デザイン	デザイン	○デザイン研修Ⅱ(デザイン見学)・・・集中(隔年)								○デザイン研修Ⅰ(作品発表)・・・通年								2	
		○デザイン研修Ⅳ(デザインスキルアップ)・・・夏季集中								○デザイン研修Ⅲ(インターンシップ)・・・集中								2	
専門科目合計	専門科目合計	小計								小計								8	8
		小計								小計								8	8
年間単位数	年間単位数	45				65				48				12				170	
		45				65				48				12				170	

専門教育科目履修の流れ

■工房:建築工房

■目指す進路:1級建築士(実務経験3年)

		2013(25)				2014(26)				2015(27)				2016(28)					
		デザインを知る		専門領域を知る		専門領域にトリアル		自分発見		専門領域を中心に生活デザインを深める		専門領域を中心に実践する				小計			
		1セメ	単	2セメ	単	3セメ	単	4セメ	単	5セメ	単	6セメ	単	7セメ	単	8セメ	単		
全学共通科目	デザイン科目数	●女性総合講座 ●基礎教育講座 ◎英語Ⅰ ◎ラケットスポーツ ◎情報処理概論 小計	2 2 1 1 2 8	◎英語Ⅱ ◎球技スポーツ ◎社会学入門	1 1 2 4	◎文化人類学 ◎フランス語Ⅰ	2 1 2 3	◎哲学入門 ◎フランス語Ⅱ	2 1 2 3	◎脳の科学	2	◎ヨーロッパの社会と文化	2	◎アジア文化論	2				
		◎近・現代美術史 小計	2 2	◎イメージと言葉	2 2	◎環境学	2 2					◎スモールビジネス						24	
生活デザイン総合科目	デザイン教	◎生活とデザイン (オムニバス授業)	2	◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック	2	◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理	2 2 2 2	◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史	2 2 2 2	◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス							6		
		小計	2		2		6		0		0		0		0		16		
	基礎講義科目	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ 小計	2 1 1 1 1 1 2 9	◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ	2 2 2 2 1 1 2 7	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ	2 2 2 2 1 1 1 6	◎デザインプレゼンテーションスキル	1			◎PC環境	1				24		
		基礎演習科目	◎ピンワーク ◎メタルワーク 小計	1 1 1	◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	2 1 1 1	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	2 2 2 2	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現		◎ファブリックワーク		◎パッケージデザイン					12	
			基礎技法科目	◎ピンワーク ◎メタルワーク 小計	1 1 1	◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	2 1 1 1	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	2 2 2 2	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現		◎ファブリックワーク		◎パッケージデザイン					12
				小計	1		5		6		0		0		0		0		0
生活デザイン各論						◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造 ◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション 小計	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 12	●デザインプロジェクトⅠ ◎建築構法演習 ○空間デザインと構法 ○空間デザインと計画	2 2 2 2 2 2 2 2 9	◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造 ◎パターンメイキングCAD 演習Ⅰ ◎デジタルグラフィック演習	2 2 1 2 2 2 2 2 12	◎デザインプロジェクトⅡ-1 ◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン	2 2 2 2 2 2 2 2 12	●デザインプロジェクトⅡ-2	2			37	
		資格支援科目				○カラーコーディネート演習 ○ファッションビジネス演習 小計	1 1 0	○インテリアコーディネート演習 ○福祉住環境演習	1								1		
キャリア研	キャリア研	●キャリア研修Ⅰ (SPI対策を主な内容とする) 小計	1 1					●キャリア研修Ⅱ 社会人としての各領域におけるリテラシーを学習する 小計	1 1									2	
		デザイン																2	
専門科目合計	専門科目+全学合計		15		16		20		21		9		13		2		4	100	
			23		20		23		24		11		15		4		4	124	
年間単位数		43				47				26				8				124	

専門教育科目履修の流れ

■工房:室内

■目指す進路: 2級建築士(実務経験0年)、インテリアコーディネーター、インテリアテキスタイル関係

		2013(25)				2014(26)				2015(27)				2016(28)				
		デザインを知る		専門領域を知る		専門領域にトリアル		自分発見		専門領域を中心に生活デザインを深める		専門領域を中心に実践する				小計		
		1セメ	単	2セメ	単	3セメ	単	4セメ	単	5セメ	単	6セメ	単	7セメ	単	8セメ	単	
全学共通科目		●女性総合講座 ●基礎教育講座	2 2	英語Ⅰ 数理リテラシーⅠ	1 2	英語Ⅱ 数理リテラシーⅡ	1 2			文化人類学 映像文化論	2 2	脳の科学 球技スポーツ	2 1	社会学入門 フランス語Ⅰ 経済学入門	2 1 2	社会福祉行政論	2	
	小計		4		3		3		0		4		3		5		2	
デザイン教養科目		◎近・現代美術史	2	◎イメージと言葉	2	◎環境学	2					◎スモールビジネス	2					
	小計		2		2		2		0		0		2		0		0	
基礎講義科目		●生活とデザイン (オムニバス授業)	2	◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック	2 2 2 2	◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理	2 2 2 2	◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史	2 2 2	◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	2 2							
	小計		2		6		6		4		2		0		0		20	
生活デザイン総合科目		◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ	2 1 1 1 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ	2 2 1 1 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ	2 2 1 1 1 1 1	◎デザインプレゼンテーションスキル	1			◎PC環境						
	小計		9		5		4		1		0		0		0		19	
基礎技法科目		◎ピンワーク ◎メタルワーク	1 1	◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	2 1 1 1	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	2 1 2 2	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現		◎ファブリックワーク	2	◎パッケージデザイン	2					
	小計		1		4		4		0		2		2		0		13	
生活デザイン各論						◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造	2 2 2 2 2	◎空間デザイン領域		●デザインプロジェクトⅠ ◎建築構法演習 ○空間デザインと構法 ○空間デザインと計画	2 2 2 2 2	◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造	2 2 2 2 2 2	◎空間デザイン領域		●デザインプロジェクトⅡ-1 ◎空間デザインと設備 ◎建築施工 ◎建築法規 ◎建築構造	2 2 2 2 2 2	
						◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ	2 2 2	◎生産デザイン領域		◎パターンメイキングCAD 演習Ⅰ	2	◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ	2 2 2 2	◎生産デザイン領域		●デザインプロジェクトⅡ-2 ◎空間デザインと設備 ◎建築施工 ◎建築法規 ◎建築構造	2 2 2 2 2 2	
資格支援科目						◎カラーコーディネート演習 ○ファッションビジネス演習	1 1	◎インテリアコーディネート演習 ○福祉住環境演習	1 1									
	小計		1		1		2		2								3	
キャリア研		●キャリア研修Ⅰ (SPI対策を主な内容とする)	1			●キャリア研修Ⅱ 社会人としての各領域におけるリテラシーを学習する	1		1									
	小計		1				1		1								2	
デザイン研修Ⅱ		○デザイン研修Ⅱ(デザイン見学)・・・集中(隔年)																2
										○デザイン研修Ⅲ(インターンシップ)・・・集中								2
デザイン研修Ⅲ																		
	小計																	
専門科目合計		15		17		17		18		11		14		2		6	100	
専門科目+全学合計		19		20		20		18		15		17		7		8	124	
年間単位数		39				38				32				15				124

卒業単位数:124単位【専門科目:80(必修15・選択必修36・選択29) 全学共通科目:24(必修4・選択必修12・選択8) 自由科目20】
●:必修科目 ◎:選択必修科目 ○:選択科目 ※薄いグレー表示の科目は履修しない科目とした。履修全体の流れを確認できるよう、削除せずに薄いグレー表示で残した。

専門教育科目履修の流れ

■工房:ファッション

■目指す進路:アパレルメーカ(デザイナー、パタンナー、生産管理) ファッションアドバイザー

		2013(25)				2014(26)				2015(27)				2016(28)				
		デザインを知る		専門領域を知る		専門領域にトライアル		自分発見		専門領域を中心に生活デザインを深める		専門領域を中心に実践する						
		1セメ	単	2セメ	単	3セメ	単	4セメ	単	5セメ	単	6セメ	単	7セメ	単	8セメ	単	小計
全学共通科目		●女性総合講座 ●基礎教育講座 文化人類学 情報処理概論 英語Ⅰ 小計	2 2 2 6 1 13	脳の科学 社会学入門 英語Ⅱ 健康スポーツ	2 2 1 1 6	心理学 中国語Ⅰ	2 1 3	中国語Ⅱ ボランティア論	1 2 3									25
	デザイン教養科目	◎近・現代美術史 小計	2 2	◎イメージと言葉	2 2	◎環境学	2 0					◎スモールビジネス	2 2					
生活デザイン総合科目	基礎講義科目	●生活とデザイン (オムニバス授業) 小計	2 2	◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック	2 2 2 2	◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理	2 2 2 2	◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史	2 2 2	◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	2 2							8
		基礎演習科目	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ 小計	1 1 1 1 1 1 2 7	◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ	1 1 1 2 1 1 2 8	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ	1 1 2 1 1 1 2 7	◎デザインプレゼンテーションスキル	1 1 1 2 1 1 1 4			◎PC環境	1 1 1 2 1 1 1 0			18	
	基礎技法科目	◎ピンワーク ◎メタルワーク 小計	1 1 2	◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	1 1 1 3	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	1 1 2 2 5	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現	2 2 2 4	◎ファブリックワーク	2 2 2 2	◎パッケージデザイン	2 2 2 2					24
		生活デザイン各論					◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造 ◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション 小計	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 10	●デザインプロジェクトⅠ ◎建築構法演習 ○空間デザインと構法 ○空間デザインと計画 ◎パターンメイキングCAD 演習Ⅰ ◎デジタルグラフィック演習 小計	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造 ◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン 小計	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			18	
	資格支援科目					○カラーコーディネイト演習 ○ファッションビジネス演習 小計	1 1 2	○インテリアコーディネイト演習 ○福祉住環境演習	1 1 1									
キャリア研	●キャリア研修Ⅰ (SPI対策を主な内容とする) 小計	1 1				●キャリア研修Ⅱ 社会人としての各領域におけるリテラシーを学習する 小計	1 1 1											2
デザイン研		○デザイン研修Ⅰ(作品発表)・・・通年														2		
		○デザイン研修Ⅲ(インターンシップ)・・・集中														2		
	小計															4	4	
専門科目合計		14		19		20		19		10		9		2		6		99
専門科目+全学合計		27		25		23		22		10		9		2		6		124
年間単位数		52				45				19				8				124

卒業単位数:124単位【専門科目:80(必修15・選択必修36・選択29) 全学共通科目:24(必修4・選択必修12・選択8) 自由科目20】
●:必修科目 ◎:選択必修科目 ○:選択科目 ※薄いグレー表示の科目は履修しない科目とした。履修全体の流れを確認できるよう、削除せずに薄いグレー表示で残した。

専門教育科目履修の流れ

■工房:テキスタイル

■目指す進路:アパレル関連企業(デザイナー、アシスタント、商品企画)

		2013(25)				2014(26)				2015(27)				2016(28)				
		デザインを知る		専門領域を知る		専門領域にトライアル		自分発見		専門領域を中心に生活デザインを深める		専門領域を中心に実践する						
		1セメ	単	2セメ	単	3セメ	単	4セメ	単	5セメ	単	6セメ	単	7セメ	単	8セメ	単	小計
全学共通科目	●女性総合講座 ●基礎教育講座 英語Ⅰ 健康スポーツ	2 2 1 1		英語Ⅱ	1			社会学入門 情報処理概論	2 2	文化人類学 脳の科学	2 2	コミュニケーションスキルズ	2	生活の科学 ビジネススキルズ	2 2	民族文化論 映像文化論	2 2	
	小計	6			1		0		4		4		2		4		4	25
	◎近・現代美術史	2		◎イメージと言葉	2	◎環境学	2					◎スモールビジネス	2					
	小計	2			2		2		0		0		2		0		0	8
生活デザイン総合科目	●生活とデザイン (オムニバス授業)	2		◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック	2 2 2 2	◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理	2 2 2 2	◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史	2 2 2	◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	2 2							
	小計	2			8		4		2		4		0		0		0	20
	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ	1 1 1 1 1 1 2		◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ	1 1 1 2 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ	1 1 1 2 1 1 1	◎デザインプレゼンテーションスキル	1			◎PC環境	1					
	小計	6			8		7		1		0		1		0		0	23
基礎技法科目	◎ピンワーク ◎メタルワーク	1 1		◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	2 1 1 1	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	1 2 2 2	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現	2 2 2	◎ファブリックワーク	2	◎パッケージデザイン	2					
	小計	2			3		5		4		2		2		0		0	18
生活デザイン各論						◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造	空間デザイン 領域	2 2 2 2 2	●デザインプロジェクトⅠ	2	◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造	空間デザイン 領域	2 2 2 2 2	●デザインプロジェクトⅡ-1	2	●デザインプロジェクトⅡ-2	2	
				◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ	生産デザイン 領域	2 2 2		◎パターンメイキングCAD 演習Ⅰ	2	◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ	生産デザイン 領域		2 2 2					
				◎インタラクティブデザイン演習 ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション		視覚デザイン 領域	2 2 2	◎デジタルグラフィック演習	視覚デザイン 領域	2 2 2		◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン	視覚デザイン 領域	2 2 2				
					小計		4			4		6			2		2	
資格支援科目					○カラーコーディネート演習 ○ファッションビジネス演習	1 1	○インテリアコーディネート演習 ○福祉住環境演習											
	小計					2		0										2
キャリア研	●キャリア研修Ⅰ (SPI対策を主な内容とする)	1				●キャリア研修Ⅱ 社会人としての各領域におけるリテラシーを学 習する	1											
	小計	1					1											2
デザイン研						○デザイン研修Ⅱ(デザイン見学)・・・集中(隔年)		○デザイン研修Ⅰ(作品発表)・・・通年										2
								○デザイン研修Ⅲ(インターンシップ)・・・集中										2
						○デザイン研修Ⅳ(デザインスキルアップ)・・・夏季集中												2
	小計																	8
専門科目合計		13		21		20		12		10		11		2		10		99
専門科目+全学合計		19		22		20		16		14		13		6		14		124
年間単位数		41				36				27				20				124

卒業単位数:124単位【専門科目:80(必修15・選択必修36・選択29) 全学共通科目:24(必修4・選択必修12・選択8) 自由科目20】

●:必修科目 ◎:選択必修科目 ○:選択科目 ※薄いグレー表示の科目は履修しない科目とした。履修全体の流れを確認できるよう、削除せずに薄いグレー表示で残した。

専門教育科目履修の流れ

■工房：プロダクトI

■目指す進路：機器・製造・販売メーカー（製品企画・開発、社内広報担当）

		2013(25)				2014(26)				2015(27)				2016(28)				
		デザインを知る		専門領域を知る		専門領域にトリアル		自分発見		専門領域を中心に生活デザインを深める		専門領域を中心に実践する				小計		
		1セメ	単	2セメ	単	3セメ	単	4セメ	単	5セメ	単	6セメ	単	7セメ	単	8セメ	単	
全学共通科目		●女性総合講座 ●基礎教育講座 ◎英語Ⅰ	2 2 1	◎情報リテラシーⅠ ◎英語Ⅱ	1 1	◎ラケットスポーツ ◎情報リテラシーⅡ	1 1	◎社会学入門 ◎情報処理概論 ◎ビジネス実務総論	2 2 2	◎心理学 ◎脳の科学	2 2	◎文化人類学 ◎簿記基礎	2 2	◎イタリア語Ⅰ	1			
	小計		5		2		2		6		4		4		1		0	
生活デザイン総合科目	デザイン教養科目	◎近・現代美術史	2	◎イメージと言葉	2	◎環境学	2					◎スモールビジネス	2					
	小計		2		2		2		0		0		2		0		0	
	基礎講義科目	●生活とデザイン （オムニバス授業）	2	◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック	2 2 2 2	◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理	2 2 2 2	◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史	2 2 2	◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	2							
	小計		2		8		4		4		2		0		0		0	
	基礎演習科目	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ	2 1 1 1 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ	2 1 1 2 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ	2 1 2 2 1 1 1	◎デザインプレゼンテーションスキル	1			◎PC環境	1					
	小計		9		8		6		1		0		1		0		0	
	基礎技法科目	◎ピンワーク ◎メタルワーク		◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	2 1 1 1	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	2 1 2 2	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現	1 1 2	◎ファブリックワーク	2	◎パッケージデザイン	2					
	小計		1		4		5		1		2		2		0		0	
	生活デザイン各論						◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造		◎デザインプロジェクトⅠ	2	◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造		◎デザインプロジェクトⅡ-1	2	◎デザインプロジェクトⅡ-2	2		
					◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ	2 2 2	◎パターンメイキングCAD 演習Ⅰ	2		◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ	2 2 2 2							
				◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション	2 2 2	◎デジタルグラフィック演習	2	◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン		2 2 2								
小計							8		4		8		2		2		2	
資格支援科目					○カラーコーディネート演習 ○ファッションビジネス演習	1	○インテリアコーディネート演習 ○福祉住環境演習											
キャリア研	●キャリア研修Ⅰ （SPI対策を主な内容とする）	1				●キャリア研修Ⅱ 社会人としての各領域におけるリテラシーを学習する	1											
小計		1					1										2	
デザイン研		○デザイン研修Ⅰ（作品発表）・・・通年														2		
		○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）・・・集中														2		
	小計																4	
専門科目合計		15		22		18		16		8		13		2		6	100	
専門科目＋全学合計		20		24		20		22		12		17		3		6	124	
年間単位数		44				42				29				9				124

卒業単位数：124単位【専門科目：80（必修15・選択必修36・選択29） 全学共通科目：24（必修4・選択必修12・選択8） 自由科目20】
●：必修科目 ◎：選択必修科目 ○：選択科目 ※薄いグレー表示の科目は履修しない科目とした。履修全体の流れを確認できるよう、削除せずに薄いグレー表示で残した。

専門教育科目履修の流れ

■工房:プロダクト2

■目指す進路:アパレル雑貨・製造・販売メーカー(製品企画・開発、社内広報担当)

		2013(25)				2014(26)				2015(27)				2016(28)				
		デザインを知る		専門領域を知る		専門領域にトリアル		自分発見		専門領域を中心に生活デザインを深める		専門領域を中心に実践する				小計		
		1セメ	単	2セメ	単	3セメ	単	4セメ	単	5セメ	単	6セメ	単	7セメ	単	8セメ	単	
全学共通科目		●女性総合講座 ●基礎教育講座 ◎英語Ⅰ ◎健康スポーツ	2 2 1 1	◎情報リテラシーⅠ ◎英語Ⅱ	1 1	◎社会学入門 ◎情報リテラシーⅡ	2 1	◎脳の科学 ◎ビジネス実務総論 ◎情報処理概論	2 2 2	◎心理学 ◎文化人類学	2 2	◎簿記基礎	2	◎中国語Ⅰ	1			
	小計		6		2		3		6		4		2		1		0	
生活デザイン総合科目	デザイン教養科目	◎近・現代美術史	2	◎イメージと言葉	2	◎環境学	2					◎スモールビジネス	2					
	基礎講義科目	●生活とデザイン (オムニバス授業)	2	◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック	2 2 2 2	◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理	2 2 2 2	◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史		◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	2 2							
	基礎演習科目	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ	2 1 1 1 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ	2 1 1 1 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ	2 1 1 2 1 1 1	◎デザインプレゼンテーションスキル	1			◎PC環境	1					
	基礎技法科目	◎ピンワーク ◎メタルワーク	1 1	◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	1 1 1	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	1 1 2	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現	1	◎ファブリックワーク	2	◎パッケージデザイン	2					
	小計		9		7		6		1		0		1		0		0	24
生活デザイン各論			2		2		3		1		2		2		0		12	
						◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造	2 2 2 2	空間デザイン領域		●デザインプロジェクトⅠ ◎建築構法演習 ○空間デザインと構法 ○空間デザインと計画	2 2 2	空間デザイン領域		●デザインプロジェクトⅡ-1 ◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造	2 2 2 2	空間デザイン領域		
						◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ	2 2 2	生産デザイン領域		◎パターンメイキングCAD演習Ⅰ	2	生産デザイン領域		◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ	2 2 2	生産デザイン領域		
						◎インタラクティブデザイン演習 ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション	2 2 2	視覚デザイン領域		◎デジタルグラフィック演習	2	視覚デザイン領域		◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン	2	視覚デザイン領域		
	小計						10		4		8		2		2		26	
資格支援科目					○カラーコーディネート演習 ○ファッションビジネス演習	1 1	○インテリアコーディネート演習 ○福祉住環境演習											
キャリア研	●キャリア研修Ⅰ (SPI対策を主な内容とする)	1				●キャリア研修Ⅱ 社会人としての各領域におけるリテラシーを学習する	1											
デザイン研	小計	1					1										2	
デザイン研	○デザイン研修Ⅰ(作品発表)・・・通年																	2
	○デザイン研修Ⅱ(デザイン見学)・・・集中(隔年)																	2
	○デザイン研修Ⅲ(インターンシップ)・・・集中																	2
専門科目合計		16		19		17		15		10		13		2		8	100	
専門科目+全学合計		22		21		20		21		14		15		3		8	124	
年間単位数		43				41				29				11				124

卒業単位数:124単位【専門科目:80(必修15・選択必修36・選択29) 全学共通科目:24(必修4・選択必修12・選択8) 自由科目20】
●:必修科目 ◎:選択必修科目 ○:選択科目 ※薄いグレー表示の科目は履修しない科目とした。履修全体の流れを確認できるよう、削除せずに薄いグレー表示で残した。

専門教育科目履修の流れ

■工房:デジタルデザイン

■目指す進路:WEBデザイン、グラフィックデザインと各企業広報部(WEB系デザイン事務所・DTP系デザイン事務所・企業内広報部)

		2013(25)			2014(26)			2015(27)			2016(28)											
		デザインを知る		専門領域を知る		専門領域にトライアル		自分発見		専門領域を中心に生活デザインを深める		専門領域を中心に実践する		小計								
		1セメ	単	2セメ	単	3セメ	単	4セメ	単	5セメ	単	6セメ	単	7セメ	単	8セメ	単					
全学共通科目	デザイン教	●女性総合講座	2	◎情報リテラシーⅡ	2	◎メディア論	2	◎数理リテラシー	2	◎経済学入門	2											
		●基礎教育講座	2	◎情報ネットワーク論	2	◎球技スポーツ	1	◎脳の科学	2	◎情報システム論	2											
		◎情報リテラシーⅠ	1	◎文化人類学	2	◎情報処理概論	2	◎社会学入門	2													
		◎英語Ⅰ	1	◎英語Ⅱ	1		1	◎映像文化論	2													
		◎美術史	2						2													
		小計	8		6		5		8		4		0		0		0	31				
	デザイン教	◎近・現代美術史	2	◎イメージと言葉	2	◎環境学	2					◎スモールビジネス	2									
		小計	2		2		2		0		0		2		0		0	8				
	基礎講義科目	●生活とデザイン (オムニバス授業)	2	◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック	2 2 2 2	◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理	2 2 2 2	◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史		◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	2											
		小計	2		6		4		0		2		0		0		0	14				
	基礎演習科目	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ	2 1 1 1 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ	2 1 1 2 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ	1 1 2 2 1 2 1	◎デザインプレゼンテーションスキル	1			◎PC環境	1									
		小計	9		6		5		1		0		1		0		0	22				
	基礎技法科目	◎ピンワーク ◎メタルワーク	1 1	◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	2 1 1 1	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	2 1 2 2	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現	1 1 2	◎ファブリックワーク		◎パッケージデザイン	2									
		小計	2		4		7		5		0		2		0		0	20				
	生活デザイン各論					◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造	}	空間デザイン領域		●デザインプロジェクトⅠ	2	◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造	}	空間デザイン領域		●デザインプロジェクトⅡ-1	2	●デザインプロジェクトⅡ-2	2			
				◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ	}	生産デザイン領域					◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ	}				生産デザイン領域		◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン	}	視覚デザイン領域	2 2	
		◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション	}	視覚デザイン領域			2 2 2															
		小計							6		4		4		4		2		2	18		
	資格支援科目					○カラーコーディネート演習 ○ファッションビジネス演習	1	○インテリアコーディネート演習 ○福祉住環境演習														
		小計				1		0														1
	キャリア研	●キャリア研修Ⅰ (SPI対策を主な内容とする)	1			●キャリア研修Ⅱ 社会人としての各領域におけるリテラシーを学習する	1															
		小計	1				1															2
	デザイン研	○デザイン研修Ⅱ(デザイン見学)・・・集中(隔年)						○デザイン研修Ⅰ(作品発表)・・・通年												2		
		○デザイン研修Ⅲ(インターンシップ)・・・集中																		2		
		○デザイン研修Ⅳ(デザインスキルアップ)・・・夏季集中																		2		
		小計																		8	8	
専門科目合計			16		18		19		13		6		9		2		10	93				
専門科目+全学合計			24		24		24		21		10		9		2		10	124				
年間単位数		48				45				19				12				124				

卒業単位数:124単位【専門科目:80(必修15・選択必修36・選択29) 全学共通科目:24(必修4・選択必修12・選択8) 自由科目20】
●:必修科目 ◎:選択必修科目 ○:選択科目 ※薄いグレー表示の科目は履修しない科目とした。履修全体の流れを確認できるよう、削除せずに薄いグレー表示で残した。

専門教育科目履修の流れ

■工房:イラストレーション

■目指す進路:企業内グラフィックデザイン/企画広報担当

		2013(25)				2014(26)				2015(27)				2016(28)				
		デザインを知る		専門領域を知る		専門領域にトリアル		自分発見		専門領域を中心に生活デザインを深める		専門領域を中心に実践する				小計		
		1セメ	単	2セメ	単	3セメ	単	4セメ	単	5セメ	単	6セメ	単	7セメ	単	8セメ	単	
全学共通科目	デザイン科目数	●女性総合講座 ●基礎教育講座 ◎英語Ⅰ	2 2 1	◎文化人類学 ◎情報処理概論 ◎英語Ⅱ	2 2 1	◎脳の科学 ◎英語Ⅲ	2 1	◎社会学入門 ◎ラケットスポーツ	2 1	◎心理学	2	◎ヨーロッパの社会と文化	2	◎ビジネススキルズ	2	◎コミュニケーションスキルズ	2	
		小計	5		5		3		3		2		2		2		2	
基礎講義科目	◎近・現代美術史	2		◎イメージと言葉	2	◎環境学	2					◎スモールビジネス	2					
	小計	2		2		2		0		0		2		0		0		
基礎演習科目	●生活とデザイン (オムニバス授業)	2		◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック	2 2 2 2	◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理	2 2 2 2	◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史	2 2 2	◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	2 2							
	小計	2		8		8		4		4		0		0		0		
基礎技法科目	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ	1 1 1 1 1 2		◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ	1 1 2 1 1 2	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ	1 1 2 1 1 2	◎デザインプレゼンテーションスキル	1			◎PC環境	1					
	小計	6		7		6		1		0		1		0		0		
生活デザイン各論	◎ピンワーク ◎メタルワーク	1 1		◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎	1 1 1	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現	1 2 2	◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現	2 2	◎ファブリックワーク		◎パッケージデザイン	2					
	小計	2		2		5		4		0		2		0		0		
資格支援科目						◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造	空間デザイン領域	◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ	生産デザイン領域	◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造	空間デザイン領域	◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ	生産デザイン領域	◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン	視覚デザイン領域	●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2	20	
キャリア研	●キャリア研修Ⅰ (SPI対策を主な内容とする)	1				◎カラーコーディネイト演習 ◎ファッションビジネス演習		◎インテリアコーディネイト演習 ◎福祉住環境演習										
	小計	1		0														
デザイン		○デザイン研修Ⅱ(デザイン見学)・・・集中(隔年)								○デザイン研修Ⅰ(作品発表)・・・通年								2
		○デザイン研修Ⅳ(デザインスキルアップ)・・・夏季集中								○デザイン研修Ⅲ(インターンシップ)・・・集中								2
専門科目合計		13		19		21		16		8		11		2		10	100	
	専門科目+全学合計	18		24		24		19		10		13		4		12	124	
年間単位数		42				43				23				16				124

卒業単位数:124単位【専門科目:80(必修15・選択必修36・選択29) 全学共通科目:24(必修4・選択必修12・選択8) 自由科目20】
●:必修科目 ◎:選択必修科目 ○:選択科目 ※薄いグレー表示の科目は履修しない科目とした。履修全体の流れを確認できるよう、削除せずに薄いグレー表示で残した。

分野	科目名	単位	一級建築士		二級建築士			担当者
①建築設計製図	製図基礎 II	1						稲田 深智子(教授)
	建築CAD演習	2						内田 薫(兼任講師)
	建築CADプレゼンテーション	2						内田 薫(兼任講師)
	空間デザイン基礎 II	2	7	7	5	5	5	杉元 葉子(教授)
	建築デザイン演習 I	2						池田 雪絵(兼任講師)
	建築デザイン演習 II	2						杉元 葉子(教授)
	インテリアデザイン演習 II	2						竹内 邦隆(兼任講師)
②建築計画	住宅計画	2						稲田 深智子(教授)
	空間デザインと計画	2	7	7				杉元 葉子(教授)
	住宅デザインの歴史	2			7	7	7	片山 伸也(兼任講師)
	建築の歴史	2						岩谷 洋子(兼任講師)
③建築環境工学	空間デザインと環境	2	2	2				池田 雪絵(兼任講師)
④建築設備	空間デザインと設備	2	2	2				稲田 深智子(教授)
⑤構造力学	空間デザインと構造	2	4 50	4 40	40	30	20	西薊 博美(兼任講師)
	建築構造	2						西薊 博美(兼任講師)
⑥建築一般構造	空間デザインと構法	2	3	3	6	6	6	竹内 邦隆(兼任講師)
	建築構法演習	1						竹内 邦隆(兼任講師)
⑦建築材料	空間デザインと材料	2	2	2				杉元 葉子(教授)
⑧建築生産	建築施工	2	2	2	2	2	2	木原 数文(兼任講師)
⑨建築法規	建築法規	2	2	2	2	2	2	木原 数文(兼任講師)
⑩その他	製図基礎 I	1						稲田 深智子(教授)
	福祉住環境演習	1						田平 博嗣(兼任講師)
	人間工学	2						田平 博嗣(兼任講師)
	空間デザイン基礎 I	2						竹内 邦隆(兼任講師)
	CAD演習	2						内田 薫(兼任講師)
	インテリアデザイン演習 I	2						稲田 深智子(教授)
	デザインプロジェクト II-1	2						杉元 葉子(教授)
合計単位数		50	50	40	40	30	20	
建築実務の経験			3年	4年	0年	1年	2年	

区 分		3 年 次		4 年 次		小 計
		第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
全学共通科目	科目対応認定: 0～44単位					0～44
専 門 教 育 科 目	デザイン教養科目	◎近・現代美術史 ◎環境学	◎イメージと言葉 ◎スモールビジネス			4
	基礎講義科目	●生活とデザイン ◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理 ◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック ◎住宅計画 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史			12
	基礎演習科目	◎空間構成 ◎立体表現 (1) ◎平面表現 (1) ◎絵画表現 (1) ◎デッサン (1) ◎製図基礎Ⅰ (1) ●コンピュータ表現Ⅰ	◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ (1) ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ (1) ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ (1) ◎イラストレーション基礎Ⅰ (1) ●コンピュータ表現Ⅱ ◎デザインプレゼンテーションスキル (1) ◎PC環境 (1)	◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ (1) ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ (1) ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ (1) ◎イラストレーション基礎Ⅱ (1) ●コンピュータ表現Ⅲ (1)		12
	基礎技法科目	◎ピンワーク (1) ◎メタルワーク (1)	◎CAD演習 ◎製図基礎Ⅱ (1) ◎デザインスケッチ基礎 (1) ◎グラフィックデザイン基礎 (1) ◎プロダクト図面 (1) ◎アニメーション表現 ◎絵本表現	◎建築CAD演習 ◎デザインスケッチ応用 (1) ◎3DCG ◎写真表現 ◎ファブリックワーク	◎パッケージデザイン	8
	生活デザイン各論		◎建築デザイン演習Ⅰ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎建築CADプレゼンテーション ◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション ○空間デザインと材料 ○空間デザインと構造	◎建築構法演習 (1) ◎パターンメイキングCAD演習Ⅰ ◎デジタルグラフィック演習 ○空間デザインと構法 ○空間デザインと計画 ●デザインプロジェクトⅠ ●デザインプロジェクトⅡ-1	◎建築デザイン演習Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン ○空間デザインと設備 ○建築施工 ○建築法規 ○建築構造 ●デザインプロジェクトⅡ-2	20
	資格支援科目	○カラーコーディネイト演習 (1) ○ファッションビジネス演習 (1)	○インテリアコーディネイト演習 (1) ○福祉住環境演習 (1)			2
	キャリア研修	●キャリア研修Ⅰ (1)	●キャリア研修Ⅱ (1)			2
	デザイン研修	○デザイン研修Ⅰ(作品発表) ○デザイン研修Ⅱ(デザイン見学)	○デザイン研修Ⅲ(インターンシップ) ○デザイン研修Ⅳ(デザインスキルアップ)			2
	小 計	21	21	16	4	
	計	62	42	20		124

●:必修科目、◎:選択必修科目、○:選択科目、(1):1単位科目(その他は2単位科目)

○大学評議会規程

平成 15 年 1 月 23 日

制定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、相模女子大学学則第 52 条第 4 項及び模女子大学短期大学部学則第 46 条第 4 項の規程に基づき、大学院を含める大学評議会（以下「評議会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 評議会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 短期大学部長
- (5) 研究科長
- (6) 学科長（各学部及び短期大学部から各 1 名）
- (7) 経営管理センター長
- (8) 学生支援センター長
- (9) 教育研究支援センター長

(任期)

第 3 条 前条の委員は、前条に掲げる職を退いたときは、委員の資格を失う。

2 前条第 5 号及び 6 号の委員の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(審議事項)

第 4 条 評議会は、次の事項を審議する。

- (1) 学事に関する重要事項
- (2) 学生の身上に関する事項
- (3) 学則その他重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- (4) 大学予算の原案に関する事項
- (5) その他、学長の諮問事項

(招集及び議長)

第 5 条 評議会は、学長が招集し、その議長となる。

2 学長に事故があるときは、あらかじめ学長が指名した副学長がその職務を代行する。

3 評議会は、原則として毎月 1 回開催することとし、必要に応じて臨時に開催することができる。

4 評議会を招集するには 3 日以上前に会議の目的たる事項及び日時、場所を通知しなけ

ればならない。

(定足数及び議決)

第6条 評議会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 評議会の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長が決する。

(委員以外の出席)

第7条 議長が必要と認めたときは、委員以外の教職員に出席を求め、意見を聞くことができる。

(事務担当)

第8条 評議会に関する事務は、経営管理センターが担当する。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、評議会の議を経て理事会が決定する。

附 則

1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。

2 平成18年1月19日一部改正、平成18年1月19日から施行する。

3 平成18年10月12日一部改正、平成18年10月12日から施行する。

4 平成20年4月17日一部改正、平成20年4月1日から施行する。

○科会に関する通則

昭和 45 年 2 月 18 日

制定

(組織)

第 1 条 科会は当該学科に所属する専任教員をもって組織する。必要な場合には助手を加えることができる。

(学科長)

第 2 条 科会は、学科長を選挙する。

2 学科長の選挙は、科会構成員の 3 分の 2 以上出席する科会で行い、無記名単記の投票により過半数を得たものを当選とする。

3 第 1 回の選挙で過半数に達しない場合は、上位 2 者の間の決選投票による。

第 3 条 科会で選挙された学科長は、教授会の承認を得て決定される。

第 4 条 学科長の任期は 1 年とする。ただし、重任を妨げない。

2 任期満了以前に学科長が退任した場合、後任者の任期は前任者の任期の残余期間とする。

第 5 条 学科長は科会の承認を得て次の事項を行う。

(1) 当該学科の人事に関して教授会に提案。ただし、人事の取扱いに関しては、各教授会規則第 3 条第 3 号及び第 9 条の定めを準用し、出席者の過半数をもって決する。

(2) 次学年度の授業時間割の作成

(3) カリキュラムの改訂原案の作成

(4) 当該学科の共通施設の運営管理

(5) その他

附 則

1 この規則は、昭和 45 年 2 月 18 日より適用する。

2 平成 22 年 1 月 14 日一部改正、平成 22 年 1 月 14 日から施行する。

3 平成 23 年 2 月 9 日一部改正、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

○各種全学委員会通則

平成 22 年 1 月 14 日

制定

(趣旨)

第 1 条 この通則は、大学及び短期大学部を包括する全学的な管理運営に関して設置される各種の委員会（以下「全学委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(設置)

第 2 条 学長は、大学及び短期大学部を包括する全学的な管理運営に関して必要と認めた全学委員会を、大学評議会の議を経て、設置することができる。

2 全学委員会は、その任務に応じて、常置のものと臨時のものとのに区別される。

3 各学部等に設置される委員会については、本通則の適用外とする。

4 全学委員会のうち、固有の委員会規程を有する委員会については、その規程を優先し、必要に応じて本通則を準用する。

(任務及び権限)

第 3 条 全学委員会は、別表に定める任務を行うものとする。

2 学長は、全学委員会が決定した事項のうち、必要と認める事項については、大学評議会の議を経るものとする。

(全学委員会の構成)

第 4 条 全学委員会の構成は、別表によるものとする。

(委員の選定)

第 5 条 全学委員会の委員の選定は、別表によるものとする。

2 常置される全学委員会委員の任期は、1 年又は 2 年とし、再任を妨げない。ただし委員に欠員が生じた場合、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 臨時に設置される全学委員会は、その任務が終ったとき大学評議会の議を経て解散する。

4 大学評議会は、前第 2 項及び第 3 項の規定にかかわらずその決議により委員を罷免し、又は全学委員会を解散させることができる。

(委員長)

第 6 条 全学委員会は、別表に定める方法により委員長を決定する。

2 委員長は、全学委員会を召集し、その議長となる。

3 委員長は、全学委員会の記録を作成し、その活動結果を、文書をもって学長に報告するものとする。

(統括管理者)

第 7 条 全学委員会に、全学委員会が決定した事項の運用を統括するため、別表に定める

統括管理者を置くこととする。

2 統括管理者は、委員長を兼ねることができる。

(事務部門)

第8条 全学委員会の事務担当は、別表のとおりとする。

2 全学委員会は、その運営上必要と認めた場合、大学評議会の議を経て事務担当職員を委員に加えることができる。

(全学委員会内規)

第9条 全学委員会は、その運営上必要と認めた場合、大学評議会の議を経て内規を定めることができる。

(改正)

第10条 本通則及び全学委員会内規の改廃は、大学評議会の決議によるものとする。

附 則

1 この通則は、平成22年4月1日から施行する。

2 この通則の制定に伴い、「各種委員会通則（昭和44年12月10日制定）」は廃止する。

○相模女子大学共通教育機構規程

平成 20 年 9 月 10 日

制定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、全学の教養教育の充実を図る観点から相模女子大学共通教育機構（以下「共通教育機構」という。）を学長のもとに設置し、その組織および運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 共通教育機構は、相模女子大学および相模女子大学短期大学部（以下「本学」という。）の教養教育実施機関として、本学の目的、使命に則り、全学の教員が担う教養教育を円滑に実施することを目的とする。

(任務)

第 3 条 共通教育機構は、前条に掲げる目的を達成するために次の任務を行う。

- (1) 全学共通科目等に関する教育の理念、目標に関すること
- (2) 全学共通科目等の教育課程の人事および編成・改編に関すること
- (3) 全学共通科目等の予算および決算に関すること
- (4) 共通教育機構の自己点検・評価・FD に関すること
- (5) その他教養教育の実施に関すること

(組織)

第 4 条 共通教育機構には、次の教員を置く。

- (1) 共通教育機構長
- (2) 各共通教育部会長
- (3) 客員教員
- (4) その他必要な教員

(共通教育機構長)

第 5 条 共通教育機構長は副学長（教育担当）をもって充てる。

2 共通教育機構長の任期は、副学長（教育担当）の職を退いたときとする。

3 共通教育機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(共通教育機構運営委員会)

第 6 条 共通教育機構に、その管理運営に関する重要事項を審議するために共通教育機構運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 7 条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学共通科目等に関する教育の理念、目標に関すること

- (2) 全学共通科目等の教育課程の編成および改編に関する事
 - (3) 全学共通科目等を主として担当する専任教員および非常勤講師の人事に関する事
 - (4) 共通教育機構の予算および決算に関する事
 - (5) 共通教育機構の自己点検・評価・FDに関する事
 - (6) その他共通教育機構の管理運営に関する事
- (組織)

第8条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 共通教育機構長
 - (2) 各共通教育部会長
 - (3) 学部選出委員各1名
 - (4) 学習・生活支援グループマネージャー
- (任期)

第9条 前条第1号の委員は、前条に掲げる職を退いたときは、委員の資格を失う。

2 前条第2号、第3号および第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長および副委員長)

第10条 運営委員会に委員長を置き、共通教育機構長をもって充てる。

- 2 副委員長は、委員長を除く委員により選出する。
- 3 委員長は、運営委員会を招集し、その議事を主宰する。
- 4 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

(議事)

第11条 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 運営委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(部会)

第12条 共通教育機構に、教養教育を円滑に実施するために、全学共通科目等を共通教育系列と課程に区分し、その区分ごとに部会を置く。

2 共通教育機構に置く部会は、次のとおりとする。

- (1) 人文科学系列部会
- (2) 社会科学系列部会
- (3) 自然科学系列部会
- (4) 外国語教育系列部会（英語と英語以外の語学教員）
- (5) 健康教育系列部会
- (6) 情報教育系列部会
- (7) 司書・司書教諭課程部会
- (8) 教職課程部会

(任務)

第 13 条 部会は、次に掲げる任務を行う。

- (1) 教育課程の編成および実施に関すること
- (2) 時間割編成に関すること
- (3) 非常勤講師の採用計画に関すること
- (4) 自己点検・評価・FD に関すること
- (5) その他共通教育課程の実施に関して必要なこと

(部会長)

第 14 条 部会に、部会長を置く。

- 2 部会長は、当該部会に所属する教員から学長が任命する。
- 3 部会長の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

(部会会議)

第 15 条 部会長は、必要に応じ、部会会議を開催するものとする。

(事務)

第 16 条 共通教育機構の事務は、学生支援センターにおいて処理する。

(雑則)

第 17 条 この規程に定めるもののほか、共通教育機構に関し、必要な事項については、運営委員会の議を経て、共通教育機構長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 24 年 4 月 12 日一部改正、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

○相模女子大学・相模女子大学短期大学部ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程

平成 18 年 3 月 23 日

制定

（目的及び設置）

第 1 条 相模女子大学・相模女子大学短期大学部の教育理念及び学部・学科等の教育目標に基づき、教員の教育研究活動の質的向上・能力開発、授業改善に資することを目的とし、教育方法の研究、工夫を積極的に推進するため、学長の下に、相模女子大学・相模女子大学短期大学部ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（任務）

第 2 条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項の推進を図ることを任務とする。

- （1） 教育研究活動改善の方策に関する事項
- （2） 教員の研修計画の立案・実施に関する事項
- （3） 授業改善のための基本方針の策定に関する事項
- （4） 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項
- （5） FD研修会及びFD講習会の開催に関する事項
- （6） FD活動報告書等の作成に関する事項
- （7） 紀要等の編集に関する事項
- （8） その他委員会が必要と認めた事項

（組織）

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- （1） 副学長（研究・情報担当）
- （2） 各学科から選出された者 各 1 名
- （3） その他必要に応じて学長が委嘱する者 若干名

（任期）

第 4 条 委員の任期は、職務上委員になる者を除き、2 年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前条第 2 号から第 3 号までの委員は、再任を妨げない。

（委員長等）

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長各 1 名を置く。

2 委員長は、第 3 条第 1 号の副学長をもってこれに充てる。

3 副委員長は、委員のうちから、委員長が指名する。

4 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 議決を要する事項については、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(合同会議)

第7条 この委員会は、必要に応じて大学院ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会と合同で会議を開催し、第2条に規定する任務を執行することができる。

2 合同会議の議長は副学長をもってこれに充て、副議長は議長が指名する。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育研究支援センターが行い、必要に応じて関係部署がこれに協力するものとする。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営等に関して必要な事項は、委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 平成18年7月20日一部改定、平成18年9月1日から施行する。

3 平成19年3月13日一部改定、平成19年4月1日から施行する。

4 平成20年3月6日一部改正、平成20年4月1日から施行する。

5 平成24年3月1日規程名を相模女子大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程から相模女子大学・相模女子大学短期大学部ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程に変更し、一部改正、平成24年4月1日から施行する。これに伴い従前の相模女子大学短期大学部ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程（平成18年3月23日制定）はこれを廃止する。

○相模女子大学自己点検評価委員会規程

平成 7 年 6 月 15 日

制定

(目的)

第 1 条 相模女子大学は、相模女子大学学則第 1 条の 2 及び相模女子大学大学院学則第 2 条に基づき、常に教育研究活動及び管理運営の現状を客観的に把握し、大学の理念・目的に照して点検評価し、改善すべき点を明らかにするとともに、将来の改革の方向を検討し、不断の努力を行うことを目的として、自己点検評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設ける。

(評価委員会の職務)

第 2 条 評価委員会は、本学の教育研究活動及び管理運営状況について行った点検結果を評価し、改善・改革の指針を策定する。

2 評価委員会は、自己点検・評価を恒常的並びに周期的に実施するため、次の各号について基本計画を策定する。

- (1) 点検・評価の実施単位に関する事項
- (2) 点検項目並びに点検内容の検討に関する事項
- (3) 評価基準の設定並びに検討に関する事項
- (4) 自己点検表の様式の設定並びに検討に関する事項
- (5) 自己点検評価報告書の作成に関する事項
- (6) 自己点検評価報告書の公示方法に関する事項
- (7) 評価委員会の運営に関する事項
- (8) その他委員長が必要と認めた事項

3 委員会は、自己点検・評価の実施体制、実施方法、評価結果の活用等について定期的に見直しを行い、自己点検・評価制度の改善に努める。

4 評価委員会委員は、点検評価の結果を報告書にまとめ理事長に報告するとともに、別に定める基準によって公表する。

(評価委員会委員の構成)

第 3 条 評価委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 理事長が指名する常務理事 2 人
- (5) 研究科長
- (6) センター長

(7) 企画政策グループマネージャー

(8) その他学長が委嘱する者若干人

2 評価委員会は、学長が委員長となる。

3 評価委員会の任期は、それぞれの役職又は職務在任期間とする。

(評価委員会の構成)

第4条 評価委員会は、第2条第2項の基本計画に基づき自己点検・評価を実施するために自己点検実施委員会（以下「実施委員会」という。）を設置する。

(自己点検・評価の実施単位)

第5条 自己点検・評価は、学部・学科、大学院及び各事務部門（以下「各機関」という。）を単位として実施する。

2 各機関は、自己点検・評価を実施するため、それぞれに個別自己点検・評価組織（以下「個別評価組織」という。）を設置しなければならない。

3 個別評価組織は、各機関の長から委嘱された委員により組織する。

(実施の周期)

第6条 自己点検・評価は、7年毎に実施する。

(実施委員会の職務)

第7条 実施委員会は、周期的に実施する自己点検・評価実施要領を作成し、自己点検・評価活動を統括する。

(1) 全学的に共通な自己点検・評価の視点・項目の設定

(2) 個別自己点検・評価組織（以下「個別評価組織」という。）で自己点検・評価を実施するために必要な細目の決定

(3) 自己点検・評価の実施スケジュールの明示

2 実施委員会は、円滑に自己点検・評価が実施されるために、各個別評価組織間の調整を行う。

3 実施委員会は、各個別評価組織において実施した点検・評価結果を検証し、全学的な視点による総合的かつ体系的な点検・評価を加えた全学自己点検・評価報告書（案）を作成し、評価委員会に提出する。

第8条 実施委員会は、次の委員をもって構成する。

(1) 副学長

(2) 次の個別評価組織の長

a 各学部・学科

b 大学院

c 各事務部局

d その他

2 実施委員会に委員長を置き、副学長がその任にあたる。

3 実施委員会委員長は必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。

4 実施委員会の委員長の任期は、役職又は職務在任期間とし、委員の任期は、1期2年とする。ただし、2期に限って重任することができる。

(実施委員会の招集)

第9条 実施委員会は、委員長の招集によって開催し、委員長が議長となる。

(事務局)

第10条 評価委員会並びに実施委員会の事務局は、経営管理センター総務グループが担当する。

2 事務局の事務は、経営管理センター長が統括する。

(改正)

第11条 この規程の改正は、「学校法人相模女子大学諸規程に関する規程」第4条の定めるところによる。

附 則

1 この規程は、平成7年4月1日から施行する。

2 平成9年2月21日一部改定、平成9年4月1日から施行する。

3 平成10年4月1日から施行する。

4 平成11年3月18日一部改定

5 平成11年5月20日一部改定、平成11年4月1日より施行する。

6 平成12年3月30日一部改定、平成12年4月1日から施行する。

7 平成17年4月14日一部改定、平成17年4月1日から施行する。

8 平成21年4月16日一部改正、平成21年4月16日から施行する。

9 平成24年4月26日一部改正、平成24年4月1日から施行する。

○学校法人相模女子大学企画委員会規程

平成 22 年 5 月 6 日

制定

(目的)

第 1 条 企画委員会（以下「委員会」という。）は、学園の事業、人事、財務、施設、組織その他学園の経営に関する重要な事項を立案し理事会に提案すること、又、理事会及び常任理事会で承認された事項を実施するに当たって問題があれば協議して解決し学園の経営が円滑に遂行されることを目的とする。

(構成)

第 2 条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもつて構成する。

2 委員長は、理事長とする。

3 副委員長は、専務理事とする。

4 委員は、次に掲げる者とする。

(1) 学事担当理事

(2) 財務担当理事

(3) 総務担当理事

(4) 学生・地域連携担当理事

(5) 経営管理センター長

(6) 学生支援センター長

(7) 教育研究支援センター長

(8) 併設支援センター長

(9) 企画政策グループマネージャー

(10) 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

(招集)

第 3 条 委員会は、原則として月 1 回、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは副委員長が議長となる。

(審議事項)

第 4 条 委員会は、次に掲げる事項に関して審議を行う。

(1) 学園全体又は個別の事業に関する事項

(2) 学園全体又は個別の財務に関する事項

(3) 学園諸施設の設置、変更、廃止及び運営に関する事項

(4) 組織、人事、規程、制度に関する事項

(5) 事務の合理化に関する事項

(6) 前各号に付帯する事項

(7) 予算委員会、職員人事委員会、施設整備委員会、情報システム委員会から提案された事項

(小委員会)

第5条 委員会の下部組織として、必要に応じ、小委員会を設けることができる。

2 小委員会は、本委員会委員の中から選出される者及び理事長又は学長の委嘱する者若干名をもってこれを構成する。

3 小委員会は、本委員会特命事項について専門的な検討、審議を行い、その結論を委員会に具申する。

(事務局)

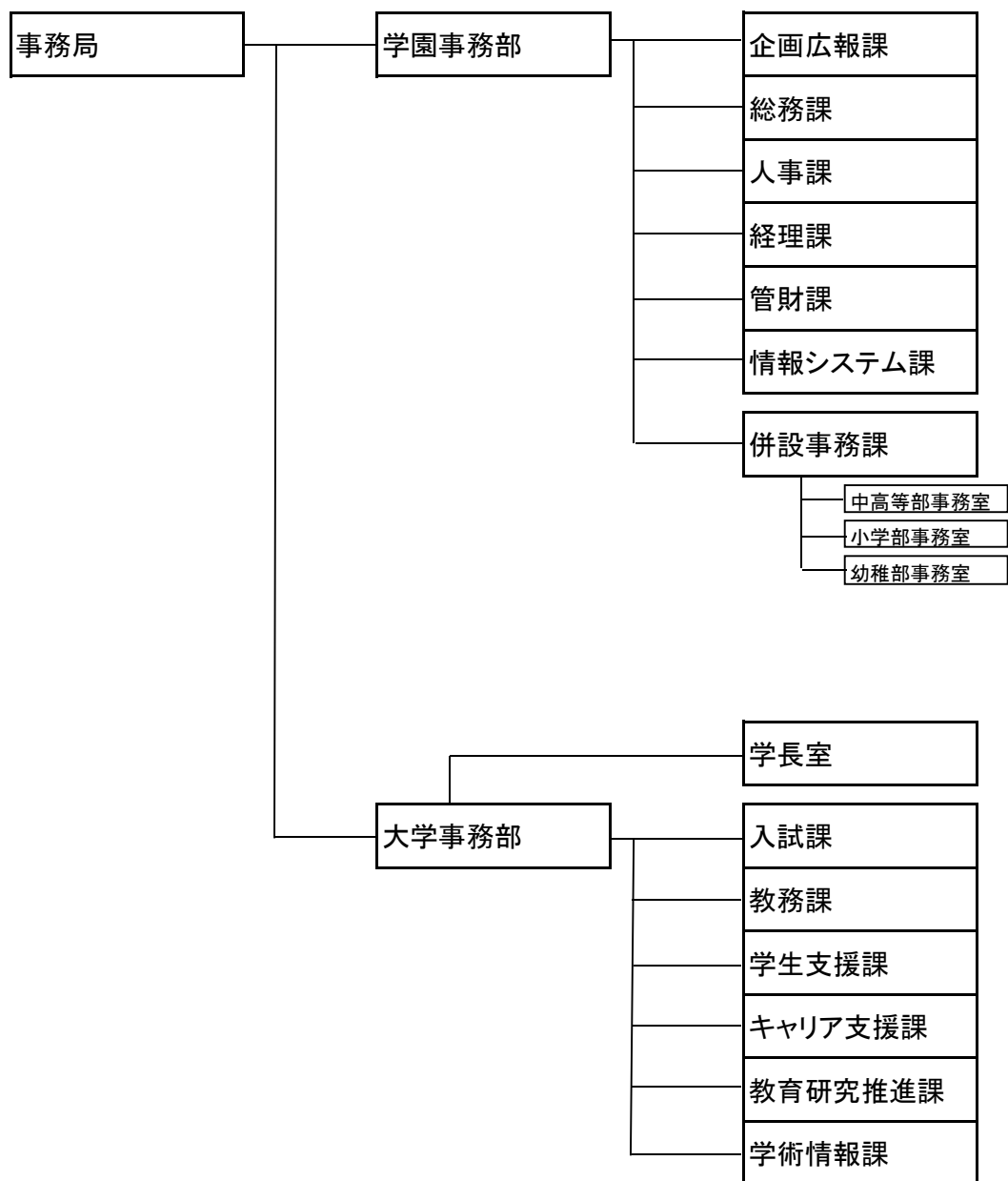
第6条 委員会の事務局は、経営管理センター企画政策グループとする。

2 事務局は、委員会の審議結果について議事録を作成する。

附 則

この規程は、平成 22 年 5 月 6 日から施行する。

事務機改編組織図



各種全学委員会通則別表

資料23

委員会名	任務	任期	構成	委員長の選定	統括	担当事務部門
全学教務委員会	①カリキュラムに関する事項 ②授業時間割編成方針に関する事項 ③試験並びに成績評価に関する事項 ④単位認定に関する事項 ⑤授業実施の条件整備並びに履修指導に関する事項 ⑥学年暦・学事日程に関する事項 ⑦その他学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数7名 副学長（教育担当） 各学部、短期大学部及び共通教育機構運営委員会から1名選出、学習・生活支援グループマネージャー。ただし栄養科学部は大学院兼任者を選出、適宜、学科からのオブザーバーを加えることができる	副学長（教育担当）、副委員長互選	副学長（教育担当）	学習・生活支援グループ
共通教育機構運営委員会	①全学共通科目等に関する教育の理念、目標に関する事項 ②全学共通科目等の教育課程の人事及び編成・改編に関する事項 ③全学共通科目等の予算及び決算に関する事項 ④教育機構の自己点検・評価・FDに関する事項 ⑤その他教養教育の実施に関する事項 （相模女子大学共通教育機構規程）	2年	委員定数14名 共通教育機構長 各共通教育部会長（人文・社会・自然・外国語・健康・情報・司書・教職） 各学部、短期大学部から1名選出 学習・生活支援グループマネージャー	共通教育機構長（副学長（教育担当））、副委員長互選	副学長（教育担当）	学習・生活支援グループ
全学学生支援委員会	①学生自治並びに課外活動に関する事項 ②学生の表彰並びに懲罰に関する事項 ③学生の福利厚生に関する事項 ④学生の健康管理に関する事項 ⑤学生の相談に関する事項 ⑥その他学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数6名 副学長（教育担当） 各学部、短期大学部から1名選出 学習・生活支援グループマネージャー。適宜、学科からのオブザーバーを加えることができる	副学長（教育担当）、副委員長互選	副学長（教育担当）	学習・生活支援グループ
全学入学委員会	①アドミッション・ポリシーに関する事項 ②入学試験制度に関する事項 ③入試日程に関する事項 ④入学試験の実施に関する事項 ⑤入学試験情報の公表及び開示に関する事項 ⑥学生募集に関する事項 ⑦その他学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数6名 副学長（総務担当） 各学部、短期大学部から1名選出 入学支援グループマネージャー。適宜、学科からのオブザーバーを加えることができる	副学長（総務担当）、副委員長互選	副学長（総務担当）	入学支援グループ
全学キャリア委員会	①全学的なキャリア支援教育に関する事項 ②具体的かつ実践的な就職活動支援に関する事項 ③その他学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数12名 副学長（教育担当）、 各学科から1名選出、 キャリア支援グループマネージャー	副学長（教育担当）、副委員長互選	副学長（教育担当）	キャリア支援グループ
ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会	①教育研究活動改善の方策に関する事項 ②教員の研修計画の立案・実施に関する事項 ③授業改善のための基本方針の策定に関する事項 ④学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項 ⑤FD研修会及びFD講習会の開催に関する事項 ⑥FD活動報告書等の作成に関する事項 ⑦紀要等の編集に関する事項 ⑧その他委員会が必要と認めた事項 （相模女子大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程、短期大学部同規程、大学院同規程）	2年	委員定数12名 副学長（研究・情報担当） 各学科から1名選出 FD支援グループマネージャー	副学長（研究・情報担当）、副委員長互選	副学長（研究・情報担当）	FD支援グループ

各種全学委員会通則別表

資料23

委員会名	任務	任期	構成	委員長の選定	統括	担当事務部門
全学教職委員会	①教職に関する学科目編成の立案に関する事項 ②教育実習の指導、運営に関する事項 ③教員免許状の申請に関する事項 ④教職課程の運営に関する事項 ⑤その他学長の諮問及び委嘱事項 ※全学教職委員会専門部会として、5学科教職課程担当者委員会及び子ども教育学科教職・保育士資格課程委員会を置く	2年	委員定数11名 教職課程2名及び国語担当1名、書道担当1名、英語担当1名、情報担当1名、家庭科担当1名、栄養教育担当（健康・管理）各1名、子ども教育学科1名、学習・生活支援グループマネージャー	委員会内互選	副学長（教育担当）	学習・生活支援グループ
教員免許状更新講習運営委員会	①講習開設の基本方針に関する事項 ②講習開設の計画立案及び実施に関する事項 ③講習のカリキュラム編成等に関する事項 ④予算及び決算に関する事項 ⑤講習開設に当たっての支援体制に関する事項 ⑥その他講習の実施及び運営に関する事項	1年	委員定数8名 幼・小教育担当者、国語科教育担当者、英語科教育担当者、家庭科教育担当者、栄養教育担当者、教職課程担当者、当該事務職員（2名）、その他委員長が必要と認めた者	委員会内互選	副学長（教育担当）	企画政策グループ
国際交流委員会	①大学間の国際交流計画に関する事項 ②大学間の国際交流協定に関する事項 ③その他学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数5名 各学部、短期大学部から1名選出及び学長が委嘱する若干名、学習・生活支援グループマネージャー	委員会内互選	副学長（総務担当）	生活支援担当
図書館運営委員会	①図書館の業務に関する事項 ②本規則の改廃又は内規の制定に関する事項 ③図書館資料の購入に関する事項 ④図書館予算の範囲内における図書選定に関する事項 ⑤その他、館長が必要と認める事項（図書館運営委員会規則）	2年	委員定数8名 附属図書館長が各学部、短期大学部から選定委嘱する教員各1名、附属図書館職員3名 適宜、学科からのオブザーバーを加えることができる	附属図書館長（招集者）	附属図書館長	学術情報グループ
エクステンション委員会	①エクステンション・ポリシーに関する事項 ②市民大学・公開講座等に関する事項 ③大学地域コンソーシアムに関する事項 ④その他学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数6名 副学長（総務担当） 各学部、短期大学部から1名選出 企画政策グループマネージャー	委員会内互選	副学長（総務担当）	企画政策グループ
学校法人相模女子大学情報化推進委員会・大学並びに短期大学部の教育・研究に関する部会	①教育・研究の情報化推進に関する事項 ②情報の蓄積、提供及び発信に関する事項 ③事務の情報化推進等に関する事項 ④その他委員会から付託された事項（情報化推進専門部会設置要項）	1年	委員定数9名 副学長（研究・情報担当）、附属図書館長、各学部教授会構成員のうちから学長が指名した者3名、短期大学部教授会構成員のうちから学長が指名した者1名、学生支援センター長、教育研究支援センター長、教育研究支援センター・マネージャー（情報システム担当）	部会内互選	副学長（研究・情報担当）	情報システムグループ

各種全学委員会通則別表

資料23

委員会名	任務	任期	構成	委員長の選定	統括	担当事務部門
ハラスメント防止・対策委員会	①ハラスメントへの対応策の検討と実行および対応策に関する学長への意見具申、報告 ②ハラスメントへの対応のための特別委員会の設置 ③ハラスメントの防止に関する広報、学習、研修その他ハラスメントに関して理解を深めるための機会と情報の提供 ④ハラスメントを行った者に対する教育・研修プログラムの立案 ⑤ハラスメントの被害者に対する救済措置の検討と実施 ⑥ハラスメント防止・対策委員会活動に関する年次報告 ⑦その他ガイドラインに基づき委員会が必要と判断した事項 (相模女子大学・相模女子大学短期大学部ハラスメント防止・対策委員会規程)	2年	委員定数7名 副学長（教育担当）、各学部、短期大学部、大学院から1名選出、学長が委嘱する助手及び学習・生活支援グループマネージャー、学長が委嘱する相談員若干名	委員会内互選	学長	学習・生活支援グループ
企画・広報委員会	①大学及び短期大学部の学内広報に関する事項 ②大学及び短期大学部の学外広報に関する事項 ③その他学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数6名 副学長（総務担当）、各学部、短期大学部から1名選出及び学長が委嘱する若干名、企画政策グループマネージャー	委員会内互選	副学長（総務担当）	企画政策グループ
ブランディング推進委員会	①ブランディングの推進に関する事項 ②その他学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数15名 学長、副学長、学長が委嘱する5～10名、企画政策グループマネージャー	学長	学長	企画政策グループ
研究倫理委員会	①研究実施計画及び出版公表原稿等の審査に関する事項 ②研究の検証に関する事項 ③その他研究上の倫理に関する事項 (相模女子大学研究倫理規程)	2年	委員定数8名 副学長（研究・情報担当）、各学部長、短期大学部長、大学院研究科長一般の立場を代表する外部者1人以上を含む法律・会計・倫理を専門とする者2人以上 学長が必要と認めた教員若干名 委員会が認めた者若干名	副学長（研究・情報担当）	副学長（研究・情報担当）	FD支援グループ
動物実験委員会	①動物実験の飼育管理及び動物実験に係る適正な実施確保に関する事項 ②動物実験計画書の審査に関する事項 ③その他学長の諮問及び委嘱事項 (相模女子大学動物実験に関する規程)	2年	委員定数若干名 学長が委嘱	委員会内互選	副学長（研究・情報担当）	FD支援グループ

各種全学委員会通則別表

資料23

委員会名	任務	任期	構成	委員長の選定	統括	担当事務部門
組換えDNA実験安全委員会	①実験に関する規程の制定改廃に関する事項 ②実験計画の文部科学省告示及び本規程への適合性の判断に関する事項 ③実験に係る教育訓練及び健康管理に関する事項 ④事故発生の際の必要な措置及び改善策に関する事項 ⑤学内の連絡調整に関する事項 ⑥その他実験の安全確保に関する学長の諮問及び委嘱事項 (相模女子大学組換えDNA実験に関する規程)	2年	委員定数若干名 学長が委嘱	委員会内互選	副学長（研究・情報担当）	FD支援グループ
研究費審議委員会	①各種研究費に関する事項 ②学術図書刊行助成費に関する事項 ③海外出張助成費に関する事項 ④教員の留学に関する事項 ⑤その他学長の諮問及び委嘱事項	1年	委員定数20名 学長、副学長3名、各学部長、短期大学部長、大学院研究科長、各学科長、FD支援グループマネージャー	学長	学長	FD支援グループ
全学予算決算委員会	①大学・短期大学部全体の予算要求の調整に関する事項 ②大学・短期大学部全体の予算執行及び決算に関する学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数11名 学長、副学長3名、各学部長、短期大学部長、大学院研究科長、経営管理センター長、経理グループマネージャー	学長	学長	経理グループ
人事委員会	①教員人事に関する基本方針の策定に関する事項 ②教員人事に関する全学的な調整に関する事項 ③その他学長から付託された人事に関する事項 (相模女子大学・相模女子大学短期大学部人事委員会規程)	2年	委員定数9名 学長、副学長、学部長、大学院研究科長、短期大学部長、共通教育機構長 学長は、学科長を委員に加えることができる	学長	学長	企画政策グループ
全学教員評価委員会	①教員評価の実施に関する事項 ②評価結果の取りまとめに関する事項 ③その他学長の諮問及び委嘱事項	2年	委員定数8名 副学長、学部長、短期大学部長、事務部門のセンター長のうち学長が指名した者 1名、その他、評価が各領域・分野にわたって公正に行われるうえで、学長が委嘱する者若干名	副学長（総務担当）	副学長（総務担当）	FD支援グループ
自己点検評価委員会	①点検・評価の実施単位に関する事項 ②点検項目並びに点検内容の検討に関する事項 ③評価基準の設定並びに検討に関する事項 ④自己点検表の様式の設定並びに検討に関する事項 ⑤自己点検評価報告書の作成に関する事項 ⑥自己点検評価報告書の公示方法に関する事項 ⑦評価委員会の運営に関する事項 ⑧その他委員長が必要と認めた事項	2年	委員定数13名 学長、副学長、学部長、短期大学部長、 理事長が指名する常務理事2人、大学院研究科長、センター長、企画政策グループマネージャー、その他学長が委嘱する者若干名	学長	学長	企画政策グループ
学部・学科改編推進委員会	①学部・学科改編の推進に関する事項 ②その他学長の諮問及び委嘱事項	1年	委員定数17名 学長、副学長（総務担当）、学部長、短期大学部長、各学科長、企画政策グループマネージャー	学長	学長	企画政策グループ

○インテリアプランナーの資格について（登録資格取得）

受験資格：満 20 歳以上。

登録：試験合格後規定の登録資格の審査を経て登録を受けた者に付与される資格である。

登録資格

インテリア又は建築に関する課程で「個別に認められている課程」を認定申請予定。

以下認定内容を示す。

1. 認定のメリット

認定基準Ⅰに認定された場合、「当校の〇〇〇学科を卒業した場合、インテリアプランナーの登録に必要なインテリアに関する実務経験年数は2年です。」と記載することができる。

2. 認定基準等について

（1）認定される課程について

大学に置いて選択科目等を履修することにより、（2）の認定基準Ⅰの要件を満たす課程については、学校長が「インテリアプランナー登録資格に係る単位取得証明書」を発行するものに限る。

（2）認定基準の要件

認定基準Ⅰ

- ① 別表「インテリアに関する科目」（以下「別表」という。）に掲げる「インテリア関連科目（A）」又は「インテリア専門科目（B）」の必修科目の単位数が、合計で36単位以上（1,620時間以上）であること
⇒67単位以上あるので満たしている。
- ② 別表に掲げる「インテリア専門科目（B）」の必修科目の単位数が、合計で24単位以上（1,080時間以上）であること
⇒40単位以上あるので満たしている。
- ③ 別表の「科目の種別」に掲げる「インテリア（建築）設計〔実技〕」を必ず履修していること
⇒資格取得希望学生に必ず履修するように指導する。

インテリアプランナーに係る科目(登録資格取得)

資料25-2

区分		科目の種類		科目名称	担当者名	単位数	時間数*	
A	インテリア関連科目	美術基礎	歴 史	近・現代美術史	菅沼 稔(兼任講師)	2	30	
			意 匠	色彩論	長橋 仁美(兼任講師)	2	30	
			基礎技法	デッサン	関 菜穂子(兼任講師)	1	30	
				空間構成	中島 末由利(兼任講師)	2	60	
				立体表現	高橋 政幸(兼任講師)	1	30	
				平面表現	堀内 恭司(兼任講師)	1	30	
				デザインスケッチ基礎	高橋 政幸(兼任講師)	1	30	
				関連デザイン	空間デザイン基礎Ⅰ	竹内 邦隆(兼任講師)	2	60
		空間デザイン基礎Ⅱ	杉元 葉子(教授)		2	60		
		建築デザイン演習Ⅰ	池田雪絵(兼任講師)		2	60		
		建築デザイン演習Ⅱ	杉元 葉子(教授)		2	60		
		プロダクトデザイン基礎Ⅰ	松島 直文(教授)・樋口 千尋(講師)		2	60		
		テキスタイルデザイン基礎Ⅰ	池田 節子(准教授)		1	30		
		デザイン基礎	歴 史	建築の歴史	岩谷 洋子(兼任講師)	2	30	
				住宅デザインの歴史	片山 伸也(兼任講師)	2	30	
				プロダクトデザイン史	高橋 政幸(兼任講師)	2	30	
			意 匠	生活とデザイン	専任全員オムニバス授業(松島直文・稲田深智子・北谷しげひさ・杉元葉子・池田節子・門屋博・小林るり・角田千枝・樋口千尋)	2	30	
		生 活		住生活論	稲田 深智子(教授)	2	30	
A 合計						31	720	
B	インテリア専門科目	インテリア(建築)計画	計画基礎・概論	住宅計画	稲田 深智子(教授)	2	30	
			人間工学	人間工学	田平 博嗣(兼任講師)	2	30	
			室内環境	空間デザインと環境	池田 雪絵(兼任講師)	2	30	
				環境学	奈尾 信英(兼任講師)	2	30	
			設備設計	空間デザインと設備	稲田 深智子(教授)	2	30	
			インテリア演出計画	造形心理	瀬川 かおり(兼任講師)	2	30	
		インテリア(建築)の装備・施工	材 料	空間デザインと材料	杉元 葉子(教授)	2	30	
			構 法	空間デザインと構法	竹内 邦隆(兼任講師)	2	30	
				建築構法演習	竹内 邦隆(兼任講師)	1	30	
				空間デザインと構造	西薊 博美(兼任講師)	2	30	
			施 工	建築施工	木原 数文(兼任講師)	2	30	
			エレメント	生活とファブリック	牟田 緑(兼任講師)	2	30	
		インテリア(建築)の法規			建築法規	木原 数文(兼任講師)	2	30
		インテリア(建築)設計〔講義〕	製図技法	製図基礎Ⅰ	稲田 深智子(教授)	1	30	
				CAD演習	内田 薫(兼任講師)	2	60	
				建築CAD演習	内田 薫(兼任講師)	2	60	
				建築CADプレゼンテーション	内田 薫(兼任講師)	2	60	
			計画～監理 全般	空間デザインと計画	杉元 葉子(教授)	2	30	
			各種インテリア	インテリアデザイン演習Ⅰ	稲田 深智子(教授)	2	60	
				インテリアデザイン演習Ⅱ	竹内 邦隆(兼任講師)	2	60	
		インテリアコーディネート演習		鍵山 靖子(兼任講師)	1	30		
		インテリア(建築)設計〔実技〕 (必修)			製図基礎Ⅱ	稲田 深智子(教授)	1	30
B 計						40	810	
計						71	1,530	

* 時間数:大学設置基準に基づき、1単位45時間の学修を必要とする。ここでは、講義・演習等の授業形態によって、45時間の中で大学で行う授業時間数を表記している。

○インテリアコーディネーター(受験支援科目)

受験資格:制限は無し

試験内容	対応科目	担当者名
一次試験 インテリア商品と販売の基礎知識 インテリア商品・部材、インテリア販売、インテリア販売、 インテリア情報、コンサルティング、積算・見積もり、 住環境	インテリアコーディネイト演習 福祉住環境演習	鍵山 靖子(兼任講師) 田平 博嗣(兼任講師)
インテリア計画の技術の基礎知識 住宅構造、インテリア構成材、室内環境、 インテリア基礎、インテリア計画、表現技法、関連法規	人間工学 空間デザイン基礎 I 住宅計画 空間デザインと設備 空間デザインと材料 空間デザインと構造 空間デザインと構法	田平 博嗣(兼任講師) 竹内 邦隆(兼任講師) 稲田 深智子(教授) 稲田 深智子(教授) 杉元 葉子(教授) 西薊 博美(兼任講師) 竹内 邦隆(兼任講師)
二次試験 論文・プレゼンテーション試験	製図基礎 I 製図基礎 II インテリアデザイン演習 I インテリアデザイン演習 II	稲田 深智子(教授) 稲田 深智子(教授) 稲田 深智子(教授) 竹内 邦隆(兼任講師)

○福祉住環境コーディネーター(受験支援科目)

受験資格:制限は無し

試験内容(3級)	対応科目	担当者名
1. 少子高齢社会と共生社会への道 2. 福祉住環境整備の重要性・必要性 3. 在宅生活の維持とケアサービス 4. 高齢者の健康と自立 5. 障害者が生活の不自由を克服する道 6. バリアフリーとユニバーサルデザインを考える 7. 生活を支えるさまざまな用具 8. 住まいの整備のための基本技術 9. 生活行為別に見る安全・安心・快適な住まい 10. ライフスタイルの多様化と住まい 11. 安心出来る住生活 12. 安心して暮らせるまちづくり	福祉住環境演習 人間工学 住宅計画 空間デザインと設備 空間デザインと環境 社会福祉行政論(全学共通科目)	田平 博嗣(兼任講師) 田平 博嗣(兼任講師) 稲田 深智子(教授) 稲田 深智子(教授) 池田 雪絵(兼任講師) 引馬 知子(兼任講師)

○色彩検定(受験支援科目)

受験資格:制限は無し

試験内容(3級)	対応科目	担当者名
色のはたらき、光と色、色の表示、色彩心理、インテリア、 色彩調和、色彩効果、色彩と生活、ファッション、慣用色名	色彩論 カラーコーディネイト演習	長橋 仁美(兼任講師) 長橋 仁美(兼任講師)

資料27

所属	工房	専任教員	担当科目	兼任教員	担当科目	連絡担当
共通	—	—	—	菅沼 悠 広松由希子 奈尾信英 池田安弘 長橋仁美 田平博嗣 瀬川かおり 向坂文宏 関菜穂子 末正真礼生 中家八千代	◎近・現代美術史 ◎イメージと言葉 ◎環境学 ●基礎教育講座 ◎スモールビジネス ◎ファッションビジネス演習 ◎色彩論 ◎カラーコーディネイト演習 ◎人間工学 ◎福祉住環境演習 ◎造形心理 ◎デザインとビジネス ◎絵画表現 ◎デッサン ◎写真表現 ●キャリア研修Ⅱ	学科長
空間デザイン領域	建築工房	杉元葉子	●基礎教育講座 ●生活とデザイン ◎空間デザイン基礎Ⅱ ◎建築デザイン基礎Ⅱ ○空間デザインと材料 ○空間デザインと計画 ●デザインプロジェクトⅠ ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2 ○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅱ（デザイン見学） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）	池田雪絵 片山伸也 岩谷洋子 中島末由利 西園博美 木原数文 竹内邦隆	◎空間デザインと環境 ◎建築デザイン演習Ⅰ ◎住宅デザインの歴史 ◎建築の歴史 ◎空間構成 ○空間デザインと構造 ○建築構造 ○建築施工 ○建築法規 ◎空間デザイン基礎Ⅰ ◎建築構法基礎 ◎インテリアデザイン演習Ⅱ ◎空間デザインと構法	杉元葉子 杉元葉子 杉元葉子 杉元葉子 杉元葉子 杉元葉子 稲田深智子
	室内工房	稲田深智子	●基礎教育講座 ●生活とデザイン ◎製図基礎Ⅰ ◎製図基礎Ⅱ ◎インテリアデザイン演習Ⅰ ◎住宅計画 ○空間デザインと設備 ●デザインプロジェクトⅠ ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2 ○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）	内田薫 鍵山靖子	◎CAD演習 ◎建築CAD演習 ◎建築CADプレゼンテーション ○インテリアコーディネイト演習	稲田深智子 稲田深智子
生産デザイン領域	ファッション工房	角田千枝	●生活とデザイン ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎ピンワーク ◎ファッションデザイン演習Ⅱ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅱ ●デザインプロジェクトⅠ ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2 ○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）	小田巻淑子 瀬尾香 牟田緑 牛尾卓己 相武常雄 高橋政幸	◎体型とパターン ◎ファッションデザイン史 ◎ファッションデザイン基礎Ⅱ ◎ファッションデザイン演習Ⅰ ◎パターンメイキングCAD演習Ⅰ ◎生活とファブリック ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎メタルワーク ◎プロダクトデザイン史 ◎立体表現 ◎デザインスケッチ基礎 ◎デザインスケッチ応用	角田千枝 角田千枝 小林りり 小林りり 松島直文 松島直文
	テキスタイル工房	池田節子 小林りり	●基礎教育講座 ●生活とデザイン ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎ファブリックワーク ●デザインプロジェクトⅠ ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2 ○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）	盛合とうこ	○デザイン研修Ⅳ（デザインスキルアップ）	樋口千尋
	プロダクト1工房	松島直文	●基礎教育講座 ●生活とデザイン ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクト図面 ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ●デザインプロジェクトⅠ ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2 ○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）			
	プロダクト2工房	樋口千尋	●基礎教育講座 ●生活とデザイン ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ ◎パッケージデザイン ●デザインプロジェクトⅠ ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2 ○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）			
視覚デザイン領域	デジタルデザイン工房	門屋博	●基礎教育講座 ●生活とデザイン ◎コンピュータ表現Ⅲ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン ●デザインプロジェクトⅠ ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2 キャリア研修Ⅰ ○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）	村井潤子 及川玲奈 川合康央 堀内恭司	◎ビジュアルデザイン史 ●コンピュータ表現Ⅰ ◎アニメーション表現 ◎デザインプレゼンテーションスキル ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ ◎デジタルグラフィック演習 ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎3DCG ◎P.C環境 ◎平面表現 ◎グラフィックデザイン基礎	門屋博 門屋博 門屋博 北谷しげひさ
	イラストレーション工房	北谷しげひさ	●基礎教育講座 ●生活とデザイン ◎イラストレーション基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎イラストレーション演習Ⅱ ●デザインプロジェクトⅠ ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2 ○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ） ○デザイン研修Ⅳ（デザインスキルアップ）	高島那生 菊竹 雪	◎絵本表現 ◎アートディレクション	北谷しげひさ 北谷しげひさ

[illegible]

●：必修科目 ◎：選択必修科目 ○：選択科目

専門科目卒業単位：80単位

*1級・2級建築士受験資格要件として国土交通大臣が指定する指定科目

科目区分	科目名称	履修セメスタ	担当教員			備考	※1 指定科目	※2 指定科目
			工房専任	専任	兼任			
全学共通科目	●基礎教育講座	1	稲田	○	○	オムニバス方式		
デザイン教養科目	◎近・現代美術史	1			○		○	
	◎イメージと言葉	2			○			
	◎環境学	3			○		○	
	◎スモールビジネス	6			○			
基礎講義科目	●生活とデザイン	1	稲田	○		オムニバス方式	○	
	◎色彩論	2			○		○	
	◎人間工学	2			○		○	○
	◎生活とファブリック	2			○		○	
	◎空間デザインと環境	3			○		○	○
	◎住宅デザインの歴史	3			○		○	○
	◎造形心理	3			○		○	
	◎住宅計画	4	稲田		○		○	○
	◎建築の歴史	4					○	○
	◎デザインとビジネス	5						
基礎演習科目	◎空間構成	1			○		○	
	◎立体表現	1			○		○	
	◎平面表現	1			○		○	
	◎絵画表現	1			○		○	
	◎デッサン	1	稲田		○		○	
	◎製図基礎Ⅰ	1					○	○
	●コンピュータ表現Ⅰ	1			○			
	◎空間デザイン基礎Ⅰ	2			○		○	○
	◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ	2		○			○	
	●コンピュータ表現Ⅱ	2			○			
	◎空間デザイン基礎Ⅱ	3		○			○	○
	◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ	3		○				
	●コンピュータ表現Ⅲ	3		○				
	◎デザインプレゼンテーションスキル	4			○			
基礎技法科目	◎メタルワーク	1			○			
	◎CAD演習	2	稲田		○		○	○
	◎製図基礎Ⅱ	2					○	○
	◎デザインスケッチ基礎	2			○		○	
	◎建築CAD演習	3			○		○	○
	◎写真表現	3			○			
	◎ファブリックワーク	5		○				
生活デザイン各論	◎インテリアデザイン演習Ⅰ	4	稲田		○		○	○
	◎建築CADプレゼンテーション	4			○		○	○
	○空間デザインと材料	4		○			○	○
	○空間デザインと構造	4			○		○	○
	◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ	4		○				
	●デザインプロジェクトⅠ	5	稲田	○		共同授業方式		
	◎建築構法演習	5			○		○	○
	○空間デザインと構法	5			○		○	○
	○空間デザインと計画	5		○			○	○
	◎インテリアデザイン演習Ⅱ	6			○		○	○
	○空間デザインと設備	6	稲田				○	○
	○建築施工	6			○		○	○
	○建築法規	6			○		○	○
	○テキスタイルデザイン演習Ⅱ	6			○			
	●デザインプロジェクトⅡ-1	7	稲田			ゼミ方式		○
	●デザインプロジェクトⅡ-2	8	稲田			ゼミ方式		
資格支援科目	○カラーコーディネイト演習	3			○			
	○インテリアコーディネイト演習	4			○		○	
	○福祉住環境演習	4			○			○
キャリア研修	●キャリア研修Ⅰ	1		○				
	●キャリア研修Ⅱ	4			○			
デザイン研修	○デザイン研修Ⅱ（見学）	5		○				
	○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）	6	稲田	○		共同授業方式		

●：必修科目 ◎：選択必修科目 ○：選択科目

専門科目卒業単位：80単位

*1: インテリアプランナーに係わる科目

*2: *1級・2級建築士受験資格要件として国土交通大臣が指定する指定科目

専門科目卒業単位：80単位

テキスタイル工房の教育課程と教員配置／工房専任教員：小林 るり（池田 節子）										
目指す進路：アパレル関連企業（デザイナー、商品企画）										
科目区分	科目名称	履修 セメ スタ	担当教員			備考				
			工房 専任	専任	兼任					
全学共通科目	●基礎教育講座	1	小林 (池田)	○	○	オムニバス方式				
デザイン教養科目	◎近・現代美術史	1			○					
	◎イメージと言葉	2			○					
	◎環境学	3			○					
	◎スモールビジネス	6			○					
基礎講義科目	●生活とデザイン	1	小林 (池田)	○		オムニバス方式				
	◎色彩論	2			○					
	◎人間工学	2			○					
	◎体型とパターン	2			○					
	◎生活とファブリック	2			○					
	◎ビジュアルデザイン史	3			○					
	◎造形心理	3			○					
	◎プロダクトデザイン史	4			○					
	◎ファッションデザイン史	5			○					
	◎デザインとビジネス	5			○					
	基礎演習科目	◎立体表現			1		小林 (池田)		○	
◎平面表現		1			○					
◎絵画表現		1	○							
◎デッサン		1	○							
●コンピュータ表現Ⅰ		1	○							
◎ファッションデザイン基礎Ⅰ		2								
◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ		2								
◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ		2								
◎デジタルデザイン基礎Ⅰ		2	○							
◎イラストレーション基礎Ⅰ		2								
●コンピュータ表現Ⅱ		2			○					
◎ファッションデザイン基礎Ⅱ		3			○					
◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ		3	○							
◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ		3								
◎デジタルデザイン基礎Ⅱ		3								
◎イラストレーション基礎Ⅱ		3								
●コンピュータ表現Ⅲ		3	○							
◎デザインプレゼンテーションスキル		4	○							
◎P C 環境		6	○							
基礎技法科目		◎ピンワーク	1						○	
	◎メタルワーク	1	○							
	◎C A D 演習	2	○							
	◎デザインスケッチ基礎	2	○							
	◎デザインスケッチ応用	3	○							
	◎3D C G	3	○							
	◎写真表現	3	○							
	◎アニメーション表現	4	○							
	◎絵本表現	4	○							
	◎ファブリックワーク	5	○							
	◎パッケージデザイン	6	○							
	生活デザイン各論	◎ファッションデザイン演習Ⅰ	4	小林				○	共同授業方式	
		◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ	4	小林				○		
◎パターンメイキングC A D 演習Ⅰ		5								
●デザインプロジェクトⅠ		5								
◎ファッションデザイン演習Ⅱ		6	○							
◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ		6	○							
◎パターンメイキングC A D 演習Ⅱ		6								
●デザインプロジェクトⅡ-1		7								
●デザインプロジェクトⅡ-2	8	小林		ゼミ方式 ゼミ方式						
資格支援科目	○カラーコーディネイト演習	3			○					
	○ファッションビジネス演習	3			○					
キャリア研修	●キャリア研修Ⅰ ●キャリア研修Ⅱ	1 4		○	○					
デザイン研修	○デザイン研修Ⅰ（作品発表）	5・6	小林	○		共同授業方式				
	○デザイン研修Ⅱ（デザイン見学）	5	小林	○		共同授業方式				
	○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）	6								
	○デザイン研修Ⅳ（デザインスキルアップ）	3		○			○			

●：必修科目 ◎：選択必修科目 ○：選択科目

専門科目卒業単位：80単位

プロダクト1 工房の教育課程と教員配置／工房専任教員：松島 直文						
目指す進路：機器・製造・販売メーカー（製品デザイン、企画、開発）						
科目区分	科目名称	履修 セメ スタ	担当教員			備考
			工房 専任	専任	兼任	
全学共通科目	●基礎教育講座	1	松島	○	○	オムニバス方式
デザイン教養科目	◎近・現代美術史 ◎イメージと言葉 ◎環境学 ◎スモールビジネス	1 2 3 6			○ ○ ○ ○	
基礎講義科目	●生活とデザイン ◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史 ◎デザインとビジネス	1 2 2 2 2 3 3 4 4 5	松島	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	オムニバス方式
基礎演習科目	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ ◎ファッションデザイン基礎Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ ◎デザインプレゼンテーションスキル ◎P C環境	1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 4 6	 松島 松島	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 オムニバス方式 オムニバス方式
基礎技法科目	◎メタルワーク ◎C A D演習 ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎 ◎デザインスケッチ応用 ◎3D C G ◎写真表現 ◎プロダクト図面 ◎ファブリックワーク ◎パッケージデザイン	1 2 2 2 3 3 3 4 5 6	 松島	 ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
生活デザイン各論	◎テキスタイルデザイン演習Ⅰ ◎プロダクトデザイン演習Ⅰ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎アートディレクション ●デザインプロジェクトⅠ ◎デジタルグラフィック演習 ◎テキスタイルデザイン演習Ⅱ ◎プロダクトデザイン演習Ⅱ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2	4 4 4 4 5 5 6 6 6 6 7 8	松島 松島 松島 松島 松島	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ 	オムニバス方式 共同授業方式 ゼミ方式 ゼミ方式
資格支援科目	○カラーコーディネイト演習 ○福祉住環境演習	3 4			○ ○	
キャリア研修	●キャリア研修Ⅰ ●キャリア研修Ⅱ	1 4		○	○	
デザイン研修	○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ）	5・6 5	松島 松島	○ ○		共同授業方式 共同授業方式

●：必修科目 ◎：選択必修科目 ○：選択科目

専門科目卒業単位：80単位

[illegible]

デジタルデザイン工房の教育課程と教員配置／工房専任教員：門屋 博						
目指す進路：WEBデザイン、グラフィックデザインと各企業広報担当						
科目区分	科目名称	履修 セメ スタ	担当教員			備考
			工房 専任	専任	兼任	
全学共通科目	●基礎教育講座	1	門屋	○	○	オムニバス方式
デザイン教養科目	◎近・現代美術史 ◎イメージと言葉 ◎環境学 ◎スモールビジネス	1 2 3 6			○ ○ ○ ○	
基礎講義科目	●生活とデザイン ◎色彩論 ◎人間工学 ◎生活とファブリック ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理 ◎デザインとビジネス	1 2 2 2 3 3 5	門屋	○	○ ○ ○ ○ ○ ○	オムニバス方式
基礎演習科目	◎空間構成 ◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ◎製図基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ ◎デザインプレゼンテーションスキル ◎PC環境	1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 3 3 3 3 3 4 6		○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	オムニバス方式 オムニバス方式
基礎技法科目	◎ピンワーク ◎メタルワーク ◎CAD演習 ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎 ◎デザインスケッチ応用 ◎3DCG ◎写真表現 ◎プロダクト図面 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現 ◎パッケージデザイン	1 1 2 2 2 3 3 3 4 4 4 6		○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
生活デザイン各論	◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション ●デザインプロジェクトⅠ ◎デジタルグラフィック演習 ◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2	4 4 4 5 5 6 6 7 8	門屋 門屋 門屋 門屋 門屋 門屋	○ ○	○ ○	共同授業方式 ゼミ方式 ゼミ方式
資格支援科目	◎カラーコーディネイト演習	3			○	
キャリア研修	●キャリア研修Ⅰ ●キャリア研修Ⅱ	1 4	門屋		○	
デザイン研修	○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅱ（デザイン見学） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ） ○デザイン研修Ⅳ（デザインスキルアップ）	5・6 5 6 3	門屋 門屋	○ ○ ○	○ ○	共同授業方式 共同授業方式

●：必修科目 ◎：選択必修科目 ○：選択科目

専門科目卒業単位：80単位

イラストレーション工房の教育課程と教員配置／工房専任教員：北谷 しげひさ						
目指す進路：企業内グラフィックデザイン、企画広報担当						
科目区分	科目名称	履修 セメ スタ	担当教員			備考
			工房 専任	専任	兼任	
全学共通科目	●基礎教育講座	1	北谷	○	○	オムニバス方式
デザイン教養科目	◎近・現代美術史 ◎イメージと言葉 ◎環境学 ◎スモールビジネス	1 2 3 6			○ ○ ○ ○	
基礎講義科目	●生活とデザイン ◎色彩論 ◎人間工学 ◎体型とパターン ◎生活とファブリック ◎空間デザインと環境 ◎住宅デザインの歴史 ◎ビジュアルデザイン史 ◎造形心理 ◎建築の歴史 ◎プロダクトデザイン史 ◎ファッションデザイン史 ◎デザインとビジネス	1 2 2 2 2 3 3 3 3 4 4 5 5	北谷	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	オムニバス方式
基礎演習科目	◎立体表現 ◎平面表現 ◎絵画表現 ◎デッサン ●コンピュータ表現Ⅰ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅰ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅰ ◎デジタルデザイン基礎Ⅰ ◎イラストレーション基礎Ⅰ ●コンピュータ表現Ⅱ ◎テキスタイルデザイン基礎Ⅱ ◎プロダクトデザイン基礎Ⅱ ◎デジタルデザイン基礎Ⅱ ◎イラストレーション基礎Ⅱ ●コンピュータ表現Ⅲ ◎デザインプレゼンテーションスキル ◎P C 環境	1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 4 6	北谷	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	オムニバス方式 オムニバス方式
基礎技法科目	◎ビンワーク ◎メタルワーク ◎デザインスケッチ基礎 ◎グラフィックデザイン基礎 ◎デザインスケッチ応用 ◎3D C G ◎写真表現 ◎アニメーション表現 ◎絵本表現 ◎パッケージデザイン	1 1 2 2 3 3 3 4 4 4 6		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
生活デザイン各論	◎インタラクティブデザイン演習Ⅰ ◎イラストレーション演習Ⅰ ◎アートディレクション ●デザインプロジェクトⅠ ◎デジタルグラフィック演習 ◎イラストレーション演習Ⅱ ◎インタラクティブデザイン演習Ⅱ ◎マルチメディアデザイン ●デザインプロジェクトⅡ-1 ●デザインプロジェクトⅡ-2	4 4 4 5 5 5 6 6 6 7 8	北谷 北谷 北谷 北谷 北谷 北谷	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	共同授業方式 ゼミ方式 ゼミ方式
資格支援科目						
キャリア研修	●キャリア研修Ⅰ ●キャリア研修Ⅱ	1 4		○ ○	○ ○	
デザイン研修	○デザイン研修Ⅰ（作品発表） ○デザイン研修Ⅱ（デザイン見学） ○デザイン研修Ⅲ（インターンシップ） ○デザイン研修Ⅳ（デザインスキルアップ）	5・6 5 6 3	北谷 北谷 北谷 北谷	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	共同授業方式 共同授業方式

●：必修科目 ◎：選択必修科目 ○：選択科目

専門科目卒業単位：80単位